

2021年度
令和3年度

YEAR

BOOK

年 報

OSAKA HABIKINO MEDICAL CENTER

大阪はびきの医療センター

大阪はびきの医療センター

理念

私たちは、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。

基本方針

- ・あらゆる呼吸器疾患に対し、常に最高水準の医療を提供します。
- ・結核根絶に向けて全人的な医療を提供します。
- ・アレルギー疾患に対し、最新の知見を取り入れ、最適な医療を提供します。
- ・安心で頼りがいのある、府民と地域のための医療機関を目指します。
- ・誠意と温かみのある、やさしい看護を実践します。

ご あ い さ つ

大阪はびきの医療センター 院長 山口 誓司

当センター院長の山口でございます。日頃より当センターの運営にご協力頂きありがとうございます。

新型コロナ感染症発生から3年目となりましたが、ウイルスは次々と変異を繰り返し、感染力を増してきました。第7波は一番大きな波となり、最多感染者の更新が続きました。今までと比較して重症化の比率は低い傾向ですが、感染力は強くなり、小児の患者や若年者の患者が増え、それに伴い高齢者の感染が増え、高齢者の入院患者が増えました。さらに医師、看護師も含めた多くの医療者の感染、濃厚接触者発生が相次ぎ、当センターも一部診療機能の縮小を余儀なくされました。早く本来の診療体制に戻れることを願っております。

当センターは昭和27年大阪府の結核医療を担う病院として大阪府立結核療養所羽曳野病院の名称で320床で開院し、昭和32年度には1,000床まで拡大しました。その後、一般病床も加えた総合病院としての機能の充実を図り、昭和51年には大阪府立羽曳野病院へ、平成15年には大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターへと名称変更しました。平成18年度には府立5病院の地方独立行政法人化がなされ、平成29年に現在の大阪はびきの医療センターへと改称しております。

その間、結核はもとより難治性の呼吸器疾患、肺がんとアレルギー疾患の専門病院として専門医療に対応してきました。平成22年には大阪府がん診療拠点病院、平成26年には大阪府第2種感染症指定医療機関、平成30年には大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定されています。結核登録者情報調査年報集計結果では人口10万人あたり結核患者数は9.2人（令和3年）となり、日本もやっと結核の低蔓延国入りを果たしました。当センターも結核患者数の減少に伴い、現在は結核病床を60床、一般病床366床と併せて総病床数は426床となっています。

病院開設以来約70年となり、かつて入院患者の大半を占めていた結核患者に代わり、慢性閉塞性肺疾患（COPD）等の慢性呼吸器不全やアレルギー疾患が増えてきております。さらに肺がんが死亡率第一位となり、新興感染症が毎年のように発生してきています。

そこで、当センターではこのような疾患構造の変化に対応するため、呼吸ケアセンター、腫瘍センター、感染症センター、アトピー・アレルギーセンターの4センターを設置しております。

さらには地域の基幹病院として、小児科、循環器内科、消化器内科・外科、乳腺外科、眼科、泌尿器科、整形外科などの一般診療の充実を図るとともに、救急診療科を設置するなど救急医療の体制強化を行うほか、南河内医療圏内での産科診療施設の減少に対応すべくNICUや助産師外来を開設して周産期医療にも注力しております。

また、治療と看護、在宅療養との間の調整を看護師と薬剤師の専門スタッフが担っています。特に外来では呼吸器看護専門外来やがん看護専門外来を専門・認定看護師が担当し、薬剤師外来では専門薬剤師が抗がん剤の服薬と副作用確認や小児喘息の吸入指導を行っています。

令和3年4月からは地域医療支援病院として大阪府より承認され、新たな一步を踏み出しています。また令和5年春のオープンを目指して現在、新病院の整備工事を進めています。

今後とも、呼吸器・アレルギーの専門性を高めつつ、更に一般診療の充実を図ることで、南河内地域の基幹病院としての責務を果たしてまいります。

本年報は、令和3年度の活動を報告するものです。関係者の皆様方にはご一読頂き、是非とも、ご助言を賜り、大阪はびきの医療センターの今後の発展にご指導いただきますようお願い申し上げます。

目 次

第 1 概要

1.	病院の概要	1
2.	沿革	2
3.	主な施設及び医療機器	4
4.	組織及び人事	6
5.	運営会議、幹部会、各種委員会	1 2
6.	経営状況（決算）	1 9

第 2 業務の状況

1.	令和 3 年度 地域医療支援病院 業務実績	2 2
2.	医事統計	2 3
3.	診療情報管理室統計	2 8

第 3 各部局の活動状況

1.	診療各科	4 2
2.	薬局	9 7
3.	看護部	1 0 4
4.	情報企画室	1 2 3
5.	診療情報管理室	1 2 4
6.	栄養管理室	1 2 5
7.	患者総合支援センター	1 2 7
8.	医療安全管理室	1 3 0
9.	感染対策室	1 3 4

第1 概要

1. 病院の概要

名 称	大阪はびきの医療センター				
所 在 地	大阪府羽曳野市はびきの3丁目7番1号 〒583-0875 電話 072-957-2121 (代表)				
設立団体	地方独立行政法人大阪府立病院機構				
管 理 者	院 長	山口 誓司			
病 床 数	許可病床	結核病床	60 床	一般病床	360 床 感染症病床 6 床
	稼動病床	結核病床	60 床	一般病床	360 床 感染症病床 6 床
(令和3年4月1日現在)					
主な医療機器	CT (マルチスライス CT 2 台) MRI (1.5 T 1 台) RI アンギオリニアック 他				
病院機能指定	<ul style="list-style-type: none">・地域医療支援病院・エイズ治療拠点病院 (結核・重症呼吸器感染症を併発したエイズ患者)・大阪府がん診療拠点病院 (肺がん)・難治性多剤耐性結核広域圏拠点病院・日本医療機能評価機構認定病院・大阪府アレルギー疾患医療拠点病院・大阪府小児地域医療センター・第二種感染症指定医療機関・特定診療災害医療センター				
施設認定	<ul style="list-style-type: none">・WAO center of excellence・日本内科学会認定医制度教育関連病院・日本外科学会外科専門医制度修練施設・日本呼吸器学会内科系外科系指導施設・日本呼吸器学会認定施設・日本臨床腫瘍学会認定研修施設・日本がん治療認定医機構認定研修施設・日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設・日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設・日本呼吸器内視鏡学会認定施設・日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設・日本リウマチ学会教育施設・日本皮膚科学会認定専門医研修施設・日本小児科学会専門医研修施設・日本眼科学会専門医制度研修施設・日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設・日本気管食道科学会専門医研修施設 (咽喉系)・日本鼻科学会鼻科手術認可研修施設				

- ・日本感染症学会認定研修施設
- ・日本循環器学会認定専門医研修関連施設
- ・日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
- ・日本消化器外科学会修練関連施設
- ・日本乳癌学会認定施設
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設、インプラント実施施設
- ・母体保護法指定医師研修機関
- ・日本泌尿器科学会認定専門医教育施設
- ・日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
- ・日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・日本病理学会登録施設
- ・日本臨床細胞学会教育研修施設
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設
- ・日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設
- ・日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設
- ・薬学生実務実習受入施設
- ・認定臨床微生物検査技師研修施設
- ・日本超音波医学会認定超音波専門医研修連携施設
- ・日本呼吸療法医学会認定呼吸療法専門医研修施設
- ・日本臨床栄養代謝学会認定 NST 稼動施設

2. 沿 革

昭和 27 年 12 月 12 日	大阪府立結核療養所羽曳野病院として開院
昭和 28 年 1 月 10 日	業務開始 病床数 320 床
昭和 29 年 3 月 17 日	増 床 病床数 850 床
昭和 32 年 10 月 3 日	小児病棟増床 病床数 1,000 床
昭和 47 年 2 月 14 日	大阪府立結核療養所羽曳野病院附属高等看護学院が厚生大臣から看護婦養成所として指定
昭和 48 年 8 月 1 日	旧病棟閉鎖、新病棟業務開始
昭和 51 年 4 月 26 日	病院名称を大阪府立羽曳野病院に改称し、事業内容を、結核、アレルギー性疾患、その他これに伴う疾患に関する基幹病院としての医療、調査、研究及び研修に変更
昭和 51 年 5 月 19 日	管理診療棟業務開始
昭和 51 年 6 月 7 日	病床数の変更 結核病床 702 床 一般病床 208 床
昭和 52 年 8 月 1 日	病床数の変更 結核病床 648 床 一般病床 352 床
昭和 61 年 5 月 1 日	病床数の変更 結核病床 432 床 一般病床 568 床
平成 4 年 4 月 1 日	循環器内科設置
平成 6 年 4 月 1 日	内科一般(消化器)設置

平成 8 年 3 月 31 日	大阪府立羽曳野病院附属高等看護学院廃止
平成 10 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 320 床 一般病床 566 床
平成 10 年 6 月 1 日	外来リニューアルオープン
平成 12 年 10 月 28 日	病床数の変更 結核病床 316 床 一般病床 566 床
平成 13 年 2 月 28 日	結核外来棟新築工事竣工
平成 15 年 10 月 1 日	病院名称を、大阪府立呼吸器・アレルギー医療センターに改称
平成 16 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 200 床 一般病床 440 床
平成 17 年 5 月 29 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定
平成 18 年 4 月 1 日	地方独立行政法人大阪府立病院機構設立、事業移行
平成 20 年 3 月 10 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 440 床
平成 20 年 3 月 19 日	臨床研究部、研究棟の改修工事竣工
平成 20 年 3 月 28 日	小児病棟に結核モデル病室を設置
平成 20 年 4 月 1 日	消化器・乳腺外科設置
平成 20 年 7 月 4 日	マンモグラフィによる乳がん健診の開始
平成 20 年 9 月 1 日	入院結核患者に対する人工透析治療の開始
平成 20 年 10 月 1 日	南河内北部広域小児急病診療事業（松原市、羽曳野市、藤井寺市による小児休日診療所）からの後送患者の受け入れを開始
平成 20 年 10 月 1 日	外来化学療法科設置
平成 21 年 3 月 30 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 412 床
平成 21 年 4 月 1 日	病理診断科、リハビリテーション科、集中治療科を設置
平成 21 年 4 月 1 日	一般病棟入院基本料（7 対 1 看護体制）7 対 1 入院基本料を適用
平成 21 年 7 月 31 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 400 床
平成 22 年 1 月 15 日	発熱外来棟竣工
平成 22 年 2 月 26 日	感染症用陰圧病床改築工事竣工
平成 22 年 4 月 1 日	大阪府がん診療拠点病院（肺がん）に指定
平成 22 年 4 月 1 日	結核内科から感染症内科に名称変更
平成 22 年 7 月 2 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定(V.6)
平成 23 年 1 月 31 日	緩和ケア病棟(4B)改修工事竣工
平成 23 年 3 月 31 日	12 階トイレ福祉対策改修工事竣工
平成 23 年 3 月 31 日	陰圧手術室設置工事竣工
平成 23 年 4 月 1 日	緩和ケア科設置 緩和ケア病棟開設（20 床）
平成 23 年 4 月 1 日	病床数の変更 結核病床 150 床 一般病床 395 床
平成 24 年 3 月 30 日	管理診療棟耐震化工事竣工
平成 25 年 3 月 28 日	病床数の変更（感染症病床 増床） 結核病床 150 床 一般病床 395 床 第二種感染症病床 6 床
平成 26 年 3 月 29 日	第二種感染症病床設置工事竣工
平成 26 年 4 月 1 日	第二種感染症病床（6 床）開設
平成 26 年 6 月 27 日	病棟給排水改修（第 1 期）工事竣工
平成 26 年 7 月 1 日	結核病棟入院基本料 7 対 1 入院基本料を適用

平成 27 年 3 月 16 日	病床数の変更（結核病床 減床） 結核病床 100 床 一般病床 395 床 第二種感染症病床 6 床
平成 27 年 3 月 24 日	病床数の変更（結核病床及び一般病床 減床） 結核病床 68 床 一般病床 390 床 第二種感染症病床 6 床
平成 28 年 10 月 1 日	地域包括ケア病棟設置（1 病棟）
平成 29 年 3 月 1 日	病床数の変更（結核病床 減床） 結核病床 60 床 一般病床 390 床 第二種感染症病床 6 床
平成 29 年 4 月 1 日	病院名称を大阪はびきの医療センターに改称 耳鼻咽喉科及び臨床研究センターを設置
平成 30 年 3 月 31 日	病床数の変更（一般病床 減床） 結核病床 60 床 一般病床 360 床 第二種感染症病床 6 床
平成 30 年 6 月 1 日	大阪府アレルギー疾患医療拠点病院に指定
令和 2 年 4 月 1 日	泌尿器科設置
令和 2 年 6 月 5 日	日本医療機能評価機構病院機能評価認定(3rd:Ver2.0～)
令和 3 年 3 月 10 日	地域医療支援病院として府の承認（令和 3 年 4 月より運用開始）

3. 主な施設及び医療機器

(1) 土地・建物

敷地面積 88,470.00 m²

	名 称	敷地面積
A 地 区	管診・病棟周辺地区	88,470.00 m ²

建物面積

ア. 建 物 面 積 9,813.594 m²

イ. 延 面 積 44,618.680 m²

名 称	構 造	建築面積	延 面 積
病 棟 部 門	鉄筋コンクリート	m ²	m ²
	地上12階 地下0階	2,079.350	24,822.350
	地上1階	107.640	107.640
管 理 部 門	鉄筋コンクリート		
	地上2階 地下1階	7,626.604	19,688.690
	地上3階		
	地上1階		
合 計		9,813.594	44,618.680

(2) 主な医療機器

令和3年度に取得した1,000万円以上の医療機器一覧

令和4年3月31日時点

固定資産名	取得日付	取得価額	期末帳簿価額
据置型デジタル式乳房用X線診断装置	2022/3/1	52,600,664	52,600,664
ホルミウムレーザーシステム 一式	2022/3/1	35,774,100	35,774,100
移動型デジタル式汎用一体型X線透視診断装置	2022/3/1	16,283,587	16,283,587
診断用X線装置 一式	2022/3/1	11,099,719	11,099,719
超音波画像診断装置 キヤノンメディカルシステムズ(株) Xario 200G	2021/8/25	10,000,000	9,166,667

期末帳簿価額が1,000万円以上の医療機器一覧

令和4年3月31日時点

固定資産名	取得日付	取得価額	期末帳簿価額
放射線治療システム(機器分) バリアン社 TrueBeam	2017/3/24	431,650,000	65,359,005
据置型デジタル式乳房用X線診断装置	2022/3/1	52,600,664	52,600,664
コンピュータ断層撮影装置 シーメンスヘルスケア(株) SOMATOM DefinitionAS+アップグレード	2021/3/31	60,000,000	49,165,000
ホルミウムレーザーシステム 一式	2022/3/1	35,774,100	35,774,100
治療計画用CT装置等	2017/4/1	215,838,510	35,685,301
移動型デジタル式汎用一体型X線透視診断装置	2022/3/1	16,283,587	16,283,587
白内障手術装置 日本アルコン(株) センチュリオン	2020/6/1	21,959,442	13,907,647
診療費自動精算機システム グローリー(株) FFH-700	2021/3/31	17,700,000	13,865,000
内視鏡診察・処置システム オリソパ(株)他 VISERA ELITE II 他	2020/10/1	18,443,530	13,829,574
超音波画像診断装置 GEヘルスケア・ジャパン(株) Voluson E10 BT20	2020/6/1	16,415,501	12,653,616
診断用X線装置 一式	2022/3/1	11,099,719	11,099,719
超音波診断装置 キヤノンメディカルシステムズ Aplio i1800	2020/7/1	14,195,639	11,090,344

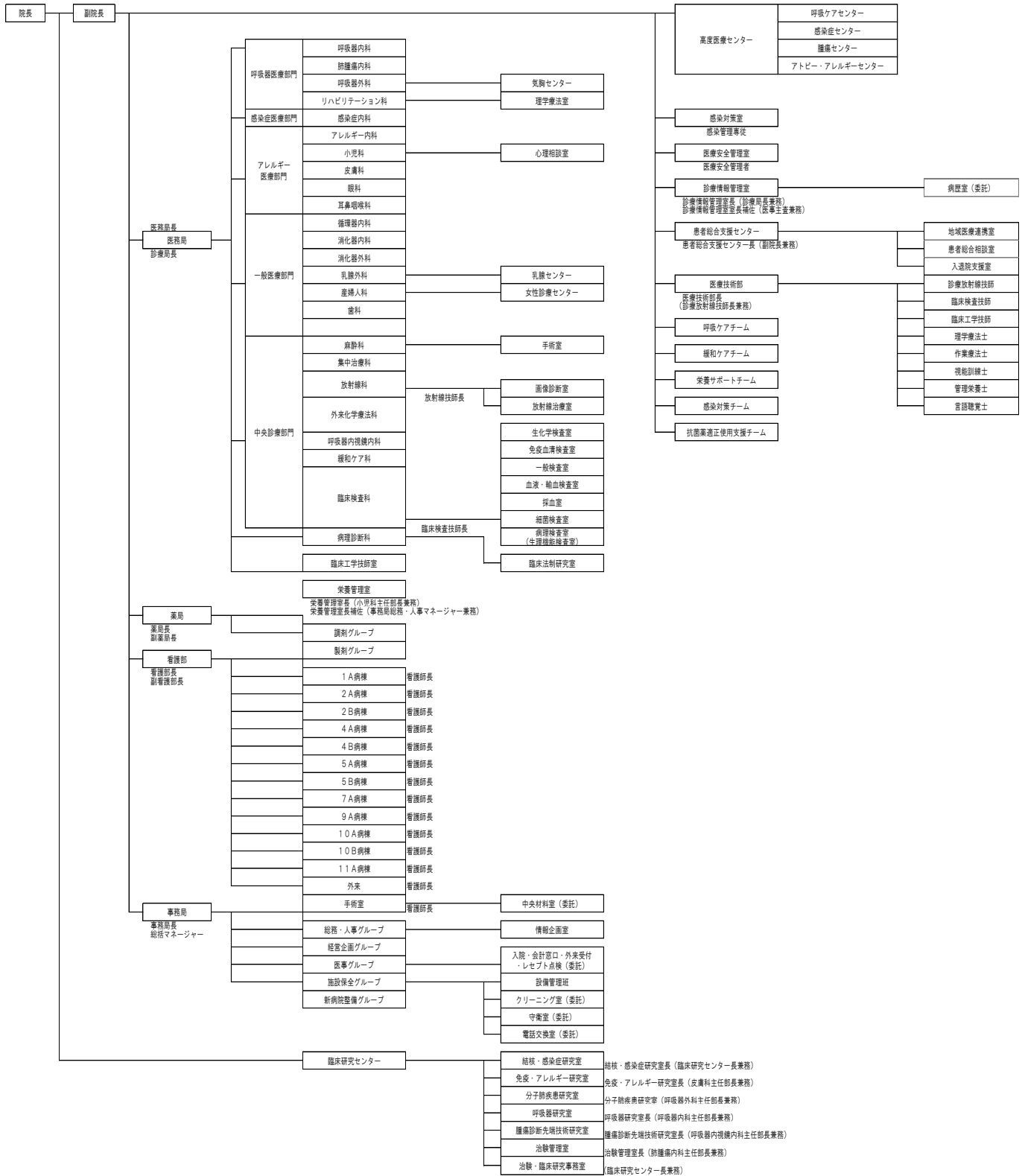
4. 組織及び人事

(1) 組織表



大阪はびきの医療センター

<令和3年度>
令和3年4月1日現在



(2) 令和3（2021）年度職種別人員推移表

(単位:人)

給料表別 月例	行政職(一)								医務職(一)		医務職(二)													医務職(三)	合計
	事務職員	一般行政	建築	ボーイ・技師	設備管理技術員	水道工	病棟婦夫	心療士	医師	歯科医師	薬剤師	栄養士	診療放射線技師	臨床検査技師	診療情報管理士	電子工学士	視能訓練士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床工学技士	社会福祉士	看護助手	看護師・准看護師・助産師	
令和3(2021)年度定員	22	2	1	0	2	0	0	0	73	1	14	3	14	24	2	1	2	3	1	1	2	1	3	354	526
令和3(2021). 4. 1	22	2	1	0	2	0	0	0	69	0	16	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	3	390	560
5. 1	22	2	1	0	2	0	0	0	69	0	16	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	3	390	560
6. 1	22	2	1	0	2	0	0	0	69	0	16	3	13	24	3	1	2	4	1	1	2	2	3	386	557
7. 1	22	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	13	24	3	1	2	4	2	1	2	2	3	382	552
8. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	69	0	15	3	13	24	3	1	2	4	1	2	2	2	3	382	552
9. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	69	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	3	382	550
10. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	3	381	548
11. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	3	378	545
12. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	68	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	3	377	544
令和4(2022). 1. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	67	0	15	3	13	24	3	1	2	3	1	1	2	2	3	376	542
2. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	67	0	15	3	13	23	3	1	2	3	1	1	2	2	3	374	539
3. 1	21	2	1	0	2	0	0	0	67	0	15	3	13	23	3	1	2	3	1	1	2	2	3	375	540
3. 31	21	2	1	0	2	0	0	0	67	0	15	3	13	23	3	1	2	3	1	1	2	2	3	375	540

(3) 主たる役職者

令和4(2022)年3月31日現在

役 職	氏 名	備 考	役 職	氏 名	備 考
院 長	山口 誓司		乳 腺 外 科 主 任 部 長	安 積 達也	
副 院 長	片岡 葉子		産 婦 人 科 主 任 部 長	赤 田 忍	
皮 膚 科 主 任 部 長	緒 方 篤		産 婦 人 科 副 部 長	安 川 久吉	
副 院 長	水守 勝裕		耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科 主 任 部 長	(川島佳代子)	診療局長兼務
事 務 局 長	河原 邦光		泌 尿 器 科 主 任 部 長	福 井 辰成	
医 務 局 長 兼	川島 佳代子		歯 科 部 長	-	欠員
病 理 診 断 科 主 任 部 長	松岡 洋人		麻 酔 科 主 任 部 長	高 内 裕司	
診 療 局 長 兼	鈴木 秀和		麻 酔 科 副 部 長	播 磨 恵	
耳 鼻 咽 喉 ・ 頭 頸 部 外 科 主 任 部 長	門田 嘉久		放 射 線 科 主 任 部 長	竹 下 徹	
呼 吸 器 内 科 主 任 部 長	北原 直人		放 射 線 科 副 部 長	堤 真一	
呼 吸 器 外 科 主 任 部 長	柏 庸三		外 来 化 学 療 法 科 主 任 部 長	(鈴木 秀和)	肺腫瘍内科主任部長兼務
呼 吸 器 外 科 副 部 長	永井 崇之		外 来 化 学 療 法 科 副 部 長	森 下 直子	
集 中 治 療 科 主 任 部 長	源 誠二郎		臨 床 検 査 科 主 任 部 長	田 村 嘉孝	
感 染 症 内 科 主 任 部 長	韓 由紀		病 理 診 断 科 主 任 部 長	(河原 邦光)	医務局長兼務
アレルギー・リウマチ内科主 任 部 長	松野 治		病 院 診 断 科 部 長	上 田 佳世	
アレルギー・リウマチ内科副 部 長	亀田 誠		リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 科 主 任 部 長	森 下 裕	
同	吉田 之範		呼 吸 器 内 視 鏡 内 科 部 長	-	欠員
小 児 科 主 任 部 長	高岡 有理		臨 床 研 究 セ ン タ ー 長	橋 本 章司	
小 児 科 部 長	(片岡 葉子)	副院長兼務	次世代創薬創生センター長	松 山 晃文	
小 児 科 副 部 長	-	欠員	薬 局 長	金 銅 葉子	
皮 膚 科 主 任 部 長	江 角 章		医 療 技 術 部 長	別 所 右一	
眼 科 部 長	原 田 博		看 護 部 長	岡 田 知子	
循 環 器 内 科 主 任 部 長	井 内 敦彦		副 看 護 部 長	羽 澤 三恵子	
循 環 器 内 科 副 部 長	-	欠員	同	豊 田 充代	
同	宮 崎 知		同	近 藤 勝美	
消 化 器 内 科 部 長	池田 公正		副 看 護 部 長 兼 看 護 師 長	森 本 恭子	
消 化 器 外 科 主 任 部 長	酒田 和也		同	泉 和江	
消 化 器 外 科 部 長	西谷 暁子		医 療 安 全 管 理 者	五十嵐美幸	
消 化 器 外 科 副 部 長					
同					

(4) 医務局等組織一覧表

令和4(2022)年3月31日現在

院長	理事	山口 誓 司	現員
副院長	部長	級片岡 葉 子	
副院長	部長	級緒方 篤	
医務局長	部長	級河原 邦 光	
診療局長	部長	級川島 佳 代 子	
			5

	主任部長	部 長	副 部 長	医 長	診 療 主 任	医 員	現員
呼吸器総合センター	呼吸器内科	松岡 洋 人			馬越 泰 生 田村 香 菜 子	山田 知 樹 酒井 俊 輔 柳瀬 隆 文 岡田 英 泰 岡部 福 子	10
	肺腫瘍内科	鈴木 秀 和			田中 彩 子		
呼吸器外科		門田 嘉 久		北原 直 人		杉浦 裕 典 安藤 鉦 史 郎 福 山 馨	5
集中治療科		柏 庸 三					1
感染症内科		永井 崇 之				北島 平 太	2
アレルギー・リウマチ内科		源 誠 二 郎		韓 由 紀 松 野 治		石 田 裕	4
小児科		亀田 誠	吉田 之 範	高岡 有 理	重川 周 鈞 深澤 陽 平	上野 瑠 美 希 子	7
皮膚科		(兼務 片岡 葉 子)			広瀬 晴 奈	坂本 幸 子	(1) 2
眼科							
循環器内科		江 角 章		原田 博 井内 敦 彦			3
消化器内科					山崎 尊 久	今村 信 子	2
消化器外科		宮崎 知	池田 公 正	酒田 和 也 西谷 暁 子	野間 俊 樹		5
乳腺外科		安積 達 也					1
産婦人科		赤田 忍		安川 久 吉	小川 憲 二 中野 和 俊	藤田 由 布 西川 恭 平	6
耳鼻咽喉科・頭頸部外科		(兼務 川島 佳代子)			花田 有 紀 子	奥野 未 佳 河辺 隆 誠	(1) 3
歯科							
麻酔科		高内 裕 司		播磨 恵			2
泌尿器科		福井 辰 成			大草 卓 也		2
放射線科							
(画像診断室)		竹下 徹				松島 央 和	3
(放射線治療室)				堤 真 一			
外来化学療法科		(兼務 鈴木 秀和)		森下 直 子			(1) 1
臨床検査科		田村 嘉 孝					1
病理診断科		(兼務 河原 邦光)	上田 佳 世				(1) 1
リハビリテーション科		森下 裕					1
緩和ケア科							
呼吸器内視鏡内科							
臨床研究センター		橋本 章 司					1
次世代創薬創生センター		松山 晃 文					1
合計		18	3	12	8	9	14 64

レジデント	山口 徹 (臨床検査科)	朝川 遼 (呼総C)	合計8名
	山口 智裕 (小児科)	梶谷 嘉起 (呼総C)	
	阿古目 純 (皮膚科)	飯屋 勇希 (感染症内科)	
	益田 知可子 (皮膚科)		
	渡邊 祥奈 (皮膚科)		

(5) 看護部組織一覧表

令和3(2021)年4月1日現在

看護部長	岡田 知子
副看護部長	羽澤 三恵子 豊田 充代 森本 恭子 泉 和江 近藤 勝美
医療安全管理者	五十嵐 美幸

		病 床 数	看護師定数	看護師長
1A	産 婦 人 科	25	34	中出 亜希代
2A	呼 吸 器 外 科 / 産 婦 人 科 消 化 器 外 科 / 乳 腺 外 科	44	25	難波 美華
2B	集 中 治 療 科	8	25	荻野 洋子
4A	呼 吸 器 内 科 / 肺 腫 瘍 内 科 感 染 症 内 科 / 消 化 器 内 科 / 循 環 器 内 科	25	21	(泉 和江)
4B	呼 吸 器 内 科 / 肺 腫 瘍 内 科 消 化 器 外 科 / 乳 腺 外 科 / 消 化 器 内 科	20	21	中村 由利子
5A	呼 吸 器 内 科 / 循 環 器 内 科 感 染 症 内 科	58	37	井上 理恵
5B	HCU	8	21	倉田 悦子
7A	小 児 科 / ア レ ル ギ ー 内 科 皮 膚 科 / 耳 鼻 科	44	28	関田 恵
9A	皮 膚 科 / ア レ ル ギ ー 内 科 耳 鼻 咽 喉 科	46	21	田中 久美
10A	肺 腫 瘍 内 科 / 耳 鼻 咽 喉 科 産 婦 人 科 / ア レ ル ギ ー 内 科	46	22	山本 攝子
10B	肺 腫 瘍 内 科 / 消 化 器 外 科 乳 腺 外 科 / 感 染 症 内 科	42	22	榎本 かおり
11A	感染症内科	60	37	福村 恵
地 域 医 療 連 携 室			6	秦 順子
入 退 院 支 援 室				
患 者 総 合 支 援 セ ン タ ー				(近藤 勝美)
外 来			17	田中 真奈美
手 術 室			12	(森本 恭子)
中 央 材 料 室			0	(森本 恭子)
専 門 看 護 師			2	
看 護 部 長 室			5	
計		426	356	

5. 現 員 表

令和4(2022)年3月31日現在

職 名			現 員	備 考
定 数 内	常 勤 職 員	事 務 職 員	26	
		技 術 職 員	514	
	計		540	
定 数 外	臨時的任用職員		0	看護師・准看護師 0
	非 常 勤 職 員		269	医 師 64
				看護師 49
				非常勤嘱託員 6
				看護助手 20
計		269	事務補助 93	
			医療技術 37	
合 計			809	

5. 運営会議、幹部会、各種委員会

名称	性格、機能 等
運営会議	管理運営基本協議機関
幹部会	関係部局間連絡調整機関

委員会名称	委員長	活動内容
医療情報管理委員会	副院長 片岡 葉子	1 医療情報の管理及び提供に関する事。 2 診療録の管理運営に関する事。 3 その他医療情報の管理に関する事。 4 がん登録に関する事
クリニカルパス推進委員会	診療局長 川島 佳代子	1 クリニカルパスの管理および利用推進に関する事。 2 パス大会の運営に関する事。 3 その他クリニカルパスに関する事。
診療情報提供審査部会	副院長 片岡 葉子	1 診療情報提供の申請の審査に関する事。
薬事委員会	消化器外科主任部長 宮崎 知	1 薬品の選定に関する事。 2 新規医薬品購入に関する事。 3 医薬品管理の改善に関する事。 4 医薬品情報に関する事。 5 その他薬事に関する事。
保険委員会	副院長 片岡 葉子	1 診療報酬の適正化に関する事。 2 診療報酬の再請求に関する事。 3 診療に関する自主料金収入の確保に関する事。 4 保険診療にかかる情報の伝達に関する事。 5 保険診療の疑義の検討に関する事。 6 保険診療の研修及び指導に関する事。 7 その他保険診療に関する事。
DPC コーディング委員会	副院長 片岡 葉子	1 適切なコーディングに関する事。 2 その他コーディングに関する事。

栄養委員会	呼吸器内科医長 馬越 泰生	<ol style="list-style-type: none"> 1 給食運営に関すること。 2 栄養基準に関すること。 3 栄養指導に関すること。 4 その他給食に関すること。
感染対策委員会	感染症内科主任部長 永井 崇之	<ol style="list-style-type: none"> 1 院内感染の予防に関すること。 2 院内感染発生時の対応策に関すること。 3 新型インフルエンザ対策に関すること。 4 その他感染対策に関すること。
職員研修委員会	事務局長 水守 勝裕	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員の研修に関すること。 2 人権研修に関すること。
医療機器等整備委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療機器等整備計画策定に関すること。 2 医療機器等の購入方法等に関すること。 3 医療機器等の管理及び処分に関すること。 4 その他医療機器等の整備に関すること。
医療機器等機種選定委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療機器等整備委員会で購入を決定した医療機器等のうち、購入額が500万円以上のものの機種の選定に関すること。
広報委員会	診療局長 川島 佳代子	<ol style="list-style-type: none"> 1 広報誌の企画、編集、発行に関すること。 2 ホームページの企画、編集に関すること。 3 年報その他の資料発行に関すること。 4 その他広報に関すること。
医療安全管理委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療安全管理の検討及び研究に関すること。 2 医療事故の分析及び再発防止策の検討等に関すること。 3 医療安全管理のために行う職員に対する指示に関すること。 4 医療安全管理のための啓発、教育、広報に関すること。 5 医療訴訟に関すること。 6 その他、医療安全管理に関すること。

医療安全推進委員会	医療安全管理者 五十嵐 美幸	<ol style="list-style-type: none"> 1 インシデント報告の把握、原因分析及び対策の検討に関する事。 2 院内の事故防止のための意識向上に関する事。 3 医療安全管理委員会の決定事項の周知に関する事。 4 その他、医療安全管理に関する事。
医療機器安全管理委員会	医務局長 河原 邦光	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療機器の保守点検に関する事。 2 医療機器の機種変更及び更新に関する事。 3 その他医療機器の安全管理に関する事。
安全衛生委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員の安全衛生に係る業務の企画に関する事。 2 職員の健康保持増進の基本対策に関する事。 3 労災の原因・再発防止で、安全衛生に関する事。 4 職員の危険、健康障害防止、健康保持増進に関する事。
医療ガス安全管理委員会	呼吸器内科主任部長 松岡 洋人	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療ガス設備の保守点検に関する事。 2 医療ガス設備の改修等に際しての安全の確保に関する事。 3 医療ガスに関する知識の普及及び啓発に関する事。 4 その他医療ガスに関する事。
放射線安全委員会	放射線科主任部長 竹下 徹	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療用放射線の安全利用のための指針策定 2 放射線安全利用のための研修の実施 3 放射線過剰被ばくその他放射線診療に関する事例発生時の対応 4 被ばく線量の管理及び記録および安全利用を目的とした改善のための方策の実施

医療放射線 安全管理委員会	放射線科主任部長 竹下 徹	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療用放射線の安全利用のための指針策定 2 放射線安全利用のための研修の実施 3 放射線過剰被ばくその他放射線診療に関する事例発生時の対応 4 被ばく線量の管理及び記録および安全利用を目的とした改善のための方策の実施
治験審査委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 審査対象の治験の倫理的及び科学的な妥当性、その他当該治験の実施の可否を審査すること。 2 治験を適切に実施しているか調査し、当該治験の継続実施の適否を審査すること。
受託研究審査委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究の目的、内容及び方法等の妥当性並びにその変更の妥当性について審議すること。 2 患者の研究参加の同意確認が適切に得られているか確認すること。 3 研究の進行状況について報告を受け、また必要に応じて、自ら調査を行い、意見を述べること。
診療材料委員会	医務局長 河原 邦光	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療材料の採択及び廃止に関すること。 2 既使用材料の見直し及び企画の統一に関すること。 3 診療材料の効率的な在庫管理に関すること。
集中治療室運営 委員会	集中治療科主任部長 柏 庸三	<ol style="list-style-type: none"> 1 集中治療室の運営に関すること。
臨床検査適正化 委員会	臨床検査科主任部長 田村 嘉孝	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床検査科の運営に関すること。 2 参加した外部精度管理の結果報告。
褥瘡対策委員会	消化器外科副部長 池田 公正	<ol style="list-style-type: none"> 1 患者の褥瘡の発生予防、治療の情報収集等に関すること。
手術室運営委員会	麻酔科主任部長 高内 祐司	<ol style="list-style-type: none"> 1 手術室の運営に関すること。
NST 委員会	消化器外科科主任部長 宮崎 知	<ol style="list-style-type: none"> 1 入院患者の栄養状態の改善に関すること。

患者サービス向上委員会	小児科主任部長 亀田 誠	<ol style="list-style-type: none"> 1 患者の権利及びセンター基本理念に関すること。 2 職業（医療）倫理に関すること。 3 患者・医療者のパートナーシップに関すること。 4 患者サービスの向上に関すること。 5 その他患者の権利と医療者の倫理に関すること。
医学研究倫理委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	<ol style="list-style-type: none"> 1 先進医療又は研究に関する実施計画の審査に関すること。 2 研究成果の出版等で医の倫理に係わる審査に関すること。 3 看護部倫理委員会が必要と認めた実施計画の審査に関すること。
地域連携推進委員会	診療局長 川島 佳代子	<ol style="list-style-type: none"> 1 病診連携の推進に関すること。
輸血療法委員会	産婦人科主任部長 赤田 忍	<ol style="list-style-type: none"> 1 適正かつ安全な輸血療法に関すること。 2 有効な補助療法として血液製剤の投与基準に関すること。 3 血液製剤使用記録の保管に関すること。 4 輸血後副作用・感染症の有無に関すること。 5 自己血貯血・輸血に関すること。
病院機能評価委員会	院長 山口 誓司 (委員長代行 小児科主任部長 亀田 誠)	<ol style="list-style-type: none"> 1 (財)日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の受審に関する諸問題を調査・審議すること。
化学療法委員会	乳腺外科主任部長 安積 達也	<ol style="list-style-type: none"> 1 化学療法のレジメンの妥当性の評価及び承認に関すること。 2 外来化学療法の運営に関すること。 3 入院における化学療法に関すること。 4 その他、化学療法に関すること。

システム管理委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 病院情報システムの開発、改修及び廃止に関すること。 2 病院情報システムの運用及び管理に関すること。 3 その他、病院情報システムに関すること。 4 インターネットシステムの運営に関すること。
利益相反委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 利益相反による弊害を抑えるための方策に関すること。 2 利益相反管理の調査に関すること。 3 その他、利益相反の重要事項に関すること。
働き方改革委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 医師・看護師の負担軽減及び処遇改善計画に関すること。 2 勤務環境の改善等に関すること。 3 職員の定着率及び満足度向上に関すること。 4 職員の育児・介護支援に関すること。
防火防災委員会	事務局長 水守 勝裕 (防火管理者)	<ol style="list-style-type: none"> 1 防火防災訓練の企画に関すること。 2 防火防災マニュアルの整備に関すること。 3 職員に対する防火防災研修の企画に関すること。 4 その他、防火防災に関すること。
CPR 委員会	集中治療科主任部長 柏 庸三	<ol style="list-style-type: none"> 1 蘇生法の教育に関すること。 2 蘇生のための物品管理に関すること。
綱紀保持推進委員会	院長 山口 誓司	<ol style="list-style-type: none"> 1 綱紀保持方策の実施状況の点検・確認及び見直しに関すること。 2 セクハラ・パワハラ対策に関すること。
新生児特定集中室 (NICU) 運営委員会	小児科主任部長 亀田 誠	<ol style="list-style-type: none"> 1 新生児特定集中治療室の運営に関すること。
重症心身障がい児 ショートステイ 運営委員会	小児科部長 吉田 之範	<ol style="list-style-type: none"> 1 重症心身障がい児のショートステイの運営に関すること。

緩和ケア委員会	外来化学療法科副部長 森下 直子	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命（人生）を脅かす疾患による問題に直面している患者およびその家族のQOLの改善に関すること。 2 主治医と連携したチーム医療による治療支援に関すること。 3 がん療養相談窓口に関すること。 4 緩和ケア活動の周知、啓発及び活動に関すること。 5 その他、緩和ケアについて必要と認める活動に関すること。
虐待対策委員会	副院長 片岡 葉子	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種虐待（疑いを含む）への迅速な対応及び組織的な対応に関すること。 2 虐待対応マニュアルの整備に関すること。 3 その他、センターの患者に対する各種虐待に関すること。
新内科専門医 研修制度 管理委員会	副院長 緒方 篤	<ol style="list-style-type: none"> 1 新内科専門医研修制度のプログラムの策定に関すること。 2 その他、新内科専門医研修制度について必要と認める活動に関すること。
救急委員会	集中治療科主任部長 柏 庸三	<ol style="list-style-type: none"> 1 診療フローの改善、マニュアルの整備と周知に関すること。 2 インシデント・アクシデントの確認・対応に関すること。 3 救急搬送受入状況の報告及び不応需事例を含めた振り返り・症例検討に関すること。 4 救急搬送受入件数増に向けた提案に関すること。
臨床倫理委員会	医務局長 河原 邦光	<ol style="list-style-type: none"> 1 終末期医療の決定プロセス、治療上必要な身体拘束等臨床医学等の倫理に係る審査に関すること。
バイオセーフティ 管理委員会	臨床研究センター長 橋本 章司	

6. 経営状況（決算）

(1) 総括

当センターは、昭和27年に府域における結核医療の基幹病院として開設し、これまでの間、結核とともに難治性の呼吸器疾患（COPD、肺がんなど）とアレルギー疾患（アトピー性皮膚炎、難治性喘息、食物アレルギーなど）の専門病院として専門医療に対応してきた。

あわせて、「地域に信頼され、地域になくてはならない病院」を目指し、南河内地域の医療ニーズに応える総合的な医療の拠点病院としての取組みを進めている。

令和3年度は、経営改善戦略プランに基づき、救急・重症患者の受け入れ拡大や地域連携のさらなる推進や、救急搬送受入件数の増加、カバーする診療領域の拡大等による増患・集患ならびにDPC適正運用の徹底や各種加算・管理料の取得等による診療単価向上をはじめとする、経営改善に向けた各種取組みを実施した。

経営状況は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対応のため、府の要請に応じて病床の一部を専用病床として提供することにより、通常診療の一部を縮小（一部病棟の閉鎖や一時的な救急受入中止）したものの、地域医療連携等の取組みにより新入院患者数が増加した。あわせてDPC適正運用による入院単価の増により、医業収入が増加した。また、府からの新型コロナウイルス感染症への対応に係る空床補償等の補助金が増加し、資金収支は17.7億円の黒字となった。

(2) 事業実績

患者数

当年度における入院患者は延86,806人、外来患者数は延145,553人で、入院患者数は前年度比10.5%減（一般7,831人減、結核2,403人減）、外来患者数は前年度比1.4%減（2,140人減）であった。

【患者数等の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
延入院患者数	122,655人	97,040人	86,806人
病床利用率 ※	78.7%	62.4%	55.8%
新入院患者数	10,266人	8,449人	8,735人
退院患者数	10,261人	8,527人	8,527人
うち一般病棟	10,067人	8,342人	8,578人
うち結核病棟	252人	185人	173人
延外来患者数	168,122人	147,693人	145,553人

※ 病床利用率は稼働病床数（426床）に対する比率

損益計算書

令和3年(2021)4月1日～令和4年(2022)3月31日

費用の部		収益の部	
科目	金額	科目	金額
営業費用	10,141,024,151	営業収益	12,239,396,153
医療費用	10,141,024,151	医療収益	8,560,446,329
給与費	5,661,934,992	入院収益	5,563,491,726
材料費	1,939,836,637	外来収益	2,475,198,966
減価償却費	757,703,188	その他医療収益	548,531,241
経費	1,558,527,105	保険等査定減	△ 26,775,604
研究研修費	223,022,229	運営費負担金収益	1,077,353,000
		補助金等収益	2,432,391,310
		寄付金収益	17,152,819
		資産見返補助金等戻入	91,207,155
		資産見返寄付金戻入	28,799,432
		資産見返物品受贈額戻入	32,046,108
営業外費用	408,248,736	雑収益	0
財務費用	18,285,583	営業外収益	102,344,162
控除対象外消費税	342,791,655	運営費負担金収益	8,770,000
資産に係る控除対象外消費税償却	46,861,596	その他営業外収益	93,574,162
その他営業外費用	309,902		
臨時損失	11,354,238	臨時利益	0
固定資産除却損	11,354,238	合計	12,341,740,315
その他臨時損失	0		
当年度純利益	1,781,113,190		
合計	12,341,740,315		

経営関連指標	令和元年度	令和2年度	令和3年度
医療収支比率	91.0%	80.1%	84.4%
給与費比率	58.3%	68.7%	66.1%
材料費比率	25.1%	24.7%	22.7%

貸 借 対 照 表

令和4年（2022）3月31日

資 産 の 部		負 債 ・ 資 本 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
資 産	12,434,335,610	負 債	14,780,748,122
有形固定資産	11,532,990,315	固 定 負 債	8,465,617,888
土 地	3,229,328,880	資 産 見 返 負 債	1,474,442,242
建 物	804,906,220	長 期 借 入 金	7,047,671,893
建 物 付 属 設 備	1,104,809,425	引 当 金	3,180,093,671
構 築 物	885,929,666	リ ー ス 債 務	152,965,899
器 械 備 品	619,390,372	施 設 間 仮 勘 定	△ 3,569,555,817
器 機 備 品（リ ー ス）	240,038,245	そ の 他 固 定 負 債	180,000,000
車 両	4	流動負債	6,315,130,234
建 設 仮 勘 定	4,648,587,503	寄 付 金 債 務	17,843,264
無形固定資産	12,513,313	一 年 以 内 返 済 予 定 施 設 長 期 借 入 金	439,615,286
ソ フ ト ウ ェ ア	12,109,194	医 業 未 払 金	348,750,819
施 設 利 用 権	289,119	未 払 金	5,061,542,128
そ の 他 の 無 形 固 定 資 産	115,000	一 年 以 内 支 払 リ ー ス 債 務	60,275,739
投資その他の資産	888,831,982	未 払 費 用	45,161,785
施 設 整 備 等 積 立 金	280,000,000	未 払 消 費 税 及 び 地 方 消 費 税	△ 10,529,800
職 員 長 期 貸 付 金	3,900,000	預 り 金	72,410,064
長 期 前 払 費 用	604,931,982	前 受 収 益	
流 動 資 産	2,931,045,855	引 当 金	280,060,949
現 金 及 び 預 金	715,101,639	純 資 産	584,633,343
医 業 未 収 金	1,504,452,484	資 本 金	△ 1,124,390,765
未 収 金	618,624,980	資 本 剰 余 金	1,466,745,508
医 薬 品	72,788,134	前中期目標期間繰越積立金	△ 2,160,901,402
貯 蔵 品	39,324	積 立 金	622,066,812
前 払 費 用	8,545,317	当 期 未 処 理 損 失	1,781,113,190
そ の 他	11,493,977	合 計	15,365,381,465
合 計	15,365,381,465		

第2 業務の状況

1. 令和3年度 地域医療支援病院 業務実績 (大阪府への報告内容より抜粋)

紹介患者に対する医療提供及び他の病院又は診療所に対する紹介患者の実績 (患者数は延べ人数)

紹介率	78.6%
逆紹介率	97.2%

救急医療を提供する能力、実績

重症救急患者を優先的に使用できる病床	4床
地方公共団体又は医療機関に所属する救急自動車により搬送された救急患者数	1,458人
救急搬送以外の救急患者数	2,374人

救急用自動車 (保有台数)	1台
救急自動車の主な装備	酸素ボンベ、ストレッチャー

地域の医療従事者による診療、研究又は研修のための利用(共同利用)のための体制

共同利用の実績 (医療機関延べ数)	40医療機関
共同利用の範囲	開放病床、CT、MRI、RI等検査機器、図書室、研究室
登録医療機関数 (二次医療圏外含む)	259機関
常時共同利用可能な病床数	5床

地域の医療従事者の資質の向上を図るための研修の実績

地域の医療従事者への研修実施回数	20回
研修者数 ※院外からの延べ参加人数	355人
病院全体として実施した研修会 「はびきのアカデミー」 「はびきのチャンネル」 「SOCC」 「羽曳野臨床懇話会」	

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績

閲覧件数	44件
------	-----

医療法施行規則第9条の19条1項に規定する委員会の開催状況

委員会の開催回数	4回
----------	----

患者相談の実績

相談件数	4,936件
------	--------

2. 医事統計

a. 月別入退院患者数調									
<div> <div>令和3年4月1日から 令和4年3月31日まで</div> </div>									
	月 初 在院数	当 月 入院数	当月退院数			月 末 在院数	当月 延患者数	一日平均 患者数	充床率
			治癒・ 軽快等	死亡	計				
令和3年	人	人	人	人	人	人	人	人	%
4月	217	786	770	21	791	212	7,610	253.7	59.5
5月	212	681	652	33	685	208	7,422	239.4	57.9
6月	208	712	691	20	711	209	7,253	241.8	57.5
7月	209	782	773	11	784	198	7,011	226.2	55.8
8月	198	888	852	13	865	221	7,810	252.0	55.9
9月	221	722	740	14	754	179	7,212	240.4	55.6
10月	179	695	684	20	704	170	7,048	227.4	54.9
11月	170	659	633	17	650	179	6,735	224.5	54.4
12月	179	715	749	25	774	120	7,145	230.5	54.1
令和4年									
1月	120	854	738	16	754	220	8,046	259.6	54.5
2月	220	524	543	17	560	184	6,126	218.8	54.0
3月	184	716	695	25	720	180	7,369	237.7	53.9
令和3年度計	—	8,734	8,520	232	8,752	—	86,787	237.7	55.7
令和2年度計	—	8,449	8,274	253	8,527	—	97,040	265.9	62.4
令和元年度計	—	10,266	10,261	279	10,540	—	122,655	335.1	78.3
平成30年度計	—	10,313	10,067	252	10,319	—	126,424	364.4	81.3

b. 住所地別・月別新入院患者数																
(単位：人)																
区分	大阪府内計 (大阪市内除く)	内 訳							大阪市内計	内 訳				他府県	不詳	合計
		豊能ブロック	三島ブロック	北河内ブロック	中河内ブロック	南河内ブロック	堺市ブロック	泉州ブロック		北部ブロック	西部ブロック	東部ブロック	南部ブロック			
令和3年																
4月	809	11	5	10	91	613	60	19	90	12	9	12	57	43	2	944
5月	736	7	3	9	105	533	60	19	76	10	9	13	44	27	1	840
6月	766	5	4	7	110	573	54	13	63	5	6	13	39	25	0	854
7月	802	10	4	6	117	586	56	23	79	12	4	12	51	35	3	919
8月	880	11	2	8	149	622	62	26	99	17	11	20	51	41	2	1,022
9月	779	16	1	12	126	552	51	21	76	6	11	17	42	36	2	893
10月	739	10	1	8	113	542	46	19	67	7	2	11	47	28	1	835
11月	699	8	1	7	113	511	44	15	53	9	2	10	32	42	0	794
12月	758	14	3	11	115	544	51	20	58	5	6	13	34	41	1	858
令和4年																
1月	849	16	4	4	110	630	59	26	66	6	4	20	36	31	0	946
2月	658	5	2	3	105	500	32	11	46	8	6	10	22	29	0	733
3月	752	14	4	9	115	536	52	22	75	9	9	11	46	42	2	871
令和3年度 合 計	9,227	127	34	94	1,369	6,742	627	234	848	106	79	162	501	420	14	10,509
令和2年度 合 計	8,884	110	45	141	1,164	6,543	628	253	1,062	89	109	202	662	502	12	10,460
令和元年度 合 計	11,105	145	50	117	1,491	8,144	826	332	1,075	75	77	169	754	651	12	12,843
平成30年度 合 計	11,437	145	58	132	1,599	8,380	813	310	967	62	66	175	664	668	12	13,084

※大阪府内(大阪市内を除く)を7ブロック、大阪市内を4ブロックに分け集計した。

第1(豊能)ブロック 池田市、箕面市、豊能町、能勢町、豊中市、吹田市

第2(三島)ブロック 摂津市、茨木市、高槻市、島本町

第3(北河内)ブロック 枚方市、寝屋川市、守口市、門真市、大東市、四條畷市、交野市

第4(中河内)ブロック 東大阪市、八尾市、柏原市

第5(南河内)ブロック 松原市、羽曳野市、藤井寺市、大阪狭山市、富田林市、河内長野市、河南町、太子町、千早赤阪村

第6(堺市)ブロック 堺市

第7(泉州)ブロック 和泉市、泉大津市、高石市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、泉佐野市、熊取町、田尻町、泉南市、阪南市、岬町

第8(大阪市北部)ブロック 北区、都島区、淀川区、東淀川区、旭区

第9(大阪市西部)ブロック 福島区、此花区、西区、港区、大正区、西淀川区

第10(大阪市東部)ブロック 中央区、天王寺区、浪速区、東成区、生野区、城東区、鶴見区

第11(大阪市南部)ブロック 阿倍野区、住之江区、住吉区、東住吉区、平野区、西成区

c. 退院患者在院日数調

〔令和3年4月1日から
令和4年3月31日まで〕

・ 総 数
$$\frac{86,806}{1 \text{ / } 2 \text{ (8,735人+8,751人)}} = 9.9\text{日}$$

・ 結 核
$$\frac{11,055}{1 \text{ / } 2 \text{ (167人+173人)}} = 65.0\text{日}$$

・ 一 般
$$\frac{75,751\text{人}}{1 \text{ / } 2 \text{ (8,568人+8,578人)}} = 8.8\text{日}$$

d. 科別・月別延べ入院患者数

区分	呼吸器 内科	肺腫瘍 内科	呼吸器 外科	感染症 内科	アレルギー・ リウマチ内科	小児科	皮膚科	眼科	循環器 内科	消化器 内科	消化器 外科	乳腺外科	産婦人科	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	救急	放射線科	集中 治療科	泌尿器科	合計
令和3年4月	1,316	763	508	1,423	377	453	634	48	336	88	143	224	834	408	22	0	0	33	7,610
5月	1,274	875	470	1,402	358	448	425	27	399	77	301	170	913	255	15	0	0	13	7,422
6月	992	1,047	503	1,317	202	490	427	59	314	68	292	137	1,082	244	34	0	0	45	7,253
7月	1,000	815	376	1,170	157	665	422	31	310	92	250	131	1,224	254	28	0	0	86	7,011
8月	1,205	1,024	475	1,145	289	602	654	30	300	118	387	189	955	355	35	0	0	39	7,802
9月	1,102	869	522	1,301	210	537	542	27	236	76	250	153	1,003	302	12	0	0	61	7,203
10月	1,037	792	549	1,459	174	537	437	33	185	169	210	82	1,080	182	33	0	0	89	7,048
11月	1,079	872	462	1,409	206	451	377	25	189	153	225	112	824	260	32	0	1	58	6,735
12月	1,198	983	480	1,059	147	556	520	24	336	74	186	82	1,095	276	38	0	0	91	7,145
令和4年1月	1,532	1,065	382	991	358	698	490	0	496	79	137	124	1,300	220	40	0	0	134	8,046
2月	1,355	625	402	1,207	234	291	210	0	432	103	160	119	774	128	9	0	0	77	6,126
3月	1,347	731	367	1,448	294	417	379	0	457	134	203	123	1,012	247	11	0	0	198	7,368
令和3年度 合計	14,437	10,461	5,496	15,331	3,006	6,145	5,517	304	3,990	1,231	2,744	1,646	12,096	3,131	309	0	1	924	86,769
1日平均患者数	39.6	28.7	15.1	42.0	8.2	16.8	15.1	0.8	10.9	3.4	7.5	4.5	33.1	8.6	0.8	0.0	0.0	2.5	237.7
構成比(%)	16.6%	12.1%	6.3%	17.7%	3.5%	7.1%	6.4%	0.4%	4.6%	1.4%	3.2%	1.9%	13.9%	3.6%	0.4%	0.0%	0.0%	1.1%	100.0%
令和2年度 合計	16,173	16,063	5,645	19,802	2,700	5,533	6,761	535	4,149	805	1,773	1,847	11,616	3,171	286	0	142	0	146,556
令和元年度 合計	20,786	21,806	7,749	23,103	2,873	8,631	7,653	2,475	3,752	1,137	2,140	1,734	12,972	3,395	300	0	1,474	0	121,980
平成30年度 合計	21,805	24,754	7,952	22,333	3,229	8,583	7,111	5,490	3,793	695	1,758	1,344	13,271	2,646	186	0	1	0	124,951

e. 科別・月別延べ外来患者数

区分	呼吸器 内科	肺腫瘍 内科	呼吸器 外科	感染症 内科	アレルギー・ リウマチ内科	小児科	皮膚科	眼科	循環器 内科	消化器 内科	消化器 外科	乳腺外科	産婦人科	耳鼻咽喉・ 頭頸部外科	救急	放射線科	集中 治療科	呼吸器 総合外来	リハビリ テーション科	救急	泌尿器科	歯科	発熱外来	合計
令和3年4月	1,045	828	583	660	843	1,505	2,112	438	394	223	152	546	2,146	549	8	244	0	1	0	9	101	110	21	12,518
5月	849	691	522	621	631	1,243	1,880	404	388	199	152	488	1,889	422	4	210	0	1	0	5	87	83	10	10,779
6月	968	791	554	615	749	1,458	2,247	442	369	253	153	629	2,468	493	5	247	0	2	0	13	127	118	2	12,703
7月	982	701	629	594	721	1,408	2,178	454	396	324	166	538	2,070	616	3	101	2	11	0	13	125	106	3	12,141
8月	882	726	605	645	719	1,619	2,113	438	383	279	142	480	2,161	665	1	241	0	4	0	26	118	119	5	12,371
9月	1,018	758	531	689	803	1,346	2,079	413	381	284	210	548	2,156	445	0	236	0	2	0	10	136	98	3	12,146
10月	1,022	726	559	645	700	1,394	2,089	454	408	321	163	615	2,261	482	0	263	0	1	0	6	144	93	0	12,346
11月	973	682	536	681	788	1,394	2,155	407	381	319	167	575	2,277	485	0	217	1	5	0	5	183	101	5	12,337
12月	938	663	494	657	749	1,511	2,210	423	399	258	178	583	2,272	439	0	170	0	4	0	6	191	114	2	12,261
令和4年1月	928	620	551	621	851	1,534	1,996	282	349	243	160	520	1,958	411	0	196	0	0	0	13	192	91	38	11,554
2月	837	632	573	551	640	1,226	1,868	270	336	245	210	464	1,875	375	0	171	1	2	0	4	251	45	51	10,627
3月	1,033	728	624	707	863	1,864	2,442	321	394	309	235	654	2,305	739	0	140	1	2	0	5	302	93	11	13,772
令和3年度 合計	11,475	8,546	6,761	7,686	9,057	17,502	25,369	4,746	4,578	3,257	2,088	6,640	25,838	6,121	21	2,436	5	35	0	115	1,957	1,171	151	145,404
1日平均患者数	47.4	35.3	27.9	31.8	37.4	72.3	104.8	19.6	18.9	13.5	8.6	27.4	106.8	25.3	0.1	10.1	0.0	0.1	0.0	0.5	8.1	4.8	0.6	600.8
構成比(%)	7.9%	5.9%	4.6%	5.3%	6.2%	12.0%	17.4%	3.3%	3.1%	2.2%	1.4%	4.6%	17.8%	4.2%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	1.3%	0.8%	0.1%	100.0%
令和2年度 合計	12,450	10,653	6,397	8,141	8,131	17,164	26,324	5,871	4,708	2,848	1,867	6,473	24,786	6,891	0	2,764	14	0	0	39	0	1,035	0	146,556
令和元年度 合計	14,168	12,381	6,573	9,255	11,751	19,771	28,667	8,114	5,205	3,141	1,819	6,646	27,294	8,537	102	2,768	4	293	3	21	0	1,609	0	168,122
平成30年度 合計	14,306	11,465	6,391	9,808	12,167	20,546	27,229	11,543	5,316	1,997	0	0	28,045	7,742	113	2,167	2	448	0	23	0	947	0	167,953

3. 診療情報管理室統計

【病棟別・退院患者の状況】

病棟	1 A	2 A	2 B	4 A	5 A	7 A	9A	1 0 A	1 0 B	1 1 A	合計	平均
退院患者数	1,512	1,223	31	939	1,135	1,983	89	1,136	531	173	8,752	875.2
<うち死亡退院>		2	17	54	81	1		41	16	20	232	29.0
(うち死亡数－ 48時間以内死亡数)		2	6	46	61	1		36	16	16	184	23.0
(うち剖検)				1							1	1.0
平均在院日数	6.3	8.6	9.7	12.1	15.2	4.6	13.9	10.0	10.3	63.7	-	10.0
病床回転数	57.7	42.6	37.7	30.2	24.0	79.3	26.2	36.5	35.4	5.7	-	36.6

【月別・退院患者の状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	1 0月	1 1月	1 2月	1月	2月	3月	合計	平均
退院患者数	789	685	711	785	865	754	704	650	774	755	560	720	8,752	729.3
<うち死亡退院>	21	33	20	11	13	14	20	17	25	16	17	25	232	19.3
(うち死亡数－ 48時間以内死亡数)	15	28	15	9	11	11	12	15	20	11	13	24	184	15.3
(うち剖 検)												1	1	1.0

平均在院日数=10.0日 (11.5日)

病床回転数=36.6回 (31.7回)

粗死亡率=2.7% (3.0%)

精死亡率=2.1% (2.7%)

剖検率=0.4% (0.0%)

(括弧内は昨年度値)

【算 出 式】

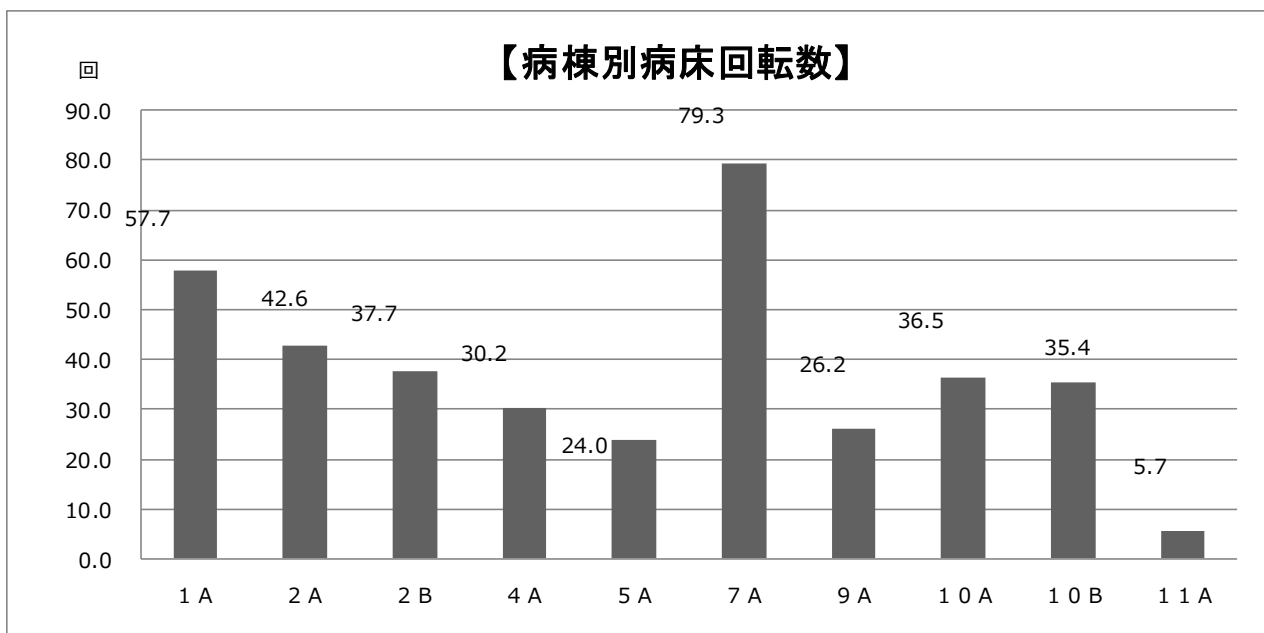
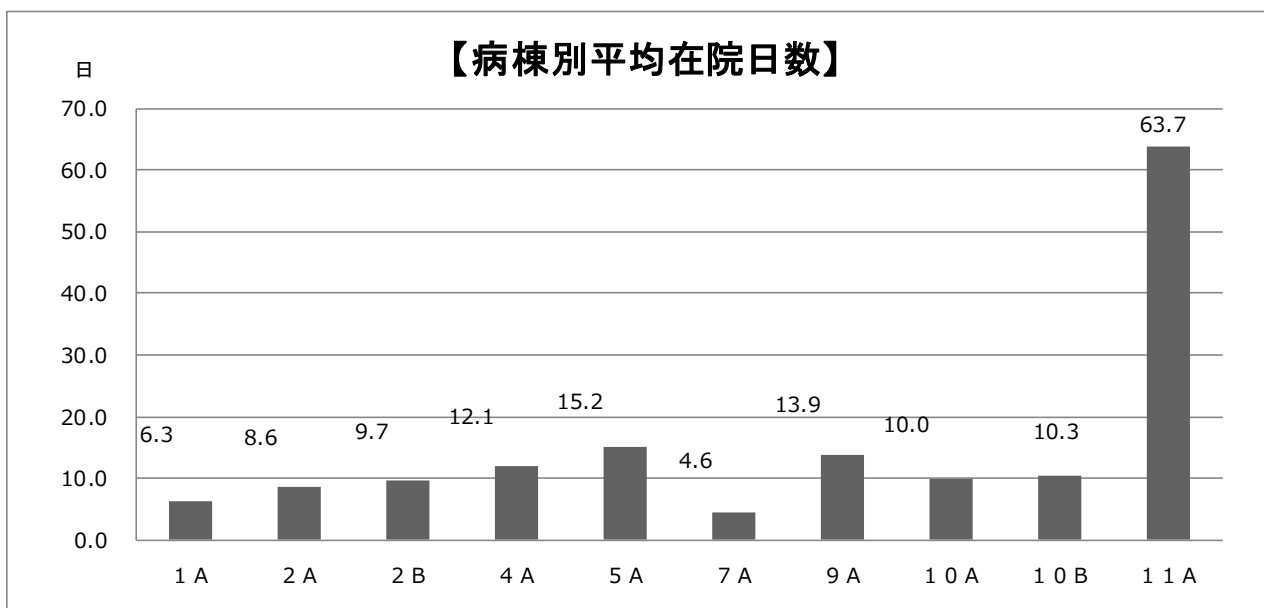
$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{退院患者延入院日数}}{\text{退院患者数}}$$

$$\text{粗死亡率} = \frac{\text{死亡数} \times 100}{\text{退院患者数}}$$

$$\text{剖検率} = \frac{\text{剖検数} \times 100}{\text{死亡数}}$$

$$\text{病床回転数} = \frac{366\text{日}}{\text{平均在院日数}}$$

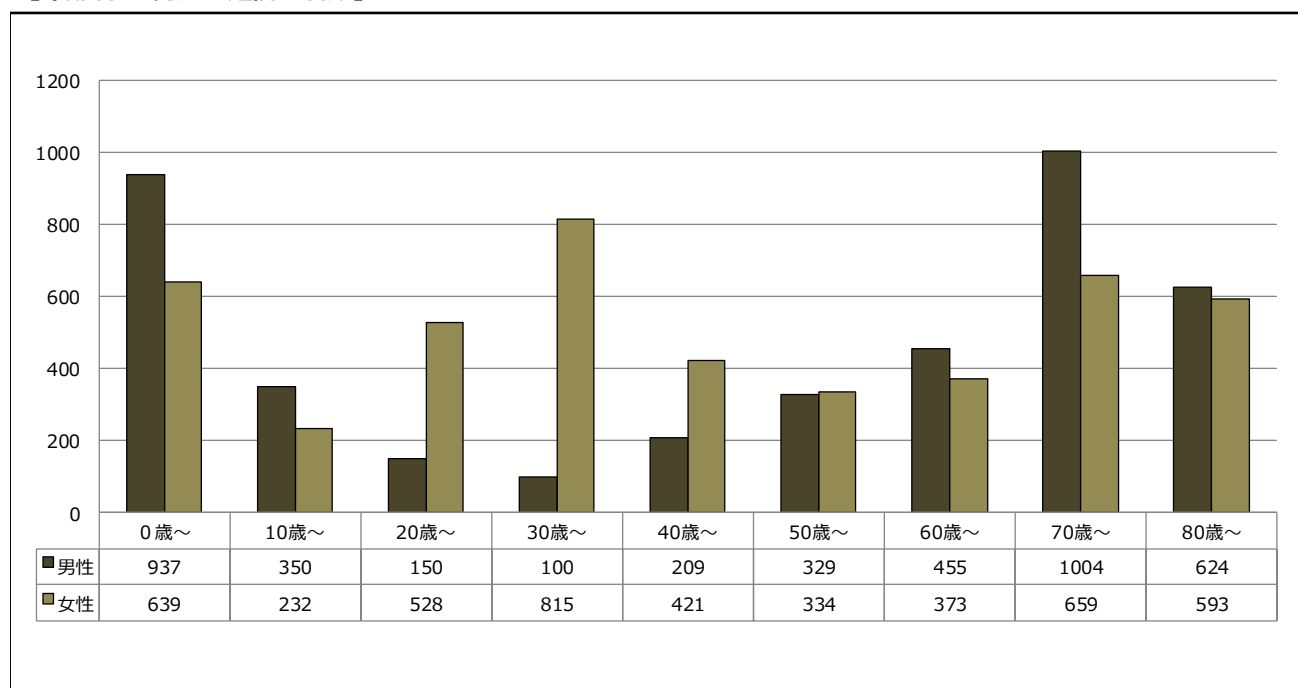
$$\text{精死亡率} = \frac{\text{死亡数} - 48\text{時間以内死亡数} \times 100}{\text{退院患者数}}$$



【病棟別・在院期間別退院患者数】

		1 A	2 A	2 B	4 A	5 A	7 A	9A	10A	10B	11A	合 計	平 均
1～ 8日		1,361	749	20	464	497	1,669	48	633	215	8	5,664	566.4
9～15日		108	342	4	244	264	213	17	269	240	9	1,710	171.0
16～22日		25	68	4	119	171	35	9	134	53	7	625	62.5
23～31日		10	33	1	50	86	39	6	63	12	7	307	30.7
32～61日		6	27	1	51	95	22	6	35	11	54	308	30.8
62～91日		1	3	1	9	13	4	2	2		56	91	10.1
3～6ヶ月		1			2	9	1	1			30	44	7.3
6ヶ月～1年			1								2	3	1.5
1年以上												0	0.0
男 性	人 数	224	424	22	554	713	1,176	34	579	307	125	4,158	415.8
	平均在院日数	6.3	10.3	11.9	12.4	15.6	4.4	18.9	11.2	10.2	62.1	11.4	-
女 性	人 数	1,288	799	9	385	422	807	55	557	224	48	4,594	459.4
	平均在院日数	6.3	7.6	4.3	11.6	14.6	4.8	10.9	8.7	10.5	67.9	8.7	-
合 計	人 数	1,512	1,223	31	939	1,135	1,983	89	1,136	531	173	8,752	875.2
	平均在院日数	6.3	8.6	9.7	12.1	15.2	4.6	13.9	10.0	10.3	63.7	10.0	-

【年齢層別・男女別退院患者数】

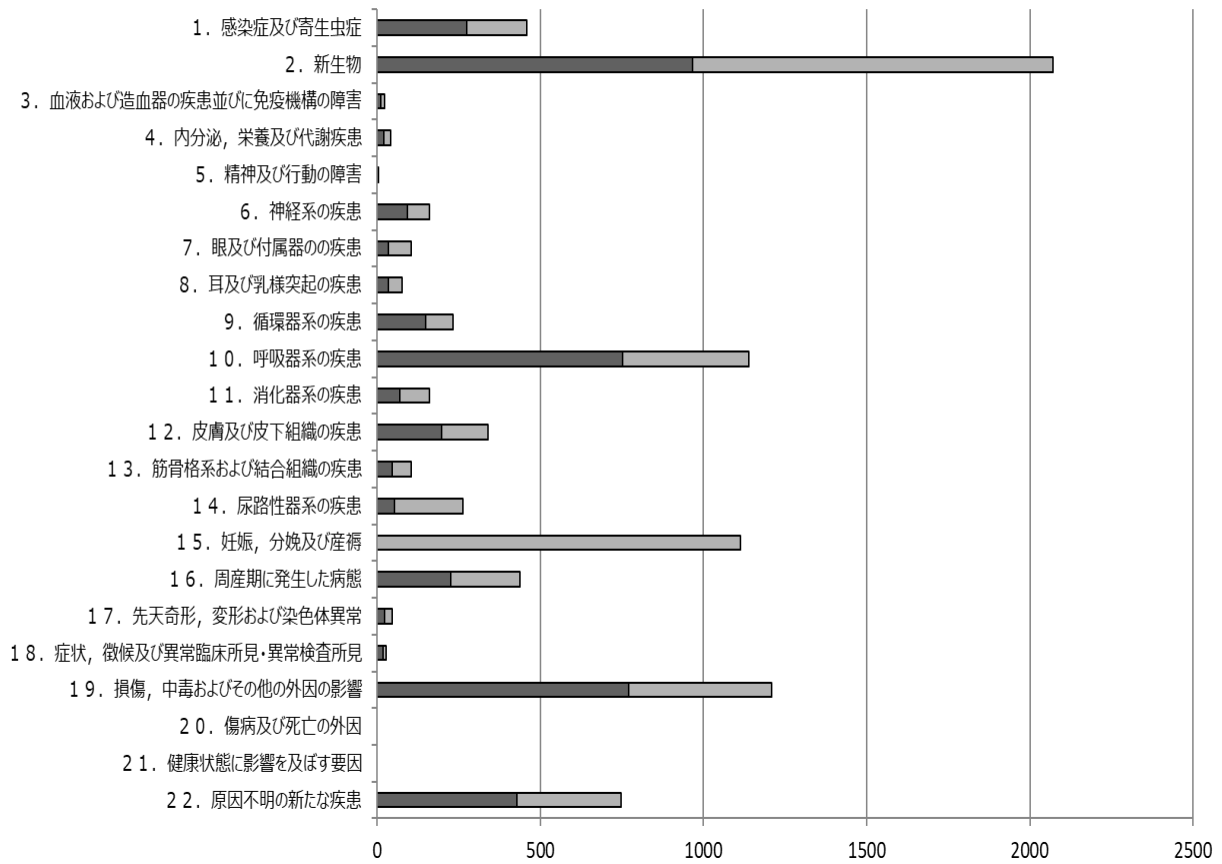


[主要疾病別・男女別退院患者の状況]

基本分類項目（ICD-10準拠）		男 性		女 性		合 計		構成比 （%）	平均在 院日数	令和2年度		令和元年度	
		うち死亡 数		うち死亡 数		うち死亡 数				合計	平均在院 日数	合計	平均在院 日数
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)		273	22	186	15	459	37	5.2	34.6	443	41.8	593	40.4
2. 新生物(C00-D48)		966	50	1,104	18	2,070	68	23.7	9.2	2,265	11.1	2,763	11.9
3. 血液および造血系の疾患並びに免疫 機構の障害 (D50-D89)		10	0	12	0	22	0	0.3	7.6	18	23.9	29	8.1
4. 内分泌、栄養及び代謝疾患(E00-E90)		19	0	23	0	42	0	0.5	10.0	31	6.8	40	15.3
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)		1	0	4	0	5	0	0.1	5.0	3	2.7	14	6.1
6. 神経系の疾患(G00-G99)		93	1	66	0	159	1	1.8	4.9	139	4.6	180	5.4
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)		33	0	71	0	104	0	1.2	3.0	234	2.3	474	5.2
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)		34	0	41	0	75	0	0.9	8.1	93	10.0	73	10.0
9. 循環器系の疾患(I00-I99)		148	13	85	6	233	19	2.7	14.4	225	17.8	281	15.5
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)		752	47	386	17	1,138	64	13.0	14.3	1,088	17.0	1,853	17.4
11. 消化器系の疾患(K00-K93)		70	2	89	0	159	2	1.8	8.4	129	7.6	168	7.9
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)		197	0	143	0	340	0	3.9	12.4	320	18.0	372	19.4
13. 筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)		45	1	59	1	104	2	1.2	21.1	60	30.7	52	35.0
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)		52	1	210	0	262	1	3.0	5.7	253	6.7	217	6.6
15. 妊娠、分娩及び産褥(O00-O99)			0	1,114	0	1,114	0	12.7	6.4	1,085	6.5	1,130	6.4
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)		225	0	212	0	437	0	5.0	6.4	380	6.1	349	5.9
17. 先天奇形、変形および染色体異常 (Q00-Q99)		23	0	23	0	46	0	0.5	5.9	59	4.9	49	5.4
18. 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見 で他に分類されないもの(R00-R99)		17	1	9	0	26	1	0.3	6.9	20	5.5	21	8.6
19. 損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)		771	1	438	0	1,209	1	13.8	1.8	1,142	2.1	1,594	2.2
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)		0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因および保健 サービスの利用(Z00-Z99)		0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0	0.0	0	0.0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)		429	20	319	16	748	36	8.5	11.4	541	13.1	10	15.8
合 計		4,158	159	4,594	73	8,752	232						
構 成 比 率		47.5%		52.5%		100%			10.0				
令和2年度	合 計	4,002	168	4,526	85	8,528	253			8,528			
	構成比率	46.9%		53.1%		100%					11.5		
令和元年度	合 計	4,991	183	5,271	97	10,262	280					10,262	
	構成比率	48.6%		51.4%		100%							12.1

主要疾病別・男女別退院患者の状況

■男 性 ■女 性



【主要疾病別・科別退院患者数】

基 本 分 類 項 目 (I C D - 1 0 準拠)	呼内	肺腫瘍	呼外	感染症	ア内	小児	皮膚	眼科	耳鼻	循内	消内	消外	乳腺	産婦人	泌尿器	合 計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	50	3	4	264	12	54	36	0	14	2	7	3	0	6	4	459
2. 新生物(C00-D48)	34	843	180	8	2	1	20	0	30	3	140	115	192	407	95	2,070
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	12	2	1	0	2	0	3	0	0	1	1	0	0	0	0	22
4. 内分泌, 栄養及び代謝疾患(E00-E90)	10	2	4	3	4	10	2	0	0	3	1	1	0	2	0	42
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	0	0	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	5
6. 神経系の疾患(G00-G99)	74	0	0	1	3	58	0	0	21	1	0	1	0	0	0	159
7. 眼及び付属器のの疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	0	104	0	0	0	0	0	0	0	104
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	1	0	0	1	0	1	0	0	72	0	0	0	0	0	0	75
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	27	7	0	6	2	0	1	0	1	185	1	1	0	0	2	233
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	483	40	117	62	74	180	3	0	166	10	1	0	1	1	0	1,138
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	3	2	0	1	6	4	2	0	12	2	57	64	0	6	0	159
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	1	0	1	0	0	2	325	0	2	2	0	0	0	5	2	340
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	49	2	1	0	37	9	2	0	1	2	0	0	0	1	0	104
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	17	2	2	4	6	3	1	0	1	4	0	2	5	169	46	262
15. 妊娠, 分娩及び産褥(O00-O99)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,113	0	1,114
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	0	0	0	0	0	327	0	0	0	0	0	0	0	110	0	437
17. 先天奇形, 変形及び染色体異常(Q00-Q99)	0	0	2	0	0	34	3	0	4	0	0	0	0	3	0	46
18. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	7	1	0	1	0	4	0	0	12	1	0	0	0	0	0	26
19. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	5	4	15	3	40	1,084	40	0	4	4	0	4	0	4	2	1,209
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	139	34	55	92	78	35	78	0	51	75	8	45	29	29	0	748
合 計	912	942	383	446	268	1,807	516	104	392	296	216	236	227	1,856	151	8,752
構 成 比 率 (%)	10.4%	10.8%	4.4%	5.1%	3.1%	20.6%	5.9%	1.2%	4.5%	3.4%	2.5%	2.7%	2.6%	21.2%	1.7%	100%
科別平均在院日数(日)	16.3	11.1	14.1	35.2	11.6	3.4	10.7	3.0	8.2	13.8	5.4	10.9	7.5	6.5	5.8	10.0
令和2年度 合 計	801	1,293	375	548	182	1,653	425	235	343	253	173	165	268	1,814	—	8,528
平均在院日数	20.9	12.8	15.9	35.7	15.2	3.4	16.4	2.3	9.3	16.7	4.5	12.0	7.0	6.4	—	11.5
令和元年度 合 計	1,074	1,594	428	546	192	2,296	416	481	384	250	239	165	283	1,914	—	10,262
平均在院日数	21.3	14.0	18.3	44.0	15.9	3.9	18.5	5.1	8.9	14.8	4.8	12.0	6.0	6.8	—	12.1

[主要疾患別・病棟別退院患者数]

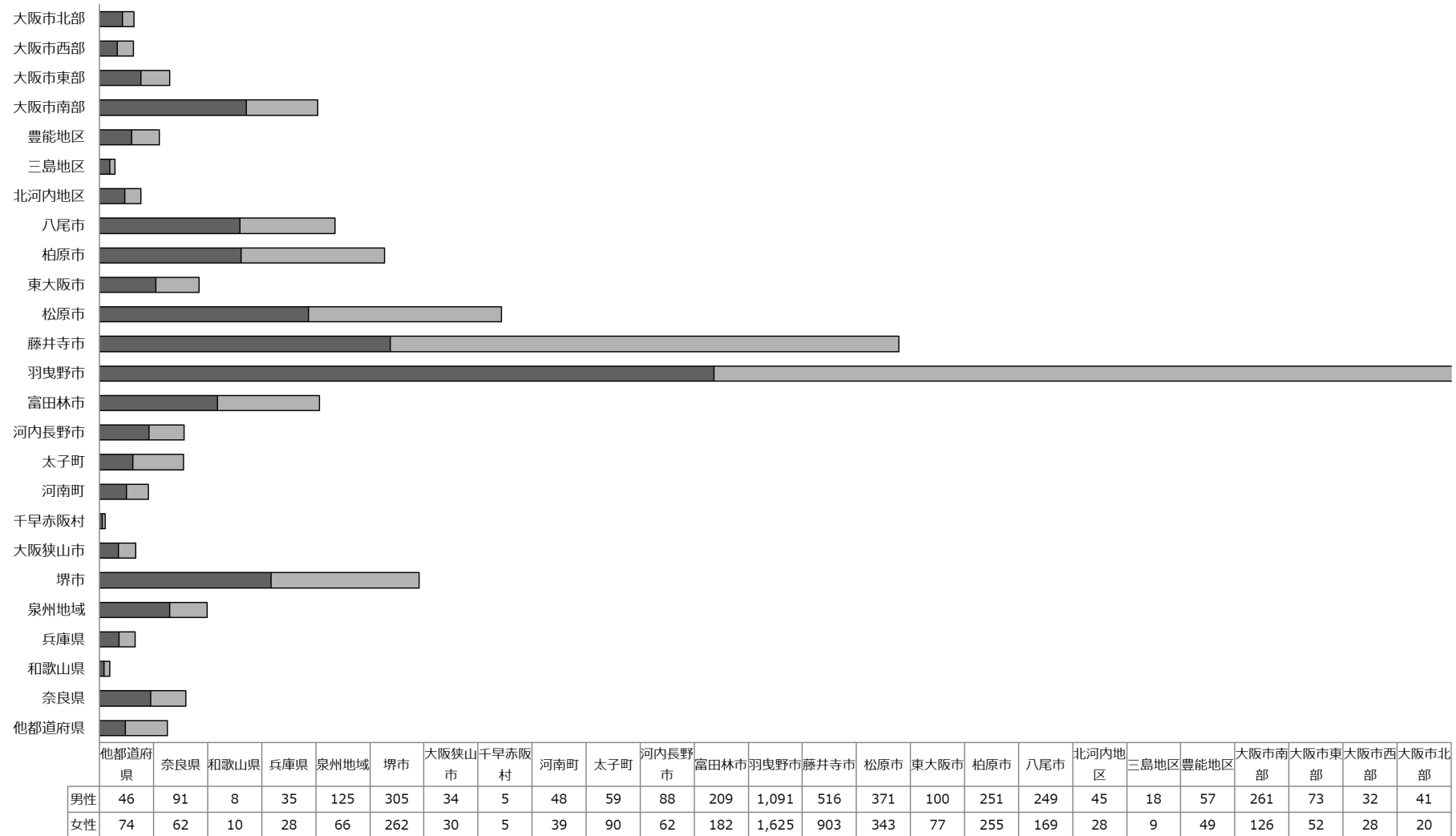
基 本 分 類 項 目 (I C D - 1 0 準拠)	1 A	2 A	2 B	4 A	5 A	7 A	9A	10A	10B	11A	合 計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	4	10	1	61	106	79	5	22	3	168	459
2. 新生物(C00-D48)	13	697	6	275	69	41	3	958	5	3	2,070
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)		2		3	12	2		3			22
4. 内分泌, 栄養及び代謝疾患(E00-E90)		5		8	10	14		5			42
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)					1	3		1			5
6. 神経系の疾患(G00-G99)	1	2		77	19	58		2			159
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)		77		16		1	10				104
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)		4		14	42	10		5			75
9. 循環器系の疾患(I00-I99)		3	6	31	182	2	1	7	1		233
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)		122	1	148	558	226	16	55	11	1	1,138
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	2	71	1	25	19	16		24		1	159
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	1	3		26	5	276	23	6			340
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	1	1		15	41	26	1	19			104
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	19	187		18	18	6		12	2		262
15. 妊娠, 分娩及び産褥(O00-O99)	1,040	13		3		23	25	8	2		1,114
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	411					26					437
17. 先天奇形, 変形及び染色体異常(Q00-Q99)	18	5			2	21					46
18. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)		1		3	17	4		1			26
19. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	2	20	2	7	21	1,147	5	5			1,209
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)			14	209	13	2		3	507		748
合 計	1,512	1,223	31	939	1,135	1,983	89	1,136	531	173	8,752
構 成 比 率 (%)	17.3%	14.0%	0.4%	10.7%	13.0%	22.7%	1.0%	13.0%	6.1%	2.0%	100%

【主要疾病別・診療圏別退院患者数】

基 本 分 類 項 目（ＩＣＤ－１０準拠）	大阪市	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	他府県	合 計
１．感染症及び寄生虫症(A00-B99)	107	6	1	8	72	203	28	23	11	459
２．新生物(C00-D48)	59	1	1	1	270	1,575	104	9	50	2,070
３．血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	0	0	0	0	1	17	3	0	1	22
４．内分泌，栄養及び代謝疾患(E00-E90)	0	0	0	0	7	32	1	1	1	42
５．精神及び行動の障害(F00-F99)	0	0	0	0	1	4	0	0	0	5
６．神経系の疾患(G00-G99)	2	0	0	0	31	118	5	1	2	159
７．眼及び付属器の疾患(H00-H59)	2	0	0	0	2	100	0	0	0	104
８．耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	0	0	0	0	3	70	2	0	0	75
９．循環器系の疾患(I00-I99)	4	0	0	2	40	180	6	0	1	233
１０．呼吸器系の疾患(J00-J99)	59	4	1	4	179	797	51	12	31	1,138
１１．消化器系の疾患(K00-K93)	3	0	0	0	15	135	4	0	2	159
１２．皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	31	13	1	12	43	123	51	28	38	340
１３．筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	2	0	0	1	18	71	8	0	4	104
１４．尿路性器系の疾患(N00-N99)	7	0	0	0	29	217	7	0	2	262
１５．妊娠，分娩及び産褥(O00-O99)	50	10	5	5	84	842	38	5	75	1,114
１６．周産期に発生した病態(P00-P99)	18	3	3	2	40	324	18	3	26	437
１７．先天奇形，変形及び染色体異常(Q00-Q99)	1	0	0	0	7	32	3	1	2	46
１８．症状，徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	2	0	0	0	4	20	0	0	0	26
１９．損傷，中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	192	66	12	28	127	391	203	94	96	1,209
２０．傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
２１．健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
２２．原因不明の新たな疾患(U00-U49)	94	3	3	10	128	449	35	14	12	748
合 計	633	106	27	73	1,101	5,700	567	191	354	8,752
構 成 比 率（％）	7.2%	1.2%	0.3%	0.8%	12.6%	65.1%	6.5%	2.2%	4.0%	100%
令和２年度 合 計	698	94	39	103	913	5,532	520	196	433	8,528
令和元年度 合 計	717	121	45	84	1,101	6,696	690	251	557	10,262

地域別・男女別退院患者の状況

■ 男性 □ 女性



【主要疾病別・月別退院患者数】

基 本 分 類 項 目 (I C D - 1 0 準拠)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	37	31	36	41	49	34	42	48	60	38	18	25	459
2. 新生物(C00-D48)	179	129	181	195	188	165	189	159	196	167	148	174	2,070
3. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)		1	3		2	1	1	5	2	3	2	2	22
4. 内分泌, 栄養及び代謝疾患(E00-E90)	6	3	1	6	4	3	3		5	5	5	1	42
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)					2			2	1				5
6. 神経系の疾患(G00-G99)	15	14	15	15	14	15	16	16	14	12	6	7	159
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)	18	9	17	13	10	9	11	9	8				104
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	7	7	9	7	7	8	6	6	8	4	3	3	75
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	29	13	23	17	17	14	19	23	15	19	16	28	233
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	98	87	90	94	115	84	91	102	123	93	70	91	1,138
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	7	8	12	10	10	11	17	22	17	15	14	16	159
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	30	23	23	34	43	26	30	22	34	31	11	33	340
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	5	5	11	12	10	10	10	7	15	8	5	6	104
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	20	20	17	28	23	28	19	25	19	19	15	29	262
15. 妊娠, 分娩及び産褥(O00-O99)	90	98	89	102	83	96	104	79	107	106	79	81	1,114
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	29	43	40	37	30	32	38	28	33	53	36	38	437
17. 先天奇形, 変形及び染色体異常(Q00-Q99)	8	4	3	4	4	5	5	2	2	4	4	1	46
18. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	4	1	1	2	2	4		2	3	3	2	2	26
19. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	114	92	85	128	149	98	95	88	106	118	29	107	1,209
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	93	97	55	40	103	111	8	5	6	57	97	76	748
合 計	789	685	711	785	865	754	704	650	774	755	560	720	8,752
令和2年度 合 計	744	475	688	794	840	764	773	704	763	615	647	721	8,528
令和元年度 合 計	894	853	816	880	922	799	871	900	940	776	802	809	10,262

【主要疾病別・年齢別退院患者数】

基 本 分 類 項 目 (I C D - 1 0 準拠)	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合 計
1. 感染症及び寄生虫症(A00-B99)	48	11	18	12	12	40	48	142	128	459
2. 新生物(C00-D48)	1	12	23	41	218	260	433	790	292	2,070
3. 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害(D50-D89)	0	0	1	1	3	2	7	3	5	22
4. 内分泌, 栄養及び代謝疾患(E00-E90)	7	3	0	3	1	1	6	9	12	42
5. 精神及び行動の障害(F00-F99)	0	3	1	0	1	0	0	0	0	5
6. 神経系の疾患(G00-G99)	19	36	10	11	15	27	23	11	7	159
7. 眼及び付属器の疾患(H00-H59)	0	0	0	0	0	0	8	46	50	104
8. 耳及び乳様突起の疾患(H60-H95)	4	6	4	5	11	9	10	21	5	75
9. 循環器系の疾患(I00-I99)	0	2	0	3	5	12	24	78	109	233
10. 呼吸器系の疾患(J00-J99)	161	58	71	30	53	74	106	289	296	1,138
11. 消化器系の疾患(K00-K93)	5	2	3	7	10	16	20	41	55	159
12. 皮膚及び皮下組織の疾患(L00-L99)	52	95	54	29	37	22	13	17	21	340
13. 筋骨格系及び結合組織の疾患(M00-M99)	9	0	4	1	1	14	22	34	19	104
14. 尿路性器系の疾患(N00-N99)	3	3	14	41	72	30	17	42	40	262
15. 妊娠, 分娩及び産褥(O00-O99)	0	9	394	644	67	0	0	0	0	1,114
16. 周産期に発生した病態(P00-P99)	437	0	0	0	0	0	0	0	0	437
17. 先天奇形, 変形及び染色体異常(Q00-Q99)	34	3	4	2	2	1	0	0	0	46
18. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの(R00-R99)	4	0	0	1	1	4	6	7	3	26
19. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響(S00-T98)	767	316	25	13	12	10	8	35	23	1,209
20. 傷病及び死亡の外因(V01-Y98)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用(Z00-Z99)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22. 原因不明の新たな疾患(U00-U49)	25	23	52	71	109	141	77	98	152	748
合 計	1,576	582	678	915	630	663	828	1,663	1,217	8,752
構 成 比 率 (%)	18.0%	6.6%	7.7%	10.5%	7.2%	7.6%	9.5%	19.0%	13.9%	100%
令和2年度 合 計	1,396	532	686	836	536	626	831	1,847	1,238	8,528
令和元年度 合 計	2,016	639	623	935	599	640	1,120	2,273	1,417	10,262

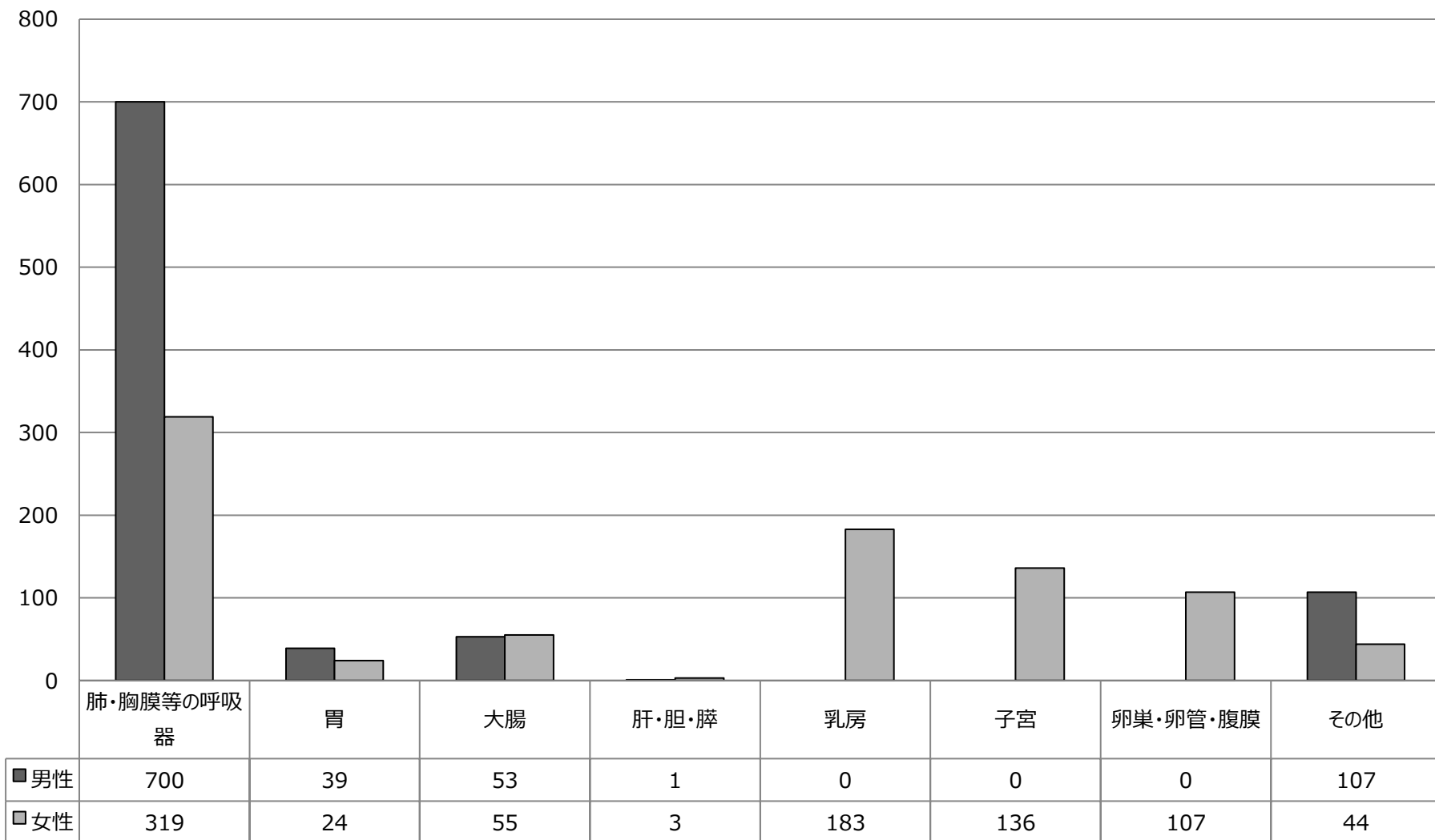
年齢階層別上位疾病順位別退院患者数	年齢階層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位	合 計 (人)
												年齢層別退院数
												比 率
★ 男 性	0～9歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	P22：新生児の呼吸窮<促>迫	J20：急性気管支炎	J46：喘息発作重積状態	L20：アトピー性皮膚炎	P07：妊娠期間短縮および低出産体重に関連する障害	P05：胎児発育遅延<成長遅滞>および胎児栄養失調	P92：新生児の哺乳上の問題	U07：COVID-19	P25：周産期に発生した間質性気腫および関連病態	742
		496	89	31	25	25	19	16	15	14	12	937
												79.2%
	10～19歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	L20：アトピー性皮膚炎	U07：COVID-19	J93：気胸	J45：喘息	J35：扁桃およびアデノイドの慢性疾患	J46：喘息発作重積状態	G93：脳のその他の障害	J36：扁桃周囲膿瘍	J32：慢性副鼻腔炎	321
		211	60	13	11	6	5	5	4	3	3	350
												91.7%
	20～29歳	L20：アトピー性皮膚炎	U07：COVID-19	J93：気胸	T78：有害作用、他に分類されないもの	J36：扁桃周囲膿瘍	J03：急性扁桃炎	A15：呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されたもの	J35：扁桃およびアデノイドの慢性疾患	A16：呼吸器結核、細菌学的又は組織学的に確認されていないもの	H91：その他の難聴	123
		33	24	18	17	10	8	4	4	3	2	150
												82.0%
	30～39歳	U07：COVID-19	L20：アトピー性皮膚炎	J93：気胸	G47：睡眠障害	T78：有害作用、他に分類されないもの	G51：顔面神経麻痺	J03：急性扁桃炎	B02：帯状疱疹〔带状疱疹〕	J36：扁桃周囲膿瘍	H90：伝音および感音難聴	84
		35	17	7	7	6	3	3	2	2	2	100
												84.0%
	40～49歳	U07：COVID-19	C34：気管支および肺の悪性新生物	L20：アトピー性皮膚炎	G47：睡眠障害	J93：気胸	J90：胸水	J32：慢性副鼻腔炎	L03：蜂巣炎（蜂窩織炎）	C61：前立腺の悪性腫瘍	J86：膿胸	152
		74	26	15	12	8	4	4	3	3	3	209
												72.7%
	50～59歳	U07：COVID-19	C34：気管支および肺の悪性新生物	G47：睡眠障害	J32：慢性副鼻腔炎	L20：アトピー性皮膚炎	A15：呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されたもの	J84：その他の間質性肺疾患	B44：アスペルギルス症	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	J46：喘息発作重積状態	236
		92	78	17	10	10	8	7	6	4	4	329
												71.7%
	60～69歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	U07：COVID-19	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	G47：睡眠障害	C61：前立腺の悪性腫瘍	J84：その他の間質性肺疾患	A15：呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されたもの	D12：結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	I20：狭心症	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	290
		138	49	16	16	15	14	12	11	10	9	455
												63.7%
	70～79歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	U07：COVID-19	J84：その他の間質性肺疾患	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	C61：前立腺の悪性腫瘍	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	A15：呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されたもの	C16：胃の悪性新生物	D12：結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	I50：心不全	629
		328	71	50	39	28	24	23	23	23	20	1004
												62.6%
	80歳以上	C34：気管支および肺の悪性新生物	U07：COVID-19	A15：呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されたもの	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	J84：その他の間質性肺疾患	J69：固形物および液状物による肺臓炎	I50：心不全	J93：気胸	H25：老人性白内障	J44：その他の慢性閉塞性肺疾患	371
		109	57	37	35	34	32	28	14	13	12	624
												59.5%

※ U07の3桁分類名については、便宜上COVID-19と表記。

年齢階層別上位疾病順位別退院患者数	年齢階層	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位	合 計 (人)	
												年齢層別退院数	比 率
★ 女 性	0～9歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	P22：新生児の呼吸窮＜促＞迫	P05：胎児発育遅延＜成長遅滞＞および胎児栄養失調	J46：喘息発作重積状態	L20：アトピー性皮膚炎	P92：新生児の哺乳上の問題	P07：妊娠期間短縮および低出産体重に関連する障害	P00：現在の妊娠とは無関係の母体の病態により影響を受けた新生児	J20：急性気管支炎	P59：その他および詳細不明の原因による新生児黄疸	493	
		266	71	28	24	22	20	18	18	13	13	639	
												77.2%	
	10～19歳	T78：有害作用、他に分類されないもの	L20：アトピー性皮膚炎	G80：脳性麻痺	U07：COVID-19	G93：脳のその他の障害	G40：てんかん	O04：医学的人工流産	J46：喘息発作重積状態	J45：喘息	D27：卵巣の良性新生物	190	
		102	31	16	10	8	7	5	4	4	3	232	
												81.9%	
	20～29歳	O62：娩出力の異常	O34：母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	O48：遷延妊娠	O42：前期破水	O70：分娩における会陰裂傷＜laceration＞	U07：COVID-19	O68：胎児ストレス【仮死】を合併する分娩	O60：早産	O32：胎位異常またはその疑いのための母体ケア	O72：分娩後出血	316	
		64	47	42	37	35	28	26	13	13	11	528	
												59.8%	
	30～39歳	O62：娩出力の異常	O42：前期破水	O34：母体骨盤臓器の異常またはその疑いのための母体ケア	O68：胎児ストレス【仮死】を合併する分娩	O70：分娩における会陰裂傷＜laceration＞	U07：COVID-19	O48：遷延妊娠	O60：早産	O32：胎位異常またはその疑いのための母体ケア	O65：母体の骨盤異常による分娩停止	511	
		154	62	55	50	47	36	36	31	20	20	815	
												62.7%	
	40～49歳	D25：子宮平滑筋腫	C50：乳房の悪性新生物	U07：COVID-19	C53：子宮頸（部）の悪性新生物	N84：女性性器のポリープ	N87：子宮頸（部）の異形成	N80：子宮内膜症	O62：娩出力の異常	C54：子宮体部の悪性新生物	D27：卵巣の良性新生物	250	
		63	45	35	21	17	16	15	14	12	12	350	
												71.4%	
	50～59歳	U07：COVID-19	C50：乳房の悪性新生物	C34：気管支および肺の悪性新生物	C56：卵巣の悪性新生物	C54：子宮体部の悪性新生物	D25：子宮平滑筋腫	J32：慢性副鼻腔炎	N84：女性性器のポリープ	A31：その他の非結核性抗酸菌による感染症	N87：子宮頸（部）の異形成	197	
		49	35	29	29	15	13	9	7	6	5	334	
												59.0%	
	60～69歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	C50：乳房の悪性新生物	C54：子宮体部の悪性新生物	U07：COVID-19	C57：その他および部位不明の女性生殖器の悪性新生物	C20：直腸の悪性新生物	C56：卵巣の悪性新生物	A31：その他の非結核性抗酸菌による感染症	C53：子宮頸（部）の悪性新生物	C18：結腸の悪性新生物	220	
		63	35	31	28	14	11	11	10	9	8	373	
												59.0%	
	70～79歳	C34：気管支および肺の悪性新生物	C50：乳房の悪性新生物	H25：老人性白内障	U07：COVID-19	C56：卵巣の悪性新生物	A31：その他の非結核性抗酸菌による感染症	C54：子宮体部の悪性新生物	J84：その他の間質性肺疾患	C16：胃の悪性新生物	D12：結腸、直腸、肛門および肛門管の良性新生物	353	
		134	50	28	27	26	23	17	16	16	16	659	
												53.6%	
	80歳以上	U07：COVID-19	C34：気管支および肺の悪性新生物	H25：老人性白内障	J15：細菌性肺炎、他に分類されないもの	I50：心不全	A15：呼吸器結核、細菌学的または組織学的に確認されたもの	J69：固形物および液状物による肺臓炎	J84：その他の間質性肺疾患	A31：その他の非結核性抗酸菌による感染症	C50：乳房の悪性新生物	345	
		95	73	37	29	26	22	20	20	12	11	593	
												58.2%	

※ U07の3桁分類名については、便宜上COVID-19と表記。

悪性新生物・部位別延べ退院患者数



第3 各部署の活動状況

1. 診療各科

(呼吸器総合センター)

呼吸器内科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
松岡洋人	主任部長	日本内科学会総合内科専門医・指導医
	呼吸器研究室室長	日本呼吸器学会専門医・指導医
	呼吸ケアセンター長	
馬越泰生	医長	日本内科学会総合内科専門医
田村香菜子	医長	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医
森泉和則	診療主任	日本内科学会認定医、感染制御医（ICD）
		日本医師会認定産業医
山田知樹	診療主任	日本内科学会認定医
(呼吸器総合センター所属)		
酒井俊輔	医員	日本内科学会認定医
柳瀬隆文	医員	緩和ケア研修修了
岡田英泰	医員	日本内科学会認定医、緩和ケア研修修了
岡部福子	医員	緩和ケア研修修了
朝川 遼	レジデント	
梶谷嘉起	レジデント	

2. 診療概要

呼吸器内科は大阪府立結核療養所羽曳野病院の昭和48年からの新病棟業務開始より第4内科と集中治療科が非がん呼吸器疾患の診療を開始することに始まる。呼吸不全を中心とした各種症例に対する包括的呼吸器ケアを掲げ診療を行ってきた。最近の画像診断の進歩に加え、呼吸器病理診断を自院で行うことによりびまん性肺疾患の診断にも重きを置いている。外来受診した間質性肺炎の病名のついた患者は500人以上にもなる。

慢性疾患看護専門看護師、慢性呼吸器疾患看護認定看護師が、外来、入院ともに急性期から慢性期まで呼吸器疾患患者に対する質の高い看護を提供し、他の看護師に対する教育や啓蒙、看護システム構築などを行っている。呼吸器リハビリテーションも専門的に行い、在宅酸素療法導入などにも寄与している。

在宅酸素療法（HOT）の処方数については240名程度となっている。高流量酸素を必要とする症例もあり、酸素濃縮器（7L機）を2台（中には3台）設置せざるを得ない場合もある。呼吸機能以外は保たれている症例の場合、高流量酸素でのHOTをすることにより入院の長期化を避け、在宅療養を可能とすることができる。

慢性安定期のNPPVの処方数は30名程度で推移している。最近は疾病構造の変化から、肺結核後遺症などの拘束性胸郭疾患の新規導入が減少している。

平成 12 年から閉塞性睡眠時無呼吸症候群（OSAS）に対する診療を開始している。CPAP 処方数は 90 名程度である。

令和 2 年に入り、新型コロナウイルス感染症の診療も行うこととなり、業務量がかなり増加した。当院では、酸素投与を要する中等症（Ⅱ）の症例の入院要請が多くあった。また、慢性人工透析の必要な症例も受け入れた。その中でも、専門性を要する呼吸器診療は堅持できたと考える。

研究では、浜松医科大学、名古屋大学の主導するびまん性肺疾患、特発性肺線維症のデータベース構築（PROMISE 試験、IBiS 試験）に参加することとした。

3. 診療実績

延べ外来患者数 11,475 人

延べ入院患者数 14,402 人

実入院患者数 799 人

（主な疾患 間質性肺炎 166 人、慢性閉塞性肺疾患 68 人、睡眠時無呼吸症候群 69 人、肺炎・肺化膿症 156 人、気管支喘息・気管支拡張症 22 人、気胸 16 人、COVID-19 107 人 他）

4. 施設認定

日本呼吸器学会認定施設

日本呼吸器学会内科系指導施設

5. 業績

【学会発表】

山田知樹, 柳瀬隆文, 酒井俊輔, 森泉和則, 馬越泰生, 森下 裕,, 松岡洋人.気管軟骨表層の外科生検により診断に至った再発性多発軟骨炎の 1 例.第 97 回日本呼吸器学会近畿地方会 令和 3 年 7 月 10 日, WEB.

朝川 遼, 岡部福子, 梶谷嘉起, 岡田英泰, 酒井俊輔, 柳瀬隆文, 山田知樹, 森泉和則, 松岡洋人.無症状の鼻中隔・耳介軟骨で組織診断に至った再発性多発軟骨炎の 1 例.第 235 回日本内科学会近畿地方会 令和 4 年 3 月 12 日, WEB.

【啓発・研修活動】

岡部福子, 松岡洋人.当院での再発性多発軟骨炎の経験.呼吸器内科レジデント・若手医師懇話会 令和 3 年 10 月 21 日, 大阪.

松岡洋人.耳鼻咽喉科診療における呼吸器疾患.第 4 回はびきの耳鼻咽喉科セミナー 令和 3 年 11 月 6 日, 大阪.

森下 裕. 睡眠時無呼吸症候群の診療のポイント.はびきのチャンネル 令和 3 年 10 月 16 日, WEB.

(呼吸器総合センター)

肺腫瘍内科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
鈴木秀和	主任部長	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
	外来化学療法科	日本がん治療認定医機構がん治療認定医
	主任部長	日本呼吸器学会専門医・指導医、日本呼吸器内視鏡学会専門医 緩和ケア研修修了
岡本紀雄	主任部長	日本内科学会総合内科専門医
	(呼吸器内視鏡内科)	日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医、評議員 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医・指導医
森下直子	副部長	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医
	(外来化学療法科)	日本呼吸器内視鏡学会専門医、緩和ケア研修修了
田中彩子	医長	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会専門医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医

(呼吸器総合センター所属)

酒井俊輔	医員	日本内科学会認定医
柳瀬隆文	医員	緩和ケア研修修了
岡田英泰	医員	日本内科学会認定医、緩和ケア研修修了
岡部福子	医員	緩和ケア研修修了
朝川 遼	レジデント	
梶谷嘉起	レジデント	

2. 診療概要

当科は呼吸器悪性腫瘍について、診断から終末期に至るまで他科および医療チームと連携しながら専門性の高い診療を行ってきた。これは世界的な Covid-19 感染症のなかでも継続された。

診断に関しては最新の遺伝子パネル検査、免疫染色などを随時導入し常に標準治療を行える体制を整え、臨床試験にも積極的に参加してきた。今年度もこの流れは継承されているが、関連スタッフの大幅な減少と Covid19 感染症に注力せざるを得ない面もあった。

当科の特色としては診断の早い時期からの入院、外来を通じ、専門スタッフによるチーム医療が行われていることである。安全性に配慮し、原則として新規抗がん剤導入は入院にて行っている。最近は特にがん治療の外来の占める割合が大きくなっており外来化学療法についても充実してきている。

3. 診療実績

延べ外来患者数	8,548 人
延べ入院患者数	10,488 人

実入院患者数 905 人
(主な疾患 肺がん 774 人、その他の悪性腫瘍 21 人 他)
外来化学療法実施患者数 1,410 人

4. 施設認定

日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、
大阪府がん診療拠点病院 (がん)

5. 業績

【啓発・研修活動】

鈴木秀和.肺癌の診断と治療.はびきのチャンネル 令和4年1月20日, WEB.

呼吸器外科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
門田嘉久	主任部長	日本外科学会専門医・指導医、日本胸部外科学会認定医
	気胸センター長	日本呼吸器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
		がんリハビリテーション研修修了、大阪大学医学部臨床教授
北原直人	副部長	日本外科学会専門医、日本呼吸器外科学会専門医
		日本がん治療認定医機構がん治療認定医
杉浦裕典	医員	緩和ケア研修修了
安藤紘史郎	医員	緩和ケア研修修了
福山 馨	医員	緩和ケア研修修了

2. 診療概要

主な診療対象疾患は原発性肺癌、転移性肺腫瘍、肺良性腫瘍、悪性胸膜中皮腫、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、
嚢胞性肺疾患・気胸、炎症性肺疾患、膿胸などである。

肺癌に対しては約 140 例の手術が施行された。画像診断の進歩に及び高齢者人口の増加により小型
肺癌が増加しており低侵襲手術のニーズが高まっている。

当科では胸腔鏡手術を積極的に行っている。肺癌手術の胸腔鏡手術は約 85%を占めた。縦隔疾患、気
胸、肺嚢胞手術では 90%を超える症例で胸腔鏡下手術を行った。1 期肺癌に対して単項式胸腔鏡手術
を導入しさらに治療の低侵襲化をすすめている。今年度も引き続き入院診療の効率化をすすめ、入院期
間の短縮をはかることができた。

進行肺癌に対しては肺腫瘍内科・放射線科と連携し外科治療を含む集学的治療を行っている。また
COPD、間質性肺臓炎、結核などの呼吸器合併症や高齢者に多い心、肝、腎、糖尿病などの合併症によ
る耐術能低下を伴う症例に対しても縮小手術による外科治療を積極的に行っている。また癌の進行に

ともなう中枢気道を狭窄には肺腫瘍内科及び麻酔科の協力の下に全身麻酔下に硬性気管支鏡を用いた気道ステント挿入術とバルーン拡張術を行っている。

耐性結核、NTM、肺真菌症などの難治性の感染症には病勢コントロールを目的とした外科治療が依然求められており、高度な技術を要する対象となっている。急性膿胸には積極的な治療介入により治療期間の短縮を図ることが出来ている。

3. 診療実績

延べ外来患者数 6,761 人

延べ入院患者数 5,507 人

実入院患者数 383 人

(主な疾患 肺がん 154 人、気胸 78 人、炎症性肺疾患 38 人、縦隔腫瘍 13 人 他)

手術件数 260 件

(主な手術 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 95 件、胸腔鏡下肺切除術 60 件
肺悪性腫瘍手術 18 件、肺切除術 6 件 他)

4. 施設認定

日本外科学会外科専門医制度修練施設、日本呼吸器学会外科系指導施設

日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設、日本胸部外科学会認定医認定制度指定施設

集中治療科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
柏 庸三	主任部長	日本集中治療医学会認定集中治療専門医 日本内科学会認定総合内科専門医 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医、日本内科学会認定医 日本呼吸療法医学会認定呼吸療法専門医

2. 診療概要

集中治療科では、臓器や疾患を問わず全ての診療科から重症患者を受け入れ、最新の知見に基づき先進医療技術を駆使した急性期集中治療を行うことで、臓器機能を回復させ、病態を改善し、患者を救命することを目指している。重症診療部門として高度治療室 HCU 8 床を有し、時間内は専任の集中治療医が各診療科主治医と協議のもとに診療を担当する semi-closed HCU 形式にて診療を行なっている。集中治療科医師、看護師、理学療法士、臨床工学士、呼吸サポートチーム、各診療科とカンファレンスを行いながら、治療に関わるすべての業種・スタッフで病態に関する情報および治療方針を日々共有し、より適切な治療が行えることを目指したチーム医療を実践している。

令和 3 年度に当部門で受け入れを行った疾患・病態は、重症呼吸器感染症や敗血症に伴う ARDS、間質性肺炎急性増悪、COPD 増悪に伴う CO₂ ナルコーシス、急性心筋炎や虚血性心疾患、心筋症などによる重症心不全、血液浄化療法を要する慢性腎不全や急性腎障害、意識障害や心停止蘇生後の管理

など、その領域は多岐にわたる。特に当部門では、HCU 内に陰圧個室を有し、人工呼吸管理や持続的血液浄化療法などを必要とする重症肺結核患者の集中治療が可能であり、令和 3 年度においても、重症肺結核患者の診療を感染症内科と共同して行っている。さらに、令和 2 年から続く COVID-19 パンデミックにおいては、第 4 波より集中治療科 HCU 内に COVID-19 専用病室を設け、主に侵襲的人工呼吸管理などの集中治療を要する重症患者の診療を担った。

3. 診療実績

● 2 B 入室症例数 (COVID-19 除く)

呼吸器外科 159 例 消化器外科 46 例 産婦人科 46 例 呼吸器内科 12 例 泌尿器科 6 例
感染症内科 5 例 救急 4 例 肺腫瘍内科 3 例 循環器内科 2 例 乳腺外科 2 例
アレルギー・リウマチ内科 1 例 小児科 1 例 集中治療科 (直入院) 45 例 計 332 例

● 2 B 入室の COVID-19 患者への

人工呼吸症例数 29 例 うち侵襲的人工呼吸症例 8 例
ハイフローセラピー症例数 3 例
血液浄化療法症例数 1 例

● 2 B 入室の非 COVID-19 患者への

人工呼吸症例数 37 例 うち侵襲的人工呼吸症例 8 例
ハイフローセラピー症例数 8 例
血液浄化療法症例数 3 例

4. 業績

【論文】

Kitajima H, Hirashima T, Suzuki H, Arai T, Tamura Y, Hashimoto S, Morishita H, Matsuoka H, Kashiwa Y, Han Y, Minamoto S, Nagai T. Scoring system for identifying Japanese patients with COVID-19 at risk of requiring oxygen supply: A retrospective single-center study. J Infect Chemother. 27:1217-1222, 2021.

Hashimoto S, Yoshizaki K, Uno K, Kitajima H, Arai T, Tamura Y, Morishita H, Matsuoka H, Han Y, Minamoto S, Hirashima T, Yamada T, Kashiwa Y, Kameda M, Yamaguchi S, Tsuchihashi Y, Iwahashi M, Nakayama E, Shioda T, Nagai T, Tanaka T. Prompt Reduction in CRP, IL-6, IFN- γ , IL-10, and MCP-1 and a Relatively Low Basal Ratio of Ferritin/CRP Is Possibly Associated With the Efficacy of Tocilizumab Monotherapy in Severely to Critically Ill Patients With COVID-19. Front Med (Lausanne). 23:734838-, 2021.

感染症内科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
永井崇之	主任部長	日本感染症学会推薦 ICD
北島平太	医員	日本内科学会認定医、日本エイズ学会認定医
仮屋勇希	医員	

2. 診療概要

当科は肺抗酸菌感染症を中心に診療を行っており、大阪府下発生新規結核患者の約 1/5、多剤耐性結核（初回治療例の 0.5%）に関しては府下発生患者の約 1/2 を当院にて治療している。耐性結核蔓延防止の為には脱落をふせぐことが重要であり、多職種にて週 1 回の結核教室を定期開催し患者教育を継続的に実施している。患者教育の充実により脱落率は年間 1%以下と良好な治療成績である。近年新規抗結核薬（多剤耐性専用薬）の開発にて、耐性結核の治療成績は劇的に改善している。

平成 26 年度～令和元年度における耐性結核治療成績 は以下の通り

MDR（多剤耐性結核）21 例；治癒 15 例、他疾患死亡 1 例、転院帰国 4 例、脱落 1 例

XDR（超多剤耐性結核）16 例；治癒 9 例、他疾患死亡 4 例、転院帰国 1 例、脱落 2 例

37 症例全例にて 6 ヶ月以内の排菌陰性化が得られた。

難治性 MAC 症に対して標準治療薬として吸入リボソーマルアミカシンが使用可能となった。当院では 10 名弱（2022/7）の使用経験を有する。

結核の早期診断/治療などの情報を発信、講演を中心とした啓蒙活動を継続している。また結核早期診断を目的とした、新たな診断ツール（核酸増幅法）の開発研究を民間企業と合同で行っている。

3. 診療実績

延べ外来患者数 7,686 人

延べ入院患者数 15,330 人

実入院患者数 430 人

（主な疾患 結核 171 人、肺非結核性抗酸菌症 48 人、肺アスペルギルス症 17 人、COVID-19 107 人 他）

4. 施設認定

日本感染症学会認定研究施設

5. 業績

【学会発表】

田村嘉孝.結核治療の実際と最近の話題.第 127 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 令和 3 年 7 月 10 日, 大阪.

新井 剛, 福山 馨, 小菅 淳, 杉浦裕典, 北原直人, 門田嘉久, 酒井俊輔, 柏庸三, 北島平太, 韓由紀, 橋本章司, 田村嘉孝, 永井崇之.結核性リンパ節炎の治療中に化膿性リンパ節炎及び心外膜炎を

来した1例.第127回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 令和3年7月10日,大阪.

北島平太,新井 剛,小菅 淳,北原直人,韓由紀,橋本章司,田村嘉孝,永井崇之.粟粒結核治療中に難治性気胸をきたした1例.第127回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 令和3年7月10日,大阪.

北島平太,田村嘉孝,吉多仁子,木下人美,勝田寛基,松井 謹,松下 茜,新井 剛,韓由紀,橋本章司,永井崇之.臨床検体を用いた新型コロナウイルス遺伝子検査における臨床的有用性の検討:LAMP法とPCR法との比較.第127回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会 令和3年7月10日,大阪.

北島平太,新井 剛,田村嘉孝,橋本章司,永井崇之.COVID-19重症化因子に関する単施設後方視的検討～酸素が必要になるかどうかを予測する～.第95回日本感染症学会学術講演会 令和3年5月7-9日,WEB.

永井崇之,北島平太,新井 剛,韓由紀,橋本章司,松井 謹,吉多仁子,田村嘉孝.全自動核酸検査装置 Simprova 抗酸菌症パネル(栄研化学、以下 Simprova)での活動性結核菌検出性能の評価.第96回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会 令和3年6月18-19日,WEB.

新井 剛,北島平太,韓由紀,橋本章司,松井 謹,吉多仁子,田村嘉孝,永井崇之.リファンピシンからリファブチンへ変更した結核症例に関する検討.第96回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会・学術講演会 令和3年6月18-19日,WEB.

アレルギー・リウマチ内科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
源 誠二郎	主任部長	日本内科学会認定医、日本アレルギー学会専門医・指導医 日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医 日本リウマチ学会専門医、日本呼吸器内視鏡学会専門医・指導医
韓 由紀	副部長	日本結核・非結核抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医
松野 治	副部長	日本内科学会総合内科専門医、日本呼吸器学会専門医・指導医 日本アレルギー学会専門医・指導医
石田 裕	医員	日本内科学会認定内科医、日本リウマチ学会専門医、緩和ケア研修修了

2. 診療概要

当科は、気管支喘息を中心とした呼吸器アレルギー疾患を大きなテーマとして診療を行っている。気管支喘息の診療患者数は大阪府下では最も多く、全国でもトップクラスの症例数を診療している。

治療方針としては、吸入指導の徹底を基本として喘息治療を行い、重症患者に対しては抗体製剤の使用や非薬物的療法である気管支サーモプラスティを行って、よりよいコントロール状態をめざしている。

また、リウマチ性疾患として、関節リウマチや膠原病などの診療を行っている。これらの疾患を適切に管理できる施設は、大阪府下でも限られている。アレルギー性疾患に加えて、リウマチ性疾患も、受診患者数が徐々に増えている。令和3年度は、新たに2名の日本リウマチ学会専門医が加わって、より一層の充実した診療が行えるようになった。

令和3年度は、令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の蔓延で、最前線で、COVID-19患者の対応を、呼吸器関連内科の一つとして担当した。そのような状況下で、病棟などの診療体制が大きく変わり、いままでの診療を維持することが難しくなっているなかでも、当科として、喘息やリウマチ性疾患などの診療に支障が出ないよう努めた。

3. 診療実績

延べ外来患者数 9,056 人

延べ入院患者数 2,979 人

実入院患者 216 人

(主な疾患 喘息 27 人、関節リウマチ・膠原病 38 人、アナフィラキシー 33 人
COVID-19 64 人 他)

以下の設備も整え、呼吸器アレルギー疾患の診療経験が豊富な医師が適切に診断・診療している。

- 精密呼吸機能検査 ●呼気 NO の測定 ●高分解能 CT 検査
- アストグラフを用いた気道過敏性テスト ●モストグラフによる呼吸抵抗の測定
- FACS スキャン

4. 施設認定

日本アレルギー学会アレルギー専門医療教育研修施設

日本リウマチ学会教育施設

大阪府アレルギー疾患医療拠点病院

5. 業績

【論文】

Matsuno O, Minamoto S. Retropharyngeal edema: A rare manifestation of eosinophilic granulomatosis with polyangiitis. Respir Med Case Rep. 34:101539-, 2021.

Matsuno O, Minamoto S. COVID-19 in a Patient With Severe Eosinophilic Asthma on Benralizumab Therapy: A Case Report and Review of Literature. Cureus. 13:e20644-, 2021.

【学会発表】

松野 治. 内科からみた移行期医療の現状と問題点. 第37回日本小児臨床アレルギー学会 令和3年5月1-2日, WEB.

【著作・著書】

源誠二郎.気管支喘息（気管支喘息の病態の診断、気管支喘息の治療、アレルギーの機序と分子標的薬）.薬剤師が知っておきたい病気と薬剤のはなし.（遠山正彌，馬場明道，土井健史）株式会社金芳堂，京都，pp.151-157, 2021.

【啓発・研修活動】

石田 裕.関節リウマチの診断と治療.はびきのチャンネル 令和3年6月16日, WEB.

松野 治.喘息治療におけるトリプル製剤の意義について.第15回大阪アズマネットワーク 令和3年7月17日, WEB.

緒方 篤.関節リウマチ治療 UP to DATE はびきの RA ネットワーク 令和3年11月6日, 羽曳野市.

小児科

1, スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
亀田 誠	主任部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医
吉田之範	部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医
高岡有理	副部長	日本小児科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会専門医・指導医 日本医師会認定産業医
重川 周	医長	日本小児科学会専門医
深澤陽平	医長	日本小児科学会専門医・指導医
釣永雄希	診療主任	日本小児科学会専門医、日本アレルギー学会専門医、 日本小児感染症学会小児感染症認定医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医 日本周産期・新生児医学会新生児蘇生法「専門」コース（Aコース）修了
上野瑠美	診療主任	小児科専門医
山口智裕	レジデント	
九門順子	レジデント	小児科専門医

2, 診療概要

今年度も昨年度に引き続き新型コロナ感染症の影響が色濃く残る1年であった。小児の感染症患者は当初は微々たるものではあったが、デルタ株、オミクロン株と小児への感染力も高まり、陽性患者も急増した。幸いに小児では重症化することは稀であり、要入院患者の増加はなかった。

今年度も当科は、アレルギー疾患を中心に診療を行っている。今年度も食物アレルギーを中心に、気管支喘息、また合併するアトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎などの治療を行ってきた。治療内容はガイドラインをベースにしつつも最新の知見を元に組み立て、また新たな治療方法の模索、確立に

向けて研究的な治療も数多く含まれている。特に食物アレルギーと気管支喘息では重症、難治症例が数多く集まることから全国的な臨床研究や新規薬剤の治験にも参画している。

地域医療に貢献することも重要な役割である。令和3年1月から大阪急性期・総合医療センターの協力で開設した循環器外来は1年を経て軌道に乗ってきた。また近隣の小児科からの要入院患者、入院の必要性の判断を必要とする患者の受け入れも、医師にダイレクトに依頼が入るように改善を図り連携強化に取り組んだ。また社会的にニーズの高まりがあるレスパイト入院も継続して受け入れを行った。

新生児部門では、当センター産婦人科が多数の分娩を扱っていることから新生児医療の充実も図っている。産科との定期カンファレンスで相互の情報交換を密にし、より安全な周産期医療の構築に努めている。

3, 診療実績

延べ外来患者数 17,503 人

延べ入院患者数 6,144 人

実入院患者数 1,788 人

(主な疾患 食物アレルギー 1,082 人、喘息 89 人、肺炎・気管支炎 91 人、
新生児疾患・先天性疾患 321 人 他)

食物アレルギー関連の入院が 1,082 名である。その殆どが経口負荷テストで全国でも屈指の実施数である。

診療に加え、学会活動にも積極的に参画している。

なお「小児気管支喘息治療・管理ガイドライン 2020」「食物アレルギー診療ガイドライン 2021」の作成に携わっている。

4, 施設認定

日本小児科学会専門医研修施設、
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
大阪府アレルギー疾患医療拠点病院

1, 業績

【論文】

Maeta A, Takaoka Y, Kameda M, Takahashi K. Relationship between the outcome of low-dose egg oral immunotherapy and the fold-difference levels of allergen-specific IgE and IgG4 in serum. Asian Pac J Allergy Immunol DOI 10.12932/AP-100620-087.:-,2021.

吉田之範, 亀田 誠. ガイドライン解説 第10章 思春期・青年期喘息と移行期医療. 日本小児アレルギー学会誌. 35:477-481, 2021.

深澤陽平, 吉田之範, 九門順子, 他. 大阪府単一施設における思春期喘息児の通院状況. 日本小児科学会雑誌. 125:798-804, 2021.

Maeta A, Takaoka Y, Nakano A, Hiraguchi Y, Hamada M, Takemura Y, Kawakami T, Okafuji I, Kameda M, Takahashi K. Progress of Home-Based Food Allergy Treatment during the Coronavirus Disease Pandemic in Japan: A Cross-Sectional Multicenter Survey. *Children (Basel)*. 2021 Oct 15;8(10):919. doi: 10.3390/children8100919.:-,2021.

Murai H, Irahara M, Sugimoto M, Takaoka Y, Takahashi K, Wada T, Yamamoto-Hanada K, Okafuji I, Yamada Y, Futamura M, Ebisawa M. Is oral food challenge useful to avoid complete elimination in Japanese patients diagnosed with or suspected of having IgE-dependent hen's egg allergy? A systematic review. *Allergol Int*. 2021 Oct 15;S1323-8930(21)00125-8. doi: 10.1016/j.alit.2021.09.005. Online ahead of print.:-,2021.

【学会発表】

亀田 誠.小児気管支喘息における移行期医療.第 61 回日本呼吸器学会学術講演会, 令和 3 年 4 月 23 日, 東京・ハイブリッド.

吉田之範.思春期喘息児の現状と課題.第 37 回日本小児臨床アレルギー学会, 令和 3 年 6 月 12 日, WEB.

亀田 誠.小児気管支喘息とストレス、神経ペプチド.第 70 回日本アレルギー学会学術大会, 令和 3 年 10 月 8 日, 横浜・ハイブリッド.

吉田之範, 深澤陽平, 九門順子, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 重川 周, 高岡有理, 亀田 誠, 河辺隆誠, 奥野未佳, 花田有紀子, 川島佳代子.気管支喘息児にアレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法を開始時の喘息評価の重要性.第 70 回日本アレルギー学会学術大会, 令和 3 年 10 月 8 日, 横浜・ハイブリッド.

吉田之範, 九門順子, 山口智裕, 上野 瑠美, 釣永雄希, 深澤陽平, 重川 周, 高岡有理, 亀田 誠.成人期を迎えた原発性繊毛運動機能不全症の 2 症例.第 52 回日本小児呼吸器学会, 令和 3 年 10 月 22-23 日, WEB.

亀田 誠.小児アレルギー疾患治療の最前線.第 48 回日本小児臨床薬理学会学術集会, 令和 3 年 10 月 24 日, 神戸・ハイブリッド.

亀田 誠.小児アレルギー疾患治療の最前線.第 6 回日本アレルギー学会近畿地方会, 令和 3 年 10 月 31 日, 滋賀・ハイブリッド.

亀田 誠.小児アレルギーエデュケーター制度について ～その目指すところ～.第 6 回日本アレルギー学会近畿地方会, 令和 3 年 10 月 31 日, 滋賀・ハイブリッド.

高岡有理.シンポジウム 2「アレルギーマーチ予防の可能性 ～小児科医の夢を語る～」 早期抗原摂取.第 58 回日本小児アレルギー学会学術大会, 令和 3 年 11 月 13-14 日, 横浜・ハイブリッド.

高岡有理, 中農昌子, 前田晃宏, 平口雪子, 濱田匡章, 竹村 豊, 川上智子, 岡藤郁夫, 亀田 誠, 高橋享子.COVID-19 流行による第 1 回緊急事態宣言がアレルギー疾患に与えた影響についての保護者へのアンケート調査.第 58 回日本小児アレルギー学会学術大会, 令和 3 年 11 月 13-14 日, 横浜・ハイブリッド.

上野瑠美, 山口智裕, 釣永雄希, 深澤陽平, 重川 周, 高岡有理, 吉田之範, 亀田 誠. 肝機能障害と体重増加不良をきたし生後 6 ヶ月で診断に至った糖原病 Ia 型の一例.第 35 回近畿小児科学会, 令和 4 年 2 月 27 日, WEB.

泉本麻耶, 深澤陽平, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 重川 周, 高岡有理, 田之範, 亀田 誠.単施設における小児喘息とアレルギー性鼻炎の合併例についての検討.第 35 回近畿小児科学会, 令和 4 年 2 月 27 日, WEB.

【著作・著書】

高岡有理.第 12 章鶏卵・牛乳・小麦アレルギー.食物アレルギー診療ガイドライン 2021. (日本小児アレルギー学会) 協和企画, 東京, 2021.

亀田 誠.同種薬の特徴と使い分け-小児の気管支喘息発作治療薬.今日の治療指針 私はこうして治療している 2022. (福井次矢, 高木 誠, 小室一成) 医学書院, 東京, 2021.

亀田 誠.同種薬の特徴と使い分け-小児の気管支喘息長期管理薬.今日の治療指針 私はこうして治療している 2022. (福井次矢, 高木 誠, 小室一成) 医学書院, 東京, 2021.

亀田 誠.同種薬の特徴と使い分け-小児の抗アレルギー薬.今日の治療指針 私はこうして治療している 2022. (福井次矢, 高木 誠, 小室一成) 医学書院, 東京, 2021.

【啓発・研修活動】

吉田之範.これからの小児喘息治療～JPGL2020 を踏まえて～.奈良小児喘息講演会 令和 3 年 4 月 10 日, WEB.

深澤陽平.小児重症喘息への対応 ～鑑別、確認事項を中心に～.臨床アレルギーセミナーin はびきの, 令和 3 年 5 月 21 日,WEB.

深澤陽平.オマリズマブからデュピルマブ に切り替えた重症喘息の 1 例.小児重症喘息セミナー, 令和 3 年 6 月 10 日, WEB.

亀田 誠.食物アレルギーへの適切な対応について.大阪府立生野支援学校研修会, 令和 3 年 7 月 20 日, 大阪市.

亀田 誠.食物アレルギーへの適切な対応について.東淀川支援学校研修会, 令和 3 年 7 月 30 日, 大阪市.

亀田 誠.食物アレルギーへの適切な対応について.能勢町ささゆり学園研修会, 令和 3 年 8 月 2 日, 能勢町.

高岡有理.食物アレルギー研修.八尾支援校学校, 令和 3 年 8 月 3 日, 八尾市.

高岡有理.アレルギー研修.藤井寺市役所 藤井寺市教育委員会主催, 令和 3 年 8 月 2 日, 藤井寺市.

吉田之範.これからの小児喘息治療ー抗体製剤の使い方のコツー.第 17 回ふくしま小児アレルギー・喘息治療談話会, 令和 3 年 9 月 4 日, WEB.

高岡有理.食物アレルギーへの対応.東大阪市総合庁舎 子育て支援員養成研修 東大阪市子どもすこやか部, 令和 3 年 9 月 6 日, 東大阪市.

亀田 誠.幼児期の食物アレルギーとエピペンを使った緊急時の対応.大阪私立幼稚園研修会, 令和 3 年 9 月 10 日, 大阪.

高岡有理.食物アレルギーの基礎知識について.茨木市市民総合センターより配信, 令和 3 年 9 月 13 日, WEB.

高岡有理.食物アレルギーのとりくみを考える.大阪市私立保育園連盟主催, 令和 3 年 9 月 28 日, WEB.

亀田 誠.エピペン研修に行くために.令和 3 年度 PAE 近畿ブロック研修会, 令和 3 年 10 月 16 日, WEB.

亀田 誠.その喘鳴本当に喘息ですか? 臨床アレルギーセミナーin はびきの, 令和 3 年 10 月 28 日, WEB.

亀田 誠.学校における食物アレルギー対応について.大阪府立藤井寺支援学校校内研修, 令和 3 年 11 月 22 日, 藤井寺市.

亀田 誠.保育所・こども園での食物アレルギー対応.ニッポンハム食の未来財団 保育者向け 食物アレルギーセミナー, 令和 3 年 11 月 27 日, 京都・ハイブリッド.

高岡有理.食物アレルギーの基礎知識.茨木市役所、茨木市こども育成部主催, 令和3年12月7日, 茨木市.

吉田之範.小児重症喘息治療における生物学的製剤治療について.小児重症喘息 WEB 講演会, 令和3年12月7日, WEB.

亀田 誠.小児気管支喘息の治療と学校生活.堺市難病患者支援センター主催小児慢性特定疾病等の支援者向け学習会, 令和4年2月3日, WEB.

皮膚科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
片岡葉子	副院長 兼主任部長 兼アトピー・ アレルギーセンター長	日本皮膚科学会専門医・指導医、日本アレルギー学会指導医 日本心身医学会専門医
広瀬晴菜	医長	日本皮膚科学会専門医、医学博士
坂本幸子	診療主任	
阿古目純	レジデント	緩和ケア研修修了
益田知可子	レジデント	緩和ケア研修修了
渡邊祥奈	レジデント	

2. 診療概要

令和3年度は、3名の常勤医師、3名のレジデント、2名の外来応援医師が診療担当した。広瀬医師は大分大学の助教として同大学の病棟医長なども歴任しているキャリアのある医師であるが、アトピー性皮膚炎診療において、全国的に有名な当院での研修を希望して、令和2年度から今年度の2年間、皮膚科医長として勤務した。アトピー性皮膚炎診療だけでなく、皮膚科診療一般、さらにCOVID-19患者の当番や当直においても積極的に診療に加わり当院の診療に大きく貢献された。

アトピー性皮膚炎診療においては2018年から保険適用となった dupilumab に加え、JAK 阻害薬内服薬が新たに保険適用となり、当科に受診する数多くの重症難治性患者の症状のよりよい改善が期待されるようになってきている。しかし、重症患者の総てが既存治療に抵抗性というわけではなく、既存治療の効果を最大化することで長期寛解を維持することの可能な患者は多く存在しており、以前から当科が取り組んでいる外用薬による寛解導入をかねた患者教育”アトピーカレッジ”は依然大きな需要がある。

アトピー性皮膚炎以外の重症難治性疾患の診療にも注力し、拡大することを意識している。また地域に皮膚科専門医が少ないため、地域連携の促進とプライマリケア医の啓発のために Web を用いた勉強会“はびきの D チャンネル”を隔月定例開催として開始した。御紹介いただいた症例の検討ある

いは治療経過を報告し、タイムリーな情報共有に役立っている。さらに、若手医師が経験症例を要約し、検討、提示するトレーニングとしても役立っている。

3. 診療実績

延べ外来患者数 25,369 人

延べ入院患者数 5,576 人

実入院患者数 521 人

(主な疾患 アトピー性皮膚炎(重症・成人含む) 256 人、薬疹・薬物過敏症 23 人
食物アレルギー・アナフィラキシー 22 人、帯状疱疹 17 人、悪性腫瘍 10 人
蜂窩織炎 11 人 他)

アトピーカレッジ(入院)参加者 160 人

手術件数 47 件

(皮膚悪性腫瘍摘出 7 例、良性腫瘍摘出 29 例 他)

4. 施設認定

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設

大阪府アレルギー疾患医療拠点病院

5. 業績

【論文】

片岡葉子.治療ゴールを目指したアトピー性皮膚炎の治療-プロアクティブ療法のコツ-.Monthly Book Derma.307:161-168,2021.

de Wijs LEM, Fujimoto RFT, Andrinopoulou ER, Nijsten TEC, Hijnen D, Kataoka Y. Dupilumab treatment in atopic dermatitis patients in the Netherlands versus Japan: a comparative cohort study revealing a discrepancy in patient-reported outcome measures. Br J Dermatol.185:555-562,2021.

Bieber T, Simpson EL, Silverberg JI, Thaci D, Paul C, Pink AE, Kataoka Y, Chu CY, DiBonaventura M, Rojo R, Antinew J, Ionita I, Sinclair R, Forman S, Zdybski J, Biswas P, Malhotra B, Zhang F, Valdez H; JADE COMPARE Investigators. Abrocitinib versus Placebo or Dupilumab for Atopic Dermatitis. N Engl J Med.384:1101-1112,2021.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎治療における Tight control. Pharma Medica.39:43-46,2021.

片岡葉子.エキスパートから学ぶ「再発抑制・寛解維持に悩む疾患」アトピー性皮膚炎-私の考え方(3).J Visual Dermatology.20:1114-11117,2021.

Jonathan I. SILVERBERG¹, Eric L. SIMPSON², Mark BOGUNIEWICZ^{3,4}, Marjolein S. DE BRUIN-WELLER⁵, Peter FOLEY⁶, Yoko KATAOKA⁷, Gaëlle BÉGO-LE BAGOUSSE⁸, Zhen CHEN⁹, Brad SHUMEL⁹, Jingdong CHAO⁹ and Ana B. ROSSI¹⁰. Dupilumab Provides Rapid and Sustained Clinically Meaningful Responses in Adults with Moderate-to-severe Atopic Dermatitis. *Acta Derm Venereol.* 101, 2021.

【学会発表】

Jonathan I. Silverberg, Eric L. Simpson, Thomas Bieber, Marjolein de Bruin-Weller, Peter Foley, Yoko Kataoka, Mike Bastian, Zhen Chen, Noah A. Levit, Ana B. Rossi, Debra Sierka, Jingdong Chao. Dupilumab Provides Clinically Meaningful Responses in Adults With Moderate-to-Severe Atopic Dermatitis (AD): Results From LIBERTY AD CHRONOS Study. 51st Congress of the German Society of Dermatology (DDG 2021) Virtual Meeting April 14, 2021.

Jonathan I. Silverberg, Eric L. Simpson, Marjolein de Bruin-Weller, Peter Foley, Yoko Kataoka, Zhen Chen, Brad Shumel, Ana B. Rossi, Jingdong Chao. Dupilumab Provides Clinically Meaningful Responses in Adults With Moderate-to-Severe Atopic Dermatitis: Results From LIBERTY AD CHRONOS Study. European Association for Dermatology and Venerology Spring Symposium (Spring EADV); Virtual Congress May 6, 2021.

Myong Soon Sung, Emma Guttman-Yassky, Marie L.A. Schuttelaar, Alan D. Irvine, Eulalia Baselga, Yoko Kataoka, Martti Antila, Marjolein de Bruin-Weller, Danielle Marcoux, Alvina Abramova, Shyamalie Jayawardena, Annie Zhang, Joo Hee Lee. The Patient Burden of Moderate-to-Severe Atopic Dermatitis in Children Aged < 12 Years: Results From the PEDISTAD Observational Study. Joint Congress of the Korean Academy of Pediatric Allergy and Respiratory Disease (KAPARD) and Asia Pacific Academy of Pediatric Allergy, Respiratory & Immunology (APAPARI) May 20, 2021.

渡邊祥奈, 益田知可子, 阿古目 純, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子. 口唇びらんを初発として発症し SCLE の症状を呈した一例. 第 233 回大阪皮膚科症例検討会 令和 3 年 5 月 20 日, 大阪.

片岡葉子. アトピー性皮膚炎に対する Dupilumab による治療. 第 120 回日本皮膚科学会総会 令和 3 年 6 月 10-13 日, ハイブリッド.

片岡葉子. それもアトピー性皮膚炎? アトピー性皮膚炎治療中に併存する病変を正しく見分けていますか. 第 120 回日本皮膚科学会総会 令和 3 年 6 月 10-13 日, ハイブリッド.

片岡葉子. アトピー性皮膚炎 (AD) 長期寛解維持 (LTC) と Dupilumab の Real World Evidence. 第 120 回日本皮膚科学会総会 令和 3 年 6 月 10-13 日, ハイブリッド.

片岡葉子, Diamant Thaci, Thomas Bieber, Eric L Simpson, Jonathan I Silverberg, Rodney Sinclair, Jeremias Antinew, Seth Forman, Jacek Zdybski, Fan Zhang. 中等症から重症の成人 AD 患者対象, Abrocitinib と dupilumab の有効性・安全性を評価した第 3 相試験. 第 120 回日本皮膚科学会総会 令和 3 年 6 月 10-13 日, ハイブリッド.

片岡葉子. 長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療: 外用療法、紫外線治療、全身療法 (Dupilumab) の意義. 第 43 回日本光医学・光生物学会 令和 3 年 7 月 2 日, WEB.

片岡葉子. アトピー性皮膚炎診療における血清バイオマーカーの意義. 第 45 回日本小児皮膚科学会学術大会 令和 3 年 7 月 3 日, 東京.

渡邊祥奈. 口唇びらんを初発として発症し、亜急性エリテマトーデスの症状を呈した一例. 第 86 回臨床アレルギー研究会 (関西) 令和 3 年 7 月 24 日, 大阪.

Yoko Kataoka, Rodney Sinclair, Fumihiro Matsumoto, Kouki Nakamura, Fan Zhang, Margaret Gamalo, Ricardo Rojo, William Romero Gallardo, Claire Feeney, Tomohiro Hirose. Efficacy Comparison of Abrocitinib and Dupilumab at the Individual Patient Level in the Phase 3 JADE COMPARE Study. the European Academy of Dermatology and Venereology - 30th Congress (Virtual Meeting Starts: Sep 29, 2021).

Yoko Kataoka, Hidehisa Saeki, Takafumi Etoh, Norito Katoh, Satoshi Teramukai, Yuki Tajima, Parul Shah, Kazuhiko Arima. Prevalence and Characteristics of Prurigo Nodules in Adults With Moderate-to-severe Atopic Dermatitis in Japan: Results From a 2-year Observational Study. the 30th Congress of the European Academy of Dermatology and Venereology (EADV 2021); Virtual Meeting; September 29 – October 2, 2021.

渡邊祥奈, 益田知可子, 阿古目 純, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子. 多型滲出性紅斑様皮疹を呈した *Microsporum Canis* による顔面白癬の 1 例. 第 487 回日本皮膚科学会大阪地方会 令和 3 年 10 月 2 日, WEB.

片岡葉子. メディカルパートナーとともに創るチーム医療～ウパダシチニブへの期待～. 第 70 回日本アレルギー学会学術大会 令和 3 年 10 月 8 日, 横浜.

片岡葉子, E-Guttman-Yassky, MLA Schuttelaar, A Irvine, E Baselga, M Antila, M de Bruin-Weller, D Marcoux, A Abramova, S Jayawardena, A Zhang. 中等～重症アトピー性皮膚炎小児患者の疾病負荷: PEDISTAD の登録時結果. 第 70 回日本アレルギー学会学術大会 令和 3 年 10 月 8 日, 横浜.

広瀬晴奈, 藤本 雷, 坂本幸子, 白井洋彦, 片岡葉子. デュピルマブ投与した成人 AD における FeNO の検討. 第 70 回日本アレルギー学会学術大会 令和 3 年 10 月 8 日, 横浜.

片岡葉子.治療目標の設定からはじめるアトピー性皮膚炎の長期寛解維持の実現.第 70 回日本アレルギー学会学術大会 令和 3 年 10 月 8 日, 横浜.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療戦略.第 73 回日本皮膚科学会西部支部学術大会 令和 3 年 10 月 31 日, ハイブリッド.

益田知可子, 渡邊祥奈, 阿古目 純, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子.成人食物アレルギーとして当科を紹介受診した 114 例の検討.第 87 回臨床アレルギー研究会(関西) 令和 3 年 11 月 6 日, 大阪.

片岡葉子.プロフェッショナル 長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療戦略.第 85 回日本皮膚科学会東京支部学術大会 令和 3 年 11 月 14 日, ハイブリッド.

益田知可子, 渡邊祥奈, 阿古目 純, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子.重症アトピー性皮膚炎として紹介受診したダリエー病の 1 例.第 234 回大阪皮膚科症例検討会 令和 3 年 11 月 18 日, 大阪.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の新しい治療.第 72 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 令和 3 年 11 月 20 日, 奈良.

渡邊祥奈, 広瀬晴奈, 片岡葉子.口唇びらんを初発として発症し SCLE の症状を呈した 1 例.第 72 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 令和 3 年 11 月 20 日, 奈良.

片岡葉子, Vivian Shi, Tina Bhutani, Mette Deleuran, Luz Fonacier, Stephen Shumack, 亀井数正, Fan Zhang, Michael C.Cameron, Gary Chan, Hernan Valdez, Natalie Yin.Dupilumab で効果不十分な中等症～重症アトピー性皮膚炎患者に対する abrocitinib の有効性評価.第 72 回日本皮膚科学会中部支部学術大会 令和 3 年 11 月 20 日, 奈良.

片岡葉子.What's New in Atopic Dermatitis 2020-2021 annual review とアトピー性皮膚炎部会報告.第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会 令和 3 年 11 月 27 日, 東京.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎診療における心身医学的アプローチとチーム医療.第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会 令和 3 年 11 月 27 日, 東京.

益田知可子, 渡邊祥奈, 阿古目 純, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子.成人食物アレルギーとして当科を紹介受診した 114 例の検討.第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会 令和 3 年 11 月 27 日, 東京.

広瀬晴奈, 渡邊祥奈, 阿古目 純, 益田知可子, 坂本幸子, 片岡葉子.経時的にみたデュピルマブの治療反応性 : 2 年間以上観察した成人アトピー性皮膚炎 123 例の後方視的検討.第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会 令和 3 年 11 月 27 日, 東京.

広瀬晴奈, 渡邊祥奈, 阿古目 純, 益田知可子, 坂本幸子, 片岡葉子.吸入ステロイド薬治療 (ICS)により誘発された小児の顔面播種状粟粒性狼瘡.第 51 回日本皮膚免疫アレルギー学会総会学術大会 令和 3 年 11 月 27 日, 東京.

Norito Katoh, Hidehisa Saeki, Yoko Kataoka, Takafumi Etoh, Satoshi Teramukai, Yuki Tajima, Parul Shah, Kazuhiko Arima.Prevalence and Characteristics of Prurigo Nodules in Adults With Moderate-to-severe Atopic Dermatitis in Japan:Results From a 2-year Observational Study.the Japanese Society for Investigative Dermatology Annual Meeting (JSID); December 3 – 5, 2021.

阿古目 純, 渡邊祥奈, 益田知可子, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子, 松野 治.両足背に難治性皮膚潰瘍を呈した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の 1 例.第 488 回日本皮膚科学会大阪地方会 令和 3 年 12 月 11 日,大阪.

片岡葉子.Cytokines sing the blues,Dupilumab makes them change.第 12 回日本皮膚科心身医学会 令和 4 年 1 月 16 日, 埼玉 (ハイブリッド) .

片岡葉子.It`s about time for Long-term control 患者・患者・医師・医師のギャップを超えて.アトピー性皮膚炎治療研究会第 27 回シンポジウム 令和 4 年 2 月 5 日～6 日, WEB.

渡邊祥奈, 益田知可子, 阿古目 純, 坂本幸子, 広瀬晴奈, 片岡葉子.アトピー性皮膚炎と IgG4 関連疾患が合併した一例.アトピー性皮膚炎治療研究会第 27 回シンポジウム 令和 4 年 2 月 5 日～6 日, WEB.

広瀬晴奈, 渡邊祥奈, 阿古目 純, 益田知可子, 坂本幸子, 片岡葉子.経時的にみたデュピルマブ(D)治療反応性 : 2 年間以上観察したアトピー性皮膚炎 (AD)の後方視的検討.アトピー性皮膚炎治療研究会第 27 回シンポジウム 令和 4 年 2 月 5 日～6 日, WEB.

【啓発・研修活動】

片岡葉子.アトピー性皮膚炎診療における Shared Decision Making と Dupilumab のエビデンス.AD SDM Seminar (Shared Decision Making) 令和 3 年 4 月 10 日, ハイブリッド.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎治療の意義とコツ.一宮市小児皮膚研究会 令和 3 年 4 月 15 日, 愛知.

片岡葉子.成人アトピー性皮膚炎 疾患の理解・社会の理解-アトピー性皮膚炎が生活に与えている影響に関するオンライン意識調査-.アッヴィ合同会社 プレスセミナー 令和 3 年 4 月 16 日, 大阪.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～皮膚科専門医の夢と責務～.Dupixent Seminar in Hokkaido 令和 3 年 4 月 16 日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎 chronology と治療介入のポイント.臨床アレルギーセミナー in はびきの 令和3年4月22日, 大阪.

片岡葉子.眼科に役立つアトピー性皮膚炎診療の Tips.SENJU Web-Seminar～The boundary between ophthalmology and dermatology～ 令和3年5月21日, WEB.

片岡葉子.難治性アトピー性皮膚炎の治療（小児・成人）.第7回総合アレルギー講習会 令和3年6月5日-6日, ハイブリッド.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～Dupilumab の登場と治療戦略の進歩～.アトピー性皮膚炎マネジメントフォーラム-デュピルマブ治療の中でのプロアクティブ療法の位置づけ- 令和3年6月18日, WEB.

片岡葉子.長期寛解を目指すアトピー性皮膚炎の治療 皮膚科専門医の夢と責務.Atopic Dermatitis Seminar in NIIGATA-デュピクセント皮下注発売3周年記念講演会-, 令和3年6月24日, ハイブリッド.

片岡葉子.小児アトピー性皮膚炎治療の意義とコツ.病診連携講演会 in IKEDA 2021 令和3年7月1日, 大阪.

片岡葉子.皮膚科医の夢責任-長期寛解をめざすADの治療-.AD Expert Discussion in West 令和3年7月8日,大阪.

片岡葉子.It's about time.南大阪アトピーフォーラム 令和3年8月7日,大阪.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の患者教育”アトピーカレッジ”.第4回臨床アレルギーセミナーin はびきの 令和3年8月26日,大阪.

片岡葉子.EASI 90、100を目指す治療、私の治療.リンヴォック®適正使用推進インターネットライブセミナー（アトピー性皮膚炎） 令和3年9月9日, WEB.

片岡葉子.TST：アトピー性皮膚炎診療における tight control の意義と方法.Atopic Dermatitis National Forum ～長期寛解維持が実現できる時代を迎えて～ 令和3年9月12日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の治療ゴールを考える.Atopic Dermatitis National Forum ～長期寛解維持が実現できる時代を迎えて～ 令和3年9月12日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎アップデート 病態・予防・新規治療薬・注意しておきたいこと…第17回近畿小児アレルギーケア研究会 令和3年9月18日, WEB.

片岡葉子.新時代を迎えたアトピー性皮膚炎の治療.炎症性皮膚疾患講演会 令和3年10月16日, 大阪.

片岡葉子.”難治性アトピー性皮膚炎”という前に…第5回臨床アレルギーセミナーin はびきの 令和3年10月28日,大阪.

片岡葉子.ブラッシュアップ 蕁麻疹診療.Taiho Web Lecture on Allergy Osaka Focus Web Days〜ビラノア OD 錠 発売準備企画〜 令和3年11月10日,大阪.

片岡葉子.長期寛解を目指すアトピー性皮膚炎の治療.女医 JOY MEETING@大阪 〜女性視点から考えるアトピー性皮膚炎治療〜 令和3年11月13日, 大阪.

片岡葉子.Proactive 療法でここまで治せます！アトピー性皮膚炎治療 ゴール到達のコツ.松山市皮膚科医会 11月例会 令和3年11月19日, 愛媛.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の chronology と治療介入のポイント.リンヴォック アトピー性皮膚炎セミナー 令和3年12月23日, 広島.

片岡葉子.新時代を迎えたアトピー性皮膚炎の治療.〜新規 JAK 阻害薬 Abrocitinib への期待〜.サイバインコ®アトピー性皮膚炎 m3Web 講演会 令和4年1月21日, WEB.

片岡葉子.皮膚アレルギー診療の中で学んだ心身医学.第21回南河内五地区耳鼻咽喉科医会講演会 令和4年1月22日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の最新治療.JAK 阻害薬リンヴォック錠診療科連携講演会〜患者さんの願いのために〜 令和4年1月29日,ハイブリッド.

片岡葉子.Update 蕁麻疹〜プライマリケアから専門診療まで〜.デザレックス 5周年記念講演会〜おさえておきたい！アレルギー疾患の勘所〜 令和4年2月3日, WEB.

広瀬晴奈.はびきの医療センターでの2年間.第18回関西皮膚科臨床研究会 令和4年2月19日, 大阪.

片岡葉子.小児のアトピー性皮膚炎の治療戦略と地域連携.JAK 阻害薬リンヴォック錠小児アトピー地域連携会〜診療科の垣根を越えて〜 令和4年2月26日, 大阪.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療戦略.AD WEB LIVE 令和4年3月4日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎における Dupilumab 投与後の顔面病変.第 7 回臨床アレルギーセミナー in はびきの 令和 4 年 3 月 10 日,大阪.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～皮膚科専門医の夢と責務～.19TH D+Muscat, 令和 4 年 3 月 12 日, WEB.

片岡葉子.長期寛解をめざすアトピー性皮膚炎の治療～皮膚科専門医の夢と責務～.Atopic Dermatitis Seminar in Miyazaki～新時代のアトピー性皮膚炎治療戦略～, 令和 4 年 3 月 16 日, WEB.

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の治療戦略と地域連携.JAK 阻害薬リンヴォック錠 アトピー性皮膚炎治療を見つめなおす会 ～Expert×Expert～ 令和 4 年 3 月 19 日, WEB.

【マスコミ発表】

片岡葉子.アトピー性皮膚炎の診断と治療の第一人者.夕刊フジ 令和 3 年 7 月 17 日.

眼科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
鴻池純輔	医員	

2. 診療概要

当科は当センターのアトピーアレルギーセンターの一員となっているが、受診患者の内訳は例年、アレルギー疾患がおおよそ 1 割程度であり、他は一般眼科患者である。入院患者ではアレルギー・免疫疾患の患者はほとんどなく、ほぼ 100%が一般眼科疾患であり、そのほとんどが白内障手術のための入院である。

令和 3 年度の総手術件数は 100 件であり、その全てが内白内障手術であった。

当センターの主たる診療疾患である結核や重傷呼吸器疾患の治療中の患者は多く、その中でも眼疾患を来すこともある。眼科手術が必要な時は、関係各科と連携をとり、治療をおこなっている。さらに、当センターのもう一つの柱であるアレルギー疾患に関しては、アトピー性皮膚炎患者の眼合併症(アレルギー性結膜炎、春期カタル、白内障、網膜剥離等)の検査を必要に応じ行い、内科的または外科的治療を施行している。

令和 3 年度は常勤医 1 名で診療を行った。原則として月曜、火曜、水曜は 1 診制であり、木曜、金曜は 2 診制である(木曜日は 1 診制の日もある)。手術に関しては、火曜午後と水曜午後の週 2 日で施行している。火曜、水曜の手術や木曜、金曜の外来診察の際には奈良県立医科大学眼科から 1 名の医師を手術助手や外来診察に来てもらっている。外来診療の午後は主として、他科入院患者の診察や網膜光凝固治療、後発白内障への YAG レーザー治療、蛍光眼底検査や視野検査を行っている。また、白内障手術に必要な検査や手術説明も午後に行っている。

当院の視能訓練士は2名常勤で勤務している。常務内容としては、視力矯正や眼圧測定などの諸検査、眼底写真、眼底三次元画像解析、眼底自発蛍光検査や角膜内皮細胞顕微鏡検査等の画像検査や緑内障患者や視神経疾患などの患者の視野検査などを行っている。

3. 診療実績

延べ外来患者数	4,746 人
延べ入院患者数	304 人
実入院患者数	100 人
(主な疾患	白内障)
手術件数	100 件
(主な手術	水晶体再建術 (眼内レンズを挿入する場合)

循環器内科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
江角 章	主任部長	日本内科学会認定医、日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会専門医、日本医師会認定産業医、臨床研修指導医 緩和ケア研修修了
原田 博	副部長	緩和ケア研修修了
井内敦彦	副部長	日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本内科学会認定医 日本内科学会総合内科専門医、臨床研修指導医、緩和ケア研修修了

2. 診療概要

虚血性心疾患をはじめとする心臓疾患を中心に、肺循環疾患を含め循環器疾患全般にわたる診療を行っている。

身体障害者福祉法に基づく心臓機能障害認定診断を行っている。

- 虚血性心疾患、心筋症、心臓弁膜症、不整脈などの心臓疾患及び肺高血圧、肺循環障害
- 急性心臓疾患（急性心筋梗塞、不安定狭心症、重症不整脈など）に対する集中治療
- 冠動脈疾患、末梢動脈疾患に対するカテーテル治療
- 心房細動など不整脈に対するアブレーション治療
- 高血圧症、高脂血症、循環器系生活習慣病など

令和元年度より、外来診療体制の充実のため、外来診療を月、火、金に2診体制とした。

3. 診療実績

延べ外来患者数	4,578 人
延べ入院患者数	3,985 人
実入院患者数	255 人
(主な疾患	慢性心不全 72 人、狭心症 32 人、不整脈 17 人、心筋梗塞・心筋症 7 人 他)

各種件数	心臓カテーテル検査	69 件
	PCI	14 件
	ペースメーカー新規埋込	6 件
	アブレーション	4 件

冠動脈疾患、末梢動脈疾患に対するカテーテル治療、ペースメーカー植込術、心不全治療に取り組んでいる。地域医療支援病院の循環器診療部門として地域医療に貢献している。また、心房細動など不整脈に対するアブレーション治療も積極的に行っている。

4. 施設認定

日本循環器学会認定専門医研修関連施設

5. 業績

【啓発・研修活動】

井内敦彦.VTE 診療の現状について.南河内血栓症セミナー～癌に潜む血栓症、血栓症に潜む癌～ 令和3年6月3日, WEB.

江角 章.日常診療に活かす、心不全ガイドライン.羽曳野市医師会学術講演会 令和3年9月2日, 大阪.

井内敦彦.当院におけるエンレスト投与症例の検討.ARNI WEB Discussion ～心不全治療の新展開～ 令和3年11月18日, WEB.

消化器内科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
山崎尊久	医長	日本内科学会認定医、日本消化器病学会専門医 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医 日本消化管学会専門医・指導医、日本食道学会食道科認定医 日本ヘリコバクター学会（ピロリ菌）感染症認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本医師会認定産業医 緩和ケア研修修了
今村信子	医員	緩和ケア研修修了

2. 診療概要

当科は、主に消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸など）疾患に対する消化器内視鏡検査、消化器内視鏡治療、薬物治療を行っている。消化管関連がんに対しては、進行度に応じて消化器外科、肺腫

瘍内科、放射線科と連携し消化器内視鏡治療、腹腔鏡下手術、化学療法、放射線治療を組み合わせた集学的治療を行っている。肝臓、胆嚢、膵臓疾患に関しても、エコー検査、CT 検査、MRI 検査、薬物治療を組み合わせた診断治療を行っている。

3. 診療実績

延べ外来患者数	3,258 人
延べ入院患者数	1,231 人
実入院患者数	215 人
(主な疾患	大腸ポリープ 104 人、胃がん 31 人、大腸がん 26 人、その他悪性腫瘍 3 人 胆管結石・胆管炎 6 人、その他消化器疾患 36 人 他)

消化器外科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
宮崎 知	主任部長	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器病学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定取得 日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定教育医 臨床研修指導医、日本肝胆膵外科学会・近畿外科学会評議員、 緩和ケア研修修了
池田公正	部長	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 難病指定医、臨床研修指導医、臨床研修・治験従事者研修終了 医療コンフリクトマネジメント研修終了 がんリハビリテーション研修修了、緩和ケア研修終了
酒田和也	副部長	日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本大腸肛門病学会専門医（外科） 近畿外科学会評議員、緩和ケア研修修了
西谷暁子	副部長	日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本外科学会専門医 臨床研修指導医、日本緩和医療学会 PEACE 指導者研修修了
野間俊樹	診療主任	緩和ケア研修終了

2. 診療概要

平成 28 年 3 月までは消化器乳腺外科として近畿大学外科学教室からの派遣であったが、平成 29 年 4 月より消化器外科は大阪大学消化器外科教室からの派遣となり、乳腺外科は近畿大学からの派遣となった。令和 3 年度は、主任部長 宮崎 知（昭和 59 年卒）、部長 池田公正（平成元年卒）、副部長

酒田和也（平成 7 年卒）、同じく副部長 西谷暁子（平成 9 年卒）、診療主任 野間俊樹（平成 9 年卒）の常勤医 5 名で診療を行った。近年は消化器外科も専門臓器別の診療が行われるようになり、治療ガイドラインに沿った治療を行っている。上部消化管・一般外科は宮崎、上部消化管・ヘルニアは野間、ヘルニアは西谷、下部消化管は池田・酒田が担当した。肝胆膵領域の悪性腫瘍は高次医療機関に紹介をした。また、令和 3 年度より腹部救急の診療を開始し、消化器外科、泌尿器科、婦人科疾患の救急疾患に対応している。

10 年近く不在であった消化器内科医が 3 年前より常勤医として赴任し、消化器内科の外来診察及び消化管内視鏡検査の毎日の施行が可能となった。残念ながら、令和 4 年度から消化器内科の常勤医が再び不在となったが、大阪大学、兵庫医大の支援により消化器内科診療、内視鏡検査は毎日行われており、消化管内視鏡専門医の施行並びに光学機器の精度向上により、従来発見できなかった早期癌の診断が可能となり、当科でも早期胃癌の ESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）症例が増加してきている。

令和 3 年度の手術症例数は 120 例であった。手術室での施行が望ましいポート留置は手術場に透視装置が無く放射線科の TV 室で 20 例を行った。コロナ禍が何度も押し寄せたが腹部救急の診療開始もあり昨年より手術症例は増加した。当科での手術は低肺機能症例が少なからず含まれるが、麻酔科、集中管理科の協力により術後経過に特に大きな合併症は認めなかった

手術枠については、予定手術は木曜日の 1 日枠のみであるが手術症例数や併存合併症により火曜日にも施行し、手術死亡は幸い認めなかった。術後縫合不全 1 例、腸管壊死 1 例に対して術後再手術を行った。胃瘻造設術は内視鏡室で行い、依頼の多い結核患者は放射線 6 撮影室で行った。

入院診療については、手術患者は 2A 病棟で診療し、下部内視鏡検査入院、化学療法や再発症例等は新型コロナ患者の受け入れ前は 10B 病棟で、現在は 10A 病棟で診療にあたり、結核患者については 11A で診療を行った。

外来診療については、月曜日を宮崎（上部消化管）・池田（下部消化管）・野間（上部消化管・ヘルニア）、水曜日を西谷（ヘルニア）、金曜日を酒田（下部消化管）が担当した。

3. 診療実績

延べ外来患者数 2,088 人
 延べ入院患者数 2,745 人
 実入院患者数 235 人
 （主な疾患 大腸がん 51 人、胃がん 27 人、胆管結石・胆管炎 16 人、大腸ポリープ 12 人、ヘルニア 11 人、腸閉塞 10 人、消化管穿孔性疾患 6 人、虫垂炎 4 人 他）
 手術件数 120 件
 全身麻酔：111 例、腰椎麻酔：9 例、局所麻酔： 計例（緊急手術 26 例）

胃癌	胃全摘 胃幽門側切除 （うち腹腔鏡下手術）	
	その他	
大腸癌	結腸切除術 （うち腹腔鏡下手術）	

	直腸切除術/切断術 (うち腹腔鏡下手術)	
胆嚢疾患	腹腔鏡下胆嚢摘出術 開腹胆嚢摘出術	
虫垂炎	虫垂切除術	
臍癌	臍体尾部切除	
潰瘍穿孔／腹膜炎	大網充填／腸切／ドレナージ	
単径ヘルニア	単径ヘルニア修復術 (うち腹腔鏡下)	
腹壁癒痕ヘルニア	腹壁癒痕ヘルニア修復術	
その他	人工肛門造設術／閉鎖術／その他 リンパ節生検その他	
	PEG(内視鏡下胃瘻造設術)	
	中心静脈ポート埋め込み	
	ESD(内視鏡的粘膜下層剥離術)	
	PTCD(経皮経肝的胆道ドレナージ)	

4. 施設認定

日本消化器外科学会修練関連施設

5. 業績

【啓発・研修活動】

酒田和也.南河内エリア大腸癌 WEB 市民公開講座 令和3年6月26日, WEB.

池田公正.腹部救急疾患(大腸・小腸)～地域連携で患者を救う～.はびきのチャンネル 令和3年5月20日,WEB.

池田公正.腹部救急疾患(大腸・小腸)～地域連携で患者を救う～.はびきのアカデミー 令和3年10月16日,大阪.

乳腺外科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
安積達也	主任部長	日本外科学会専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医

兼乳腺 マンモグラフィ読影認定医、日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
センター長 乳腺超音波技術認定医、日本医師会認定産業医

2. 診療概要

当科では、乳腺疾患や甲状腺疾患の診断治療を行っている。

乳腺疾患では乳癌検診の一次検診および二次検診をはじめとし、乳腺疾患の診断・治療、乳癌の診断・治療を行っている。

乳癌の診断としては、マンモグラフィーやエコー等の画像検査を始め、穿刺細胞診や針生検、吸引式針生検を行い、迅速・確実に病理診断を行う事を心がけている。

乳癌の治療としては、当センターは日本乳癌学会の認定施設であり、乳癌の治療について、手術および放射線治療、薬物療法を同一施設で行っており、乳癌術後の乳房再建手術については、近畿大学形成外科の協力のもと、自家組織を用いた乳房再建を乳癌手術と同時に行っている。

乳癌術後や乳癌の再発の治療として、薬物療法（化学療法、ホルモン療法）も行っている。

また遺伝性乳癌卵巣癌症候群についても、遺伝カウンセラーによる定期的な遺伝カウンセリングを行うことが可能となり、また BRACAnalysis 診断システムによる検査も行うことが出来る体制が整っている。

また甲状腺疾患は、甲状腺機能亢進症や甲状腺機能低下症などの甲状腺機能異常や、甲状腺腫瘍（甲状腺癌）について診断および治療を行っている。

3. 診療実績

延べ外来患者数 6,637 人

延べ入院患者数 1,646 人

実入院患者数 218 人

（主な疾患 乳がん 177 人、乳房の良性腫瘍 10 人 他）

乳がん手術 58 例 吸引式乳腺組織生検 47 例 他

4. 施設認定

日本乳癌学会認定施設、

日本乳房オンコプラスティックサージェリー学会エクスパンダー実施施設

日本乳房オンコプラスティックサージェリー学会インプラント実施施設

5. 業績

【学会発表】

安積達也, 金泉博文, 平井昭彦. 当院でのホルモン受容耐陽性転移・再発乳癌に対するサイクリン依存性キナーゼ 4 / 6 阻害剤併用療法. 第 29 回日本乳癌学会学術総会 令和 3 年 7 月 1-3 日, 横浜.

【啓発・研修活動】

安積達也. 乳がんの診断と治療. はびきのチャンネル 令和 3 年 11 月 18 日, WEB.

産婦人科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
赤田 忍	主任部長	奈良県立医科大学臨床教授、奈良県立医科大学非常勤医師 日本産婦人科学会認定指導責任者、産婦人科専門医、母体保護法指定医 難病指定医
安川久吉	副部長	日本産婦人科学会認定指導医、産婦人科専門医、母体保護法指定医
小川憲二	診療主任	日本産婦人科学会認定指導医、母体保護法指定医、超音波専門医 日本周産期・新生児医学会周産期専門医（母体・胎児） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、臨床研修指導医
中野和俊	診療主任	日本産婦人科学会認定専門医、母体保護法指定医、超音波専門医 日本胎児心臓病学会胎児エコー認定医 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
西川恭平	医員	
藤田由布	医員	

2. 診療概要

勤務体制の面では、令和3年3月に後期研修医である脇啓太先生が大学にもどり、令和3年4月に中野和俊先生が、令和3年8月に藤田由布先生が赴任され、常勤医師は一時期6名になり、非常勤医師は引き続き大学から2名派遣(岩井加奈先生、脇啓太先生)で、体制としては例年どおりであった。

当直面は、岩井先生、脇先生をはじめ、近畿大学奈良病院勤務の山本皇之祐先生の3名が週1平日と月1回土日のどちらかの当直を埋めていただき、常勤医師の当直回数が減り、非常に助かった1年であった。しかし、働き方改革の実施が目前となっている中、まだまだ人手が足りておらず、働き方改革を実現するには難しい勤務状況が続いている。

診療面については、婦人科分野では、良性手術は内視鏡手術（腹腔鏡、子宮鏡）を中心に実施し、悪性腫瘍手術も例年どおりに実施できたが、悪性腫瘍手術は赤田部長が軸となっているのは昨年と変わらず、体力的に苦しい日々が続いた。また、進行癌の症例が多い1年で、治療に難渋する局面が多かった。化学療法に関しては、PARP 阻害剤に続き免疫チェックポイント阻害剤(ICI)が登場し、新たに知識を習得する必要があった。産科分野では、希望による計画無痛分娩が軌道に乗り、特に大きな事故もなく安全な無痛分娩を提供でき、全国的には分娩件数が激減する中、例年どおりの分娩件数を維持できた。COVID-19 オミクロン株が蔓延した第6波では、家族内感染による COVID-19 感染妊婦が急激に増加し、以前は帝王切開を実施していた経産婦は陰圧分娩室での経膈分娩を試みるようになった反面、無痛分娩も含め分娩室の運用に頭を悩ませる1年であった。

3. 診療実績

延べ外来患者数 25,835 人

延べ入院患者数 12,097 人

実入院患者数 1,871 人

（主な疾患 子宮がん 120 人、卵巣・卵管がん 106 人 他）

分娩件数 938 件（うち無痛分娩 168 件）
手術件数 659 件（うち腹腔鏡下手術 189 件、子宮鏡下手術 52 件）

患者さんの QOL を考慮した腹腔鏡を中心とした内視鏡手術や円錐切除などの日帰り手術、根治性を目指した悪性腫瘍手術、PARP 阻害剤や免疫チェックポイント阻害剤など新しい薬剤を積極的に取り入れた化学療法、満足度の高い無痛分娩を行っている。産婦人科でお困りの際は当センターへご相談ください。

4. 施設認定

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

5. 業績

【論文】

脇啓太.当院における胸腔子宮内膜症に関する検討.産婦人科の進歩 Vol.73 No.3 2021 247-256,2021.

【著作・著書】

中野和俊.C 型食道閉鎖⑤.食道閉鎖のすべて～胎児スクリーニング, 精査, 治療.(川瀧 元良) メジカルビュー社, 東京,2022.

【学会発表】

安川久吉, 西川恭平, 小川憲二, 脇啓太, 赤田 忍.現行の計画無痛分娩に関するスタッフの意識調査の報告.第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 3 年 4 月 22 日～25 日, 新潟.

小川憲二, 西川恭平, 脇啓太, 安川久吉, 赤田 忍.Meigs 症候群との鑑別を要した好酸球性胃腸炎の一例.第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 3 年 4 月 22 日～25 日, 新潟.

西川恭平, 小川憲二, 脇啓太, 安川久吉, 赤田 忍.内膜細胞診と子宮鏡手術が診断に有効であった漿液性子宮内膜上皮内癌(SEIC)の 1 例..第 73 回日本産科婦人科学会学術講演会 令和 3 年 4 月 22 日～25 日, 新潟.

高橋薫里, 平川郁子, 葉山美由起, 安川久吉.無痛分娩で出産された母親の意見と今後の課題～産後満足度調査から～.第 125 回日本産科麻酔学会学術集会 令和 3 年 12 月 4 日, 名古屋.

小川憲二, 中野和俊, 西川恭平, 安川久吉, 赤田 忍.当院での妊娠後期スクリーニング検査の導入について.第 94 回日本超音波医学会学術集会 令和 3 年 5 月 22 日, 神戸.

西川恭平, 中野和俊, 小川憲二, 安川久吉, 赤田 忍.鑑別に苦慮した angiofibroma (血管筋線維芽細胞腫) の 1 例.第 63 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 令和 3 年 7 月 16 日～30 日, 大阪.

西川恭平, 中野和俊, 小川憲二, 安川久吉, 赤田 忍.画像検査で卵巣腫瘍と鑑別困難であった parasitic myoma の 1 例.第 61 回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会 令和 3 年 9 月 11 日から 13 日, 横浜 (ハイブリッド) .

中野和俊.ポーチを確認できた食道閉鎖の症例報告 1.第 1 回胎児食道研究会 令和 3 年 7 月 25 日, WEB.

中野和俊, 西川恭平, 藤田由布, 小川憲二, 安川久吉, 福山 馨, 上田佳世, 赤田 忍.陣痛と同時期に発症した自然気胸の 1 例.第 7 回南大阪地区産婦人科研究会 令和 3 年 7 月 10 日, 大阪.

中野和俊.手術瘢痕切除を考える ～きれいな創治癒を目指した瘢痕切除法～.第 4 回 OG→OG プロジェクト創閉鎖ベストプラクティスの実現 令和 4 年 3 月 12 日, 東京.

【啓発・研修活動】

安川久吉.当センターの無痛分娩の現状.はびきのチャンネル 令和 3 年 10 月 21 日, WEB.

小川憲二, 中野和俊, 西川恭平, 安川久吉, 赤田 忍.当院での COVID-19 の診療について.第 7 回南大阪地区産婦人科研究会 令和 3 年 7 月 10 日, 大阪.

西川恭平.卵巣がん初回維持療法をどうするのか (PARP 阻害剤を優先に使用する立場から) 令和 3 年 11 月 29 日, 大阪 (ハイブリッド) .

藤田由布.漫談風レクチャー「ニジェールのお産の現場からひもとく産婦人科事情」.清教学園高等学校 令和 3 年 10 月 21 日, 大阪.

藤田由布.持続可能な社会づくりと教育講座「アフリカ貧困村の国際協力事情」.桃山学院大学 令和 3 年 12 月 9 日, 大阪.

藤田由布.「女性の知っ得公開セミナー」妊活&不妊治療を知ろう編.小豆島婦人会 令和 3 年 11 月 20 日, 岡山.

藤田由布.婦人科の身近な病気, 婦人科のがん, 更年期をどう過ごす～婦人科のカーテンの向こう側を全てお見せします～.小豆島婦人会 令和 3 年 8 月 1 日, 岡山.

藤田由布.「オトコとオンナの更年期, 更年期障害の賢い対処方法, 子宮頸癌の本当のはなし」.関西大学ワークライフバランス講座 令和 3 年 8 月 22 日, 大阪.

藤田由布 「婦人科をもっと身近に ～婦人科検診って何するの?」「オトコとオンナの更年期」「婦人科の病気のいろいろ」.石切山荘婦人会 令和 3 年 12 月 12 日.

藤田由布.「日本で誰も知らない, いや, 知らされていない子宮頸がんのはなし」.天神橋筋商店街 天六てんコモリスタジオ パーソナリティ子守康範 令和3年9月12日, 大阪.

藤田由布.婦人科漫談シリーズ全7回 JICA 講演会 令和4年2月9日, WEB.

藤田由布.オトナの性教育 ~日本人が知らされていない『性』のはなし~.広島 ハチドリ舎 令和4年1月15日, 広島.

藤田由布. Health With You 私のため僕のために知っておきたい女性の健康. 龍谷大学深草キャンパス成就館メインシアター 令和4年1月14日, 京都.

藤田由布.「高校生に贈る婦人科のはなし」.青森県石黒高校 令和4年3月10日, 青森.

耳鼻咽喉・頭頸部外科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
川島佳代子	診療局長 兼主任部長	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
		日本アレルギー学会専門医・指導医
		日本鼻科学会鼻科手術暫定指導医
		厚生労働省認定補聴器適合判定医
		日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医
花田有紀子	医長	身体障害者福祉法 15 条指定医、日本医師会認定産業医
		難病指定医、厚生労働省臨床研究・治験従事者研修修了
		緩和ケア研修修了、TNT 研修修了、嚥下機能評価研修修了
		厚生労働省オンライン診療研修修了
		日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医・指導医
奥野未佳	診療主任	日本気管食道科学会専門医、厚生労働省認定補聴器適合判定医
		日本医師会認定産業医、難病指定医、緩和ケア研修修了
		日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会専門医、緩和ケア研修修了
		TNT 研修修了、嚥下機能評価研修修了
		日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定補聴器相談医、難病指定医
河辺隆誠	医員	緩和ケア研修修了、嚥下機能評価研修修了
		厚生労働省オンライン診療研修修了

2. 診療概要

スタッフ4名体制で昨年度とメンバーは同じであった。今年度も、新型コロナウイルス感染拡大の

ため、手術件数制限などが数回生じたが、概ね支障なく外来、手術ともに遂行した。今年度も手術内容は、当科の特色であるアレルギー、鼻科領域の専門的な治療とともに、頭頸部良性腫瘍の手術についても積極的に施行し、昨年度より手術件数として49件上回った。救急対応、地域医療機関からの緊急対応依頼についても引き続き積極的に受け入れを行った。

3. 診療実績

延べ外来患者数 6,121 人

延べ入院患者数 3,120 人

実入院患者数 388 人

(主な疾患 扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎 64 人、慢性副鼻腔炎 63 人、突発性難聴 35 人、前庭機能障害 26 人、顔面神経障害 24 人 他)

手術件数 総手術件数 436 件

疾患部位別手術件数

耳 12 件

鼻 310 件

咽頭喉頭 93 件

頭頸部 21 件

主な手術

内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅱ型(副鼻腔単洞手術) 3 件

内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅲ型(選択的(複数洞)副鼻腔手術) 42 件

内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ⅳ型(汎副鼻腔手術) 64 件

鼻副鼻腔腫瘍摘出術(悪性含む) 2 件

鼻中隔矯正術 61 件

内視鏡下鼻腔手術Ⅰ型(下鼻甲介手術) 135 件

アデノイド切除術 11 件

口蓋扁桃手術(摘出) 67 件

気管切開術 2 件

喉頭・声帯ポリープ切除

(直達喉頭鑑又はファイバースコープによるもの) 1 件

嚥下機能手術(喉頭全摘術) 1 件

頬粘膜腫瘍摘出術 1 件

舌腫瘍摘出術(粘液嚢胞摘出術) 1 件

口唇腫瘍摘出術(粘液嚢胞摘出術) 1 件

唾石摘出術(表在性のもの) 4 件

顎下線摘出術 5 件

耳下腺腫瘍摘出術(耳下腺浅葉摘出術) 6 件

甲状腺部分切除/甲状腺腫摘出術(片葉のみ) 1 件

甲状腺悪性腫瘍手術(切除)(頸部外側区域郭清を伴わないもの) 6 件

頸瘻、頸嚢摘出術 1 件

4. 施設認定

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設

日本アレルギー学会認定研修施設

日本鼻科学会 鼻科手術認可研修施設

日本気管食道科学会認定専門医研修施設（咽喉系）

大阪大学医学部付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研究プログラム 専門研修連携施設

5. 業績

【論文】

田中晶平, 山本雅司, 日尾祥子, 奥野未佳, 青木健剛, 藤井宗一郎, 川島貴之, 川島佳代子.小児鼻腔神経鞘腫例.耳鼻臨床.114:273-277,2021.

川島佳代子, 佐々木崇博, 奥野未佳, 山本雅司, 高岡有理.小児のハンノキ感作と口腔アレルギー症状についての検討.口咽科.34:21-26,2021.

Taizo Yokokawa, Yosuke Ariizumi, Mariko Hiramatsu, Yujin Kato, Kazuhira Endo, Kazufumi Obata, Kayoko Kawashima, Toshifumi Sakata, Shigeru Hirano, Torahiko Nakashima, Tatsurou Sekine, Asanori Kiyuna, Saeko Uemura, Keisuke Okubo, Taro Sugimoto, Ichiro Tateya, Yasushi Fujimoto, Arata Horii, Yurika Kimura, Masamitsu Hyodo, Akihiro Homma.Management of tracheostomy in COVID-19 patients: The Japanese experience.Auris Nasus Larynx.48:525-529,2021.

Yoshimasa Imoto, Masafumi Sakashita, Masaki Hayama, Yuji Nakamaru, Masanobu Suzuki, Yui Miyabe, Takechiyo Yamada, Hidekazu Saito, Syuji Yonekura, Kenji Kondo, Takaya Higaki, Kayoko Kawashima, Mitsuyoshi Urashima, Shigeharu Fujieda.The clinical features of intractable allergic rhinitis based on aquestionnaire administered to clinicians.Allergology International.

Nobumichi Maeyama, Takefumi Kamakura, Masato Nishimura, Kayoko Kawashima, Chisako Masumura, Toshimichi Yasui.Behavioral Therapy for Muscular Objective Tinnitus in Forceful Eyelid Closure Syndrome (FECS) A Case Report.J Int Adv Otol.17:278-280,2021.

Tomonori Hirashima, Tsuyoshi Arai, Heita Kitajima, Yoshitaka Tamura, Tomoki Yamada, Shoji Hashimoto, Hiroshi Morishita, Seijiro Minamoto, Kayoko Kawashima, Yozo Kashiwa, Makoto Kameda, Tohru Takeshita, Hidekazu Suzuki, Hiroto Matsuoka, Seiji Yamaguchi, Toshio Tanaka, Takayuki Nagai.Factors significantly associated with COVID-19 severity in symptomatic patients: A retrospective single-center study.J Infect Chemother.27:76-82,2021.

Kimura Y, Nogami K, Watanabe K, Yoshimura T, Asai H, Fujioka O, Kawasaki Y, Igarashi M, Inamura N, Kawashima K, Nishino H, Fukuyo K.COVID-19 findings revealed via otolaryngological examination: Findings of a Japan Otorhinolaryngologist Association questionnaire.Auris Nasus Larynx.

川島佳代子, 西野 宏, 野上兼一郎, 五十嵐 充, 稲村直樹, 河合 真, 福與和正.各都道府県における耳鼻咽喉科救急医療体制の検討.日耳鼻.124:1504-1509,2021.

川島佳代子.小児に対する舌下免疫療法.小児耳.42:253-257,2021.

川島佳代子.小児アレルギー性鼻炎診療における留意点.小児アレルギー.36:451-458.

川島佳代子.舌下免疫療法.アレルギー.71:92-101,2022.

河辺隆誠, 上塚 学, 道場隆博, 太田見祐介, 板倉志織, 須藤貴人, 辻村 慶, 西池 季隆.高気圧酸素療法における合併症—突発性難聴 239 例での検討.日耳鼻.125:38-42,2022.

【著作・著書】

川島佳代子.【花粉症診療は変わったか?】特殊なケースへの対応 小児の花粉症に対する対応. JOHNS. 38: 85-88, 2022.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎.私の治療 [2021-22 年度版] . (猿田享男, 北村惣一郎) 日本医事新報社, 東京 .

川島佳代子.検査結果・検査報告書をどう読むかー感染症・生理機能検査編 インフルエンザウイルスの適切な検体の取り方と結果の見方. JOHNS. 38: 378-382, 2022.

【学会発表】

川島佳代子.with/after コロナにおけるアレルギー性鼻炎治療において求められること.第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和 3 年 5 月 12-15 日, 京都.

川島佳代子, 山本雅司, 奥野未佳, 河辺隆誠, 高内裕司.手術前の呼吸機能検査で異常を認めた鼻副鼻腔手術症例の検討.第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和 3 年 5 月 12-15 日, 京都.

木村百合香, 野上兼一郎, 渡部一雄, 吉村 理, 浅井英世, 藤岡 治, 川嶋良明, 河合 真, 五十嵐 充, 稲村直樹, 川島佳代子, 西野 宏, 福與和正.耳鼻咽喉科診療所を初診した新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の臨床像.第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和 3 年 5 月 12-15 日, 京都.

有泉陽介, 平松真理子, 本間明宏, 加藤雄仁, 遠藤一平, 小幡和史, 川島佳代子, 藤本保志, 堀井新, 木村百合香, 兵藤政光.新型コロナ患者に対する気管切開術:医療者感染リスクの全国調査.第 122 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和 3 年 5 月 12-15 日, 京都.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎ー小児アレルギー性鼻炎の診療における留意点ー.第7回総合アレルギー講習会 令和3年6月5-6日, 神戸.

川島佳代子.免疫療法ーSLIT (Sublingual immunotherapy) ー.第7回総合アレルギー講習会 令和3年6月5-6日, 神戸.

河辺隆誠, 山本雅司, 奥野未佳, 川島佳代子.小児アレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法施行症例の検討.第1回耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 令和3年6月30-7月2日, 金沢.

奥野未佳, 山本雅司, 河辺隆誠, 川島佳代子, 田中晶平.当院における新型コロナウイルス感染症患者の嗅覚味覚障害について.第1回耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会 令和3年6月30-7月2日, 金沢.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎治療において抗体製剤がもたらす意義.第1回耳鼻咽喉科免疫アレルギー感染症学会ランチョンセミナー 令和3年6月30-7月2日, 金沢.

川島佳代子.One airway one disease としての好酸球性副鼻腔炎.第127回日本結核・非結核性抗酸菌症学会近畿支部学会/第97回日本呼吸器学会近畿地方会 令和3年7月10日, 大阪.

川島佳代子.小児アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法.第16回日本小児耳鼻咽喉科学会 臨床セミナー2 令和3年7月8-9日, 大阪.

川島佳代子.「上気道炎症のインパクト」 アレルギー性鼻炎.第2回日本喘息学会総会学術大会 教育講演1 令和3年7月17-18日, 大阪.

南豊彦, 川嶋良明, 中村晶彦, 坂哲郎, 川島佳代子.在宅療養支援診療所主治医の耳鼻咽喉科往診診療に対する意識調査.第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 令和3年5月12-15日, 京都.

川島佳代子.奥野未佳, 河辺隆誠, 花田有紀子, 山本雅司, 田中晶平.スギ舌下免疫療法施行小児患者の2021年のスギ花粉飛散期の評価.第60回日本鼻科学会総会・学術講演会 令和3年9月23-25日, 大津.

奥野未佳.小児の鼻科疾患診療に役立つ Hints and Tips 舌下免疫療法の工夫と将来展望.第60回日本鼻科学会総会・学術講演会.シンポジウム 令和3年9月23-25日, 大津.

川島佳代子, 奥野未佳, 河辺隆誠, 花田有紀子, 田中晶平, 山本雅司, 重川 周, 深澤陽平, 釣永雄希, 高岡有理, 吉田之範, 亀田 誠.2018年にスギ舌下免疫療法を開始した小児患者の経年的検討.第70回日本アレルギー学会学術大会 令和3年10月8-10日.横浜.

山本雅司, 川島佳代子, 奥野未佳, 橋本章司, 田中敏郎.K15 乳酸菌 (Pediococcus acidilactici K15) 摂取によるスギ花粉症の症状抑制効果の検証.第 70 回日本アレルギー学会学術大会 令和 3 年 10 月 8-10 日.横浜.

吉田之範, 九門順子, 山口智裕, 上野瑠美, 釣永雄希, 深澤陽平, 重川 周, 高岡有理, 河辺隆誠, 奥野未佳, 花田有紀子, 川島佳代子, 亀田 誠.気管支喘息児にアレルギー性鼻炎に対するダニ舌下免疫療法を開始時の喘息評価の重要性.第 70 回日本アレルギー学会学術大会 令和 3 年 10 月 8-10 日.横浜.

川島佳代子.今後のアレルギー性鼻炎治療の目指す方向とは?.第 35 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会秋季大会 ランチョンセミナー4 令和 3 年 11 月 20-21 日.横浜.

川島佳代子.小児に対する舌下免疫療法.小児臨床アレルギー学会第 20 回スキルアップセミナー 令和 3 年 12 月 19 日.WEB.

川島佳代子.これからのアレルギー性鼻炎に対する治療戦略.日耳鼻広島県地方部会研修会 第 41 回花粉アレルギー研究会 令和 4 年 2 月 3 日, 広島.

【啓発・研修活動】

川島佳代子.鼻副鼻腔疾患の取り扱い～専門医への紹介を考慮すべきポイントとは～.第 5 回はびきのチャンネル 令和 3 年 4 月 15 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の診断と治療 up to date.新潟耳鼻疾患フォーラム 令和 3 年 5 月 22 日, WEB.

川島佳代子.これからのアレルギー性鼻炎治療.第 56 回沖縄県耳鼻咽喉科医会講演会 令和 3 年 6 月 19 日, WEB.

河辺隆誠.高気圧酸素療法の合併症についての検討.第 6 回南大阪 ENT 臨床研究会 令和 3 年 6 月 3 日, WEB.

花田有紀子.慢性気道炎症としての好酸球性副鼻腔炎.第 3 回臨床アレルギーセミナーin はびきの 令和 3 年 6 月 1 日, WEB.

川島佳代子.Type 2 炎症としての慢性副鼻腔炎とその類似疾患.第 5 回臨床アレルギーセミナーin はびきの 令和 3 年 10 月 28 日, WEB.

奥野未佳.アレルギー性鼻炎の合併症と環境因子.第 6 回臨床アレルギーセミナーin はびきの 令和 3 年 12 月 9 日, WEB.

河辺隆誠.当科での Dupilumab 投与症例について.第 7 回臨床アレルギーセミナーin はびきの 令和 4 年 3 月 10 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎と口腔アレルギー症候群についての新しい知見.東成区医師会生涯教育講演会 令和 3 年 10 月 21 日, 大阪市.

川島佳代子.花粉症に対する効果的なマネジメントとは?.花粉症 Web セミナー 令和 3 年 11 月 4 日, WEB.

花田有紀子.尋常性天疱瘡の一例.第 4 回はびきの耳鼻咽喉科セミナー 令和 3 年 11 月 6 日, WEB.

河辺隆誠.当科における小児アレルギー性鼻炎への 取り組み.第 4 回はびきの耳鼻咽喉科セミナー 令和 3 年 11 月 6 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の薬物治療～薬剤の効果的な使い方とは～.関西アレルギーフォーラム 令和 3 年 11 月 11 日, WEB.

川島佳代子.知っておきたい鼻の病気と薬物療法～アレルギー性鼻炎から副鼻腔炎まで～.第 7 回はびきの地域連携研修会 令和 3 年 12 月 18 日, 当センター.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の診断とこれからの治療.WEB サロン 2021 令和 3 年 12 月 23 日, WEB.

川島佳代子.今シーズンの花粉症対策のポイント.花粉症 Web セミナー 令和 4 年 1 月 13 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の診断と治療 up to date.第 6 回耳鼻咽喉科疾患懇話会 令和 4 年 1 月 20 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の薬物療法のトピックス. Allergy Symposiumin 京都/滋賀 令和 4 年 1 月 27 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎の診断と治療 up to date ～口腔アレルギー症候群の話題も含めて～. 第 149 回徳島県耳鼻咽喉科医会研修会 令和 4 年 1 月 30 日, WEB.

川島佳代子.これからのアレルギー性鼻炎治療を考える～治療選択のポイント～.第 120 回大分耳鼻咽喉科臨床研究会 令和 4 年 2 月 10 日, WEB.

川島佳代子.今後のアレルギー性鼻炎治療の目指す方向とは?.Web カンファレンス 令和 4 年 2 月 17 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎治療 up to date.熊本 AR (allergic rhinitis)学術講演会 令和 4 年 2 月 19 日, WEB.

川島佳代子.アレルギー性鼻炎治療：最新の診断と治療.令和 3 年度第 5 回大阪府医師会学術講演会 医学の進歩シリーズ.

奥野未佳.One airway one disease としての好酸球性副鼻腔炎.2021ORL 学術講演会 令和 3 年 10 月 30 日, 大阪市.

河辺隆誠.ダニ舌下免疫療法施行小児に対する他覚的評価の試み.第 12 回大阪大学関連病院臨床研修会プログラム 令和 3 年 10 月 30 日, 大阪市.

【マスコミ発表】

川島佳代子.新型コロナウイルス(オミクロン株)と花粉症の類似性.読売テレビ 令和 4 年 2 月 21 日.

麻酔科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
高内裕司	主任部長	日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会麻酔科指導医 日本集中治療医学会集中治療専門医 日本心臓血管麻酔学会周術期経食道心エコー認定医 大阪大学医学部臨床教授
播磨 恵	副部長	日本専門医機構麻酔科専門医、日本麻酔科学会麻酔科指導医

2. 診療実績

令和 3 年度(2021 年度)は高内裕司主任部長、播磨恵副部長の常勤医 2 名で診療を行った。火曜日、水曜日、木曜日、金曜日に非常勤医師各 1 名が診療に加わった。

①麻酔管理(周術期管理)

令和 3 年度の全手術件数は 1659 例(前年度 1567 例)で、このうち麻酔科管理症例(全身麻酔及び伝達麻酔その他)は 904 例で全症例の 54.5%であった(前年度 803 例:51.2%)。今年度も部長が自らの症例を管理しつつ、従来通りほぼすべての症例を管轄した。産婦人科では全身麻酔症例および併存疾患を持つ脊髄くも膜下麻酔症例や施行困難症例は麻酔科管理であるが、通常の脊髄くも膜下麻酔症例は自科管理であった。この 2 年間は特に眼科の局所麻酔症例の著しい減少(2019 年度 607 例、2020 年度 299 例、2021 年度 154 例)と手術終了(2021 年 12 月)や、新型コロナウイルス感染症の蔓延による全体的な手術症例の減少により、全手術件数は以前より大きく減少している。ただし麻酔科管理症例は、泌尿器科の増設や消化器外科救急部門の増設により、昨年度よりは増加した。

診療科別の麻酔科管理症例は、呼吸器外科 254 例:28.1%(前年度 248 例)、消化器外科 106 例:

11.7%（前年度 65 例）、乳腺外科 81 例：9.0%（前年度 91 例）、産婦人科 257 例：28.4%（前年度 258 例）、耳鼻咽喉・頭頸部外科 160 例：17.7%（前年度 140 例）、泌尿器科 46 例：5.1%であった。以前に比し呼吸器外科症例が減少している。

麻酔法別では麻酔科管理症例 904 例中、全身麻酔 867 例〔うち 374 例（43.1%）は硬膜外麻酔併用（前年度 43.2%）、204 例（23.5%）は神経ブロック併用（前年度 24.7%）〕、脊髄くも膜下麻酔 36 例〔うち 5 例（13.9%）は硬膜外麻酔併用、12 例（33.3%）は神経ブロック併用〕、硬膜外麻酔 1 例であった。全身麻酔における硬膜外麻酔あるいは神経ブロック併用症例は合計 578 例（66.7%）（前年度 68.0%）であり、他院と比較しても、より積極的に術後鎮痛を図っている。

当センターの特殊性により、外科症例には間質性肺炎（IP）、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、喘息、その他のアレルギー疾患を合併した症例をはじめ、在宅酸素療法を必要とする高度呼吸機能低下症例や、結核やその他の感染症（肺アスペルギルス症、膿胸）の治療中や治療直後の症例が比較的多く含まれる。高度呼吸機能低下症例では気管支拡張療法や呼吸リハビリテーションなどの術前管理をはじめとして、綿密な周術期管理が必要であり、肺結核治療中あるいは治療直後の患者の手術も専門知識と感染対策が必要である。これらの症例は他院では極めて少なく、これら重症の低肺機能患者の周術期管理にも積極的に介入している。さらに様々な気道狭窄の高リスク症例における焼灼、拡張、ステント留置などの麻酔・気道管理にも積極的に取り組んでいる〔今年度は 3 例（前年度 3 例）であった〕。また、呼吸器外科では大部分の 247 例（97.2%）に分離肺換気を要した。麻酔科医 1 名当たりの分離肺換気管理数としては全国でも屈指の症例数である。

術後疼痛管理は特に呼吸器合併症を有する症例においては、早期の離床や術後合併症の軽減にも貢献する。強い術後疼痛が予想される症例に対しては、局所麻酔薬や麻薬を用いた持続硬膜外鎮痛（PCA 併用）を中心に対応し、加えて超音波ガイド下各種末梢神経ブロックや麻薬の持続静脈内投与でも対応している。同時に嘔気嘔吐などの副作用も軽減できるように配慮している。

術前評価に関しては、毎週木曜夕に呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科および泌尿器科と、月曜夕に産婦人科と、全麻酔科管理症例について術前症例検討会を行い、術前問題点についての検討や必要な症例には術前管理に関する助言や介入を行っている。耳鼻咽喉・頭頸部外科に対しては問題症例について個別に対応している。併存疾患や手術内容等で特に問題となる重症症例に対しては、予め十分に時間を取って術前準備・管理に関する助言を行い、術後全身管理に関しても各診療科に対し積極的に助言・協力をを行っている。

②ペインクリニック／緩和ケア

ペインクリニックは麻酔科人員数の問題で外来診療は休診中であるが、入院患者および各診療科の外来受診時には、各科との連携で依頼があれば部長が個別に対応している。また、緩和ケアチームに参画し、各スタッフとともに癌性疼痛患者に対する疼痛管理に協力している。今年度は院内では、呼吸器外科の外傷性多発肋骨骨折に対して肋間神経ブロックや持続硬膜外ブロック（長期留置用）と疼痛管理に関する指導を行った。

3. 研究・学会活動

長年にわたり主として呼吸器領域に関して、低肺機能の周術期管理の検討、麻酔薬や手術操作など様々な状況での呼吸メカニクスの計測や呼吸生理の研究、二腔式気管チューブを用いた分離肺換気の工夫などを行ってきた。その結果は関連学会での報告や講演、雑誌や教科書への執筆などで発表してき

た。今年度の学会発表はないが、教科書の執筆を提出中である。

放射線科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
【医師】		
竹下 徹	主任部長	日本医学放射線学会専門医、日本医学放射線学会研修指導者、 日本インターベンショナルラジオロジー学会 IVR 専門医
堤 真一	副部長	日本放射線腫瘍学会放射線治療専門医、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
松島央和	医員	
非常勤画像診断医（7名）大阪市大病院およびその関連病院の先生方に非常勤医師として業務をサポートしていただいています。		
【診療放射線技師】		
別所右一	医療技術部長 兼技師長	医療情報技師、医用画像情報精度管理士、肺がん CT 検診認定技師、 磁気共鳴専門技術者、A i 認定診療放射線技師
砂山正典	副技師長	
石黒秋弘	副技師長	臨床実習指導教員、放射線機器管理士、放射線管理士 医療画像情報精度管理士
森見左近	副技師長	第一種放射線取扱主任者、核医学専門技師
川合航大	主任	第一種放射線取扱主任者、医療情報技師、X 線 CT 認定技師 肺がん CT 検診認定技師、放射線治療専門技師、放射線治療品質管理士
吉田絵未	主任	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定技師 A i 認定診療放射線技師
宇賀慎一	主任	X 線 CT 認定技師
西村健太郎	主任	肺がん CT 検診認定技師、医療情報技師
田邊正伍	主任	血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師
濱田勇輝	技師	
豊川沙織	技師	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師、肺がん CT 検診認定技師 X 線 CT 認定技師
森田雅士	技師	
大西亜希	技師	検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師

2. 診療概要

放射線科は（１）画像診断、（２）interventional radiology（IVR）（画像下治療）、（３）放射線治療の３部門に分けられる。

(1) 画像診断部門には X 線 CT、MRI、単純写真などを用いた各疾患の診断と、放射性医薬品を投与し撮像して診断を行う核医学が含まれる。安心・安全な医療は、まず正しい診断から始まるため、「正確な画像診断を迅速に」を心がけている。

(2) IVR 部門は、血管造影、CT、超音波検査などの画像を見ながら様々な疾患の治療を行なう部門である。近年は画像下治療とも呼ばれる。呼吸器疾患の患者さんが多い当院の特徴を踏まえ、持続する血痰や喀血に対するカテーテル治療の件数が多い。各診療科と連携し、入院での治療を行っている。

緊急性を要する塞栓術などにも 24 時間体制で対応している。

(3) 放射線治療部門では、多くの悪性腫瘍に対して放射線治療を行っている。各診療科との連携のもとで外来あるいは入院での治療を行っている。可能な限り最新の技術を用いて、線量分布の最適化に努めている。

当科は、日本医学放射線学会認定の研修施設で、日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関と日本放射線腫瘍学会認定協力施設に認定されている。

院内の多数の科とのカンファレンスを積極的に行い、各診療科医師との緊密な連携に努めている。

3. 診療実績

表 令和3(2021)年度の放射線科検査・治療一覧

一般撮影			
胸部単純写真		33,288 件	
腹部単純写真		1,631 件	
骨撮影・その他		1,726 件	
病室撮影		5,762 件	
マンモグラフィー		2,384 件	
(内、羽曳野市検診マンモグラフィー	1,383件)		
特殊検査			
消化管造影		25 件	
嚥下造影		16 件	
胆管・その他		95 件	
子宮卵管造影		15 件	
気管支鏡検査		300 件	
CVポート		31 件	
CT		13,074 件	(内、造影検査 1,578件)
MRI		2,800 件	(内、造影検査 578件)
アイソトープ	計	446 件	
骨シンチグラフィー		370 件	
肺血流シンチグラフィー		18 件	
ガリウムシンチグラフィー		1 件	
その他		57 件	
血管造影検査(治療含む)			
循環器内科担当		93 件	
放射線科担当		58 件	
放射線治療	照射件数	3,160 件	
(内、4門照射 2,219件、3門照射 277件、非対向2門 73件、対向2門 235件、1門照射 22件)			
	患者数	168 人	
地域医療連携室経由の検査件数		395 件	
(内、CT: 288件、MRI: 9件、アイソトープ: 49件、放射線治療: 49件)			

4. 施設認定

日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関

日本放射線腫瘍学会認定協力施設

5. 業績

【学会発表】

森田雅士.タスクシフト推進を見据えた診療放射線技師の需給推計.公衆衛生学講座サマーセミナー
令和3年8月30日, 奈良.

森田雅士.レセプト情報(NDB オープンデータ)を用いた画像検査件数の将来推計. 日本診療放射線
技師会学術大会 令和3年11月14日, 東京

森田雅士.タスクシフトを見据えた診療放射線技師の需給推計.日本公衆衛生学会総会 令和3年12月
21日, 東京

森田雅士.リアルワールドデータを用いた診療放射線技師の需要と供給推計から考察した将来設計.
奈良県立医科大学修士学位公聴会 令和4年2月, 奈良.

【啓発・研修活動】

石黒秋弘.気管支解剖講座.日本放射線技師会・大阪府放射線技師会合同令和3年度診療放射線技師の
ためのフレッシュアップセミナー 令和3年8月29日, WEB.

宇賀慎一.放射線防護について.医療安全研修会 令和3年10月21日, 大阪.

田邊正伍.MRI 検査と安全性について.医療安全研修会 令和3年10月21日, 大阪.

別所右一.基礎講演 胸部 CT に必要な知識(解剖を中心に). 第53回 CT 画像研究会 令和4年3月
12日, WEB.

竹下 徹.新型コロナウイルス肺炎の画像所見.はびきのチャンネル 令和3年8月19日, WEB.

臨床検査科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
----	----	-------------------

【医師】

田村嘉孝	主任部長	日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医
山口 徹	レジデント	日本内科学会認定医

【技師】

田中秀磨	技師長	1 級臨床検査士（血液）、2 級臨床検査士（血液） 認定血液検査技師、認定サイトメトリー技術者 ISO 15189 技術審査員
吉多仁子	技師	認定微生物検査技師、感染制御認定微生物検査技師 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定エキスパート
山田立身	副技師長	超音波検査士（循環器）
長濱泰子	副技師長	超音波検査士（体表、検診、消化器、産婦人科、泌尿器） 乳房超音波講習会 A 判定
川澄浩美	総括主査	認定サイトメトリー技術者、超音波検査士（体表）
大西雅子	総括主査	細胞検査士、国際細胞検査士
中村由加	主任	
梶尾健太	主任	細胞検査士、国際細胞検査士
松井 謹	技師	緊急臨床検査士、2 級臨床検査士（微生物）
飯田健斗	技師	細胞検査士
岡田紗矢香	技師	細胞検査士、2 級臨床検査士（血液）
高田 瞳	技師	緊急臨床検査士、認定心電検査技師、超音波検査士（体表）
勝田寛基	技師	緊急臨床検査士、2 級臨床検査士（微生物）
土屋功太郎	技師	緊急臨床検査士
安永早希	技師	緊急臨床検査士、超音波検査士（循環器）
福田美朱	技師	緊急臨床検査士
大西正信	技師	
中井亜企	技師	
中山 明日香	技師	
藤高優斗	技師	
岩崎真衣	技師	細胞検査士
網代尚子	技師	認定微生物検査技師
比嘉沙季	技師	
上紺屋昂樹	技師	細胞検査士

2. 診療概要

分析系検査部門

8 期目となった検体検査総合システム（LABOTT II 富士通）は今年度に更新予定であったが、新病院開設まで活用することとした。故障も無く、順調に稼働している。今年度は、生化学の大型分析装置を変更した。半年経過したが、大きな故障もなく順調に稼働している。迅速検体検査にヒトメタニューモウイルス、インフルエンザ、アデノ、RS、A 群溶連菌検査、産科のクラミジア、尿中肺炎球菌・レジオネラ、便中ロタ・アデノ、ノロウイルスに取り組んでいる。時間外緊急検査では当直業務も軌道に乗り、臨床への協力体制を整えた。保険点数における加算は、外来迅速検体検査加算及び検体検査管理加算Ⅳが継続して算定されている。今年度の検査件数は、前年度と同程度であった。

輸血管理面では、今年度は施設基準に適合しており、輸血管理料Ⅱ及び輸血適正使用加算について算定が可能となった。

当院の特徴でもあるアレルギー検査では、ニーズに合った項目の追加削除で約 190 種目を実施し充実を図っている。今年度は 43,508 件（前年 53,227 件）と減少した。アトピー性皮膚炎の病勢の指標とされる TARC については全自動測定機器を導入後、検体提出日に報告が可能となり、至急対応が出来るため、診療に多いに貢献している（今年度 6,523 件、前年度 6,106 件）。

当院の特化した項目である喀痰中・鼻汁中好酸球検査は 984 件検査実施している。

生理機能検査部門

COPD や気管支喘息、間質性肺炎等の診断のための精密呼吸機能検査を実施しており、患者サービスの観点からも精密呼吸機能検査の当日実施に努めている。NO 呼気ガス分析は、呼吸機能検査全体で 21,023 件のうち 3,134 件を占めている。睡眠時無呼吸症候群の診断・治療のための睡眠ポリグラフ検査(P S G)も実施している。

心エコー・乳腺エコー・腹部超音波検査には、臨床検査技師 8 名が携わっている。生理機能システム導入により、上位システムにて鮮明な画像を診療科に提供することができるようになった。腹部エコー件数は 820 件（前年度 702 件）と増加、乳腺・甲状腺エコーの件数は 1,933 件と前年度（1,942 件）と同程度である。心臓・血管エコー検査の件数は 2,599 件と前年度 2,636 件と同程度であった。

細菌検査部門

抗酸菌検査においては、チールネルゼン法 6 件、蛍光染色法が 7,107 件（前年度 7,751 件）と前年度と同様の件数である。LAMP 法 T B 検査件数は今年度 690 件、前年度の 617 件と、やや増加した。しかし、今年度は新型コロナウイルスの遺伝子検査（LAMP 法および PCR 法）を 11,931 件 24 時間体制で実施し、迅速な対応で臨床に貢献している。

3. 施設認定

日本臨床細胞学会認定施設

日本病理学会登録施設

日本臨床微生物学会認定病院

4. 業績

【学会発表】

梶尾健太.病理細胞検査部門 細胞診定期講習会「呼吸器細胞診」. 令和 3 年 5 月 28 日, WEB.

梶尾健太, 大西雅子, 飯田健斗, 岩崎真衣, 上田佳世, 河原邦光.細胞検査士会要望教育シンポジウム 肺癌細胞診（組織型推定を中心に）「肺癌との鑑別を要する反応性腺系異型細胞について」. 令和 3 年 6 月 6 日, WEB.

大西雅子.呼吸器細胞診の基礎とピットフォール, 広島県検査技師会「技」, 令和 4 年 10 月 18 日～11 月 15 日, WEB.

大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 岩崎真衣, 上田佳世, 河原邦光.当センタににおける EBUS-TBNA 施

行時の ROSE の有用性について 第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会, 令和 3 年 11 月 20 日, 鳥取.

岩崎真衣, 大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 上田佳世, 河原邦光.超音波気管支鏡下吸引細胞診に出現した孤立性繊維性腫瘍の一例. 第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会, 令和 3 年 11 月 20-21 日, 鳥取, WEB.

飯田健斗, 大西雅子, 梶尾健太, 岩崎真衣, 上田佳世, 河原邦光, 中根和昭, 山本浩文.ホモロジープロファイル法を用いた肺小細胞肺癌と非小細胞肺癌の鑑別. 第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会, 令和 3 年 11 月 20-21 日, 鳥取, WEB.

岩崎真衣, 大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 上田佳世, 河原邦光.胸水中に出現した腎細胞癌の一例. 大阪府臨床細胞学会第 46 回学術集会, 令和 4 年 2 月 5 日,大阪.

勝田寛基, 吉多仁子, 松井 謹, 木下人美, 富田元久.当センター小児科における FilmArray 呼吸器パネルを用いた核酸同時検出検査の有用性の検討. 第 33 回日本臨床微生物学会総会・学術集会 令和 4 年 1 月 28 日～30 日, 仙台.

病理診断科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
河原邦光	主任部長	日本病理学会病理専門医・研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医・指導医 日本臨床検査医学会臨床検査管理医、厚生労働省死体解剖資格認定 日本内分泌病理学会内分泌病理専門医
上田佳世	部長	日本病理学会病理専門医・研修指導医・学術評議員 日本臨床細胞学会細胞診専門医 日本臨床検査医学会臨床検査管理医 厚生労働省死体解剖資格認定

2. 診療概要

令和 3 年度は、河原邦光医務局長が病理診断科主任部長を兼務し、上田佳世部長と 2 名体制であった。技師については、臨床検査科よりの配属の形をとり、職員数は、医師 2 名、常勤技師 5 名、非常勤技師 1 名の構成であった。

細胞診については、羽曳野市の婦人科・乳癌市民検診を受け入れている。また院内では、気管支鏡下の EBUS-TBNA 実施時に迅速細胞診（ROSE）を行い、病変の採取の有無を内視鏡医にリアルタイムで報告し、気管支鏡下病理組織・細胞診検査の精度の向上に貢献した。

3. 活動実績

病理組織診検査においては、病理組織が、2,859 件(院内実施検査ならびに受診患者の他施設標本のコンサルテーション)、細胞診検査 8,464 件、病理解剖 1 件であった。また、これらの病理組織検査に対して 887 件の免疫組織化学を行ない、診断の精度の向上に努めた。

上記病理組織・細胞診検査のうち、術中迅速組織診・細胞診は、それぞれ 299 件、367 件であった。

病理組織検査については、受託研究の形で、近隣の医療機関より、65 件(城山病院 59 件、田辺脳神経外科病院 5 件、明治橋病院 1 件)の術中迅速組織診を受け入れ、地域の診療に貢献した。

剖検症例の CPC については、コロナ感染の広がりが影響し、令和 3 年度は開催しなかった。

4. 施設認定

日本臨床細胞学会認定施設・教育研修施設

日本病理学会研修認定施設 B

5. 業績

【論文】

河原邦光. Mesothelioma in situ. 病理と臨床. 39:687-692,2021.

Yoshizawa A, Hiroshima K, Takenaka A, Habu R, Kawahara K, Minami Y, Kakinuma H, Shibuki Y, Miyake S, Kajio K, Kiyonaga K, Nagatomo M, Nishimura S, Mano M, Matsubayashi J, Motoi N, Nagao T, Nakatsuka SI, Yoshida T, Satoh Y. Cytology Reporting System for Lung Cancer from the Japan Lung Cancer Society and the Japanese Society of Clinical Cytology. An Extensive Study Containing More Benign Lesions. Acta Cytol. 66:124-133,2022.

【著作・著書】

河原邦光. 呼吸器・体腔液. 細胞診講習会ハンドアウト 2021. 日本病理学会病理専門医制度運営委員会, 京都, pp.21-53, 2021.

河原邦光. 実習標本解説 1. 細胞診講習会ハンドアウト 2021. 日本病理学会病理専門医制度運営委員会, 京都, pp.55-96, 2021.

河原邦光. 肺癌取り扱い規約 第 8 版 補訂版. 4. 病理診断. (日本肺癌学会編) 金原出版, 東京, pp.67-124, 2021.

河原邦光. 肺癌取り扱い規約 第 8 版 補訂版. 5. 細胞診. (日本肺癌学会編) 金原出版, 東京, pp.125-148, 2021.

河原邦光. X. 体腔液 A. 体腔液細胞診の基本. 細胞診アトラス 細胞・組織相関と最適なマネジメントのために. (三上芳喜編) 文光堂, 東京, pp.274-285, 2021.

河原邦光.X. 体腔液 B. 体腔液細胞診のアトラス.細胞診アトラス 細胞・組織相関と最適なマネジメントのために.(三上芳喜編) 文光堂, 東京, pp.286-291, 2021.

【学会発表】

河原邦光.外部精度管理コントロールサーベイ・問題解説.第 62 回日本臨床細胞学会総会 令和 3 年 6 月 5 日, 幕張.

鶴岡慎悟, 河村憲一, 松井宏江, 三瓶祐也, 鈴木 隆, 赤羽佑介, 是松元子, 梶尾健太, 河原邦光, 清水 健.体腔液細胞診における従来法と溶血作用のある LBC 保存液の細胞像の違い.第 62 回日本臨床細胞学会総会 ワークショップ 令和 3 年 6 月 5 日, 幕張.

神保直江, 吉田美帆, 塚本龍子, 南和宏, 田中雄悟, 眞庭謙昌, 河原邦光, 田中伴典, 伊藤智雄.両側胸膜生検が行われ, 片側で早期中皮腫が同定できた 1 例.第 62 回日本臨床細胞学会総会 シンポジウム 13 令和 3 年 6 月 5 日, 幕張.

澁木康雄, 柿沼廣邦, 河原邦光, 竹中明美, 羽場礼次, 廣島健三, 南優子, 三宅真司, 吉澤明彦, 佐藤之俊.新しい呼吸器細胞診の報告様式.第 62 回日本臨床細胞学会総会 シンポジウム 13 令和 3 年 6 月 5 日, 幕張.

梶尾健太, 大西雅子, 飯田健斗, 大山重勝, 上田佳代, 河原邦光.呼吸器細胞診において腺癌との鑑別に難渋する反応性腺系異型細胞について.第 62 回日本臨床細胞学会総会 細胞検査士会要望教育シンポジウム 令和 3 年 6 月 6 日, 幕張.

河原邦光.悪性体腔液の診断の strategy ～細胞像からどこまで原発巣に迫れるか?～.第 82 回細胞検査士ワークショップ 令和 3 年 7 月 30 日～8 月 10 日,WEB.

河原邦光, 廣島健三, 竹中明美, 羽場礼次, 吉澤明彦, 南優子, 澁木康雄, 柿沼廣邦, 三宅真司, 佐藤之俊.新呼吸器細胞診報告様式における“atypical cells”について ～非喀痰症例に出現した反応性異型細胞～.第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会 シンポジウム 7 令和 3 年 11 月 20 日, 米子.

廣島健三, 吉澤明彦, 竹中明美,羽場礼次, 河原邦光, 南優子, 柿沼廣邦, 澁木康雄, 三宅真司, 梶尾健太, 清水加菜, 長友 萌, 西村早菜子, 佐藤之俊.呼吸器細胞診の新しい報告様式:細胞診判定区分の観察者間の一致.第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会 シンポジウム 7 令和 3 年 11 月 20 日, 米子.

吉澤明彦, 廣島健三, 竹中明美, 羽場礼次, 河原邦光,南優子, 柿沼廣邦,澁木康雄, 三宅真司, 清水加菜, 梶尾健太, 佐藤之俊.呼吸器細胞診の新しい報告様式:良性病変に対する JLCC-JSCC 分類の有用性.第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会 シンポジウム 7 令和 3 年 11 月 20 日, 米子.

酒井麻衣, 羽場礼次, 吉澤明彦,河原邦光, 竹中明美, 三宅真司, 柿沼廣邦, 澁木康雄, 梶尾健太, 清

水加菜.肺癌の腺癌・扁平上皮癌を構造異型から捉える.第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会 シンポジウム 7 令和 3 年 11 月 20 日, 米子.

京竹愛子, 塚本龍子, 大崎博之, 中西大地, 芝地朱音, 蜂巢智也, 大浦季恵, 須廣佑介, 古澤哲嗣, 猪原千愛, 吉田美帆, 今川奈央子, 神保直江, 河原邦光, 伊藤智雄.体腔液中の非角化型平上皮癌の診断の pitfall.第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会 ワークショップ 8 令和 3 年 11 月 20 日, 米子.

飯田健斗, 大西雅子, 中根和昭, 梶尾健太, 岩崎真衣, 上田佳世, 山本浩文, 河原邦光.ホモロジープロファイル法を用いた肺小細胞癌と肺非小細胞癌の鑑別.第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会 一般演題(デジタル示説) 令和 3 年 11 月 20-21 日, 米子.

岩崎真衣, 大西雅子, 梶尾健太, 飯田健斗, 上田佳世, 河原邦光.超音波気管支鏡下穿刺吸引細胞診に出現した孤立性線維性腫瘍の一例.第 60 回日本臨床細胞学会秋期大会 一般演題(デジタル示説) 令和 3 年 11 月 20-21 日, 米子.

河原邦光.悪性体腔液の診断の strategy ～細胞像からどこまで原発巣に迫れるか?～.第 36 回奈良県臨床細胞学会総会・学術集会 特別講演 令和 3 年 12 月 11 日, 橿原.

上田佳世.呼吸器.第 46 回日本臨床細胞学会近畿連合学術集会 スライドカンファレンス 令和 3 年 10 月 3 日, 橿原.

河原邦光 .中皮腫を含む悪性体腔液の診断の strategy ～細胞像からどこまで原発巣に迫れるか?～.第 15 回中皮腫細胞診セミナー講演 5 令和 4 年 3 月 12 日, 神戸.

【啓発・研修活動】

河原邦光.NGS 検査の解析成功に向けての臨床病理学的提案～病理診断医の視点より～.Practice Web Seminar for Pathology ～Towards NGS success～.

上田佳世.病理診断医の魅力.3 学年プロエッショナルリズム/実習におけるキャリアガイダンス授業 令和 4 年 1 月 31 日, WEB.

河原邦光.1 年対象 令和 3 年度“今 がんは”15 .大阪大学教養.

リハビリテーション科

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格 等
----	----	--------------------

【医師】

森下 裕	主任部長	日本内科学会認定医、日本呼吸器学会専門医、日本医師会認定産業医
------	------	---------------------------------

【理学療法士】

相田利雄	主任	日本理学療法士協会専門理学療法士（内部障害理学療法 呼吸） 3学会合同呼吸療法認定士、呼吸ケア指導士（初級） 日本理学療法士学会 地域包括ケア推進リーダー 日本理学療法士学会 介護予防推進リーダー
------	----	---

中原千里	技師	
------	----	--

森 茉唯	技師	
------	----	--

【作業療法士】

中川勇希	技師	福祉住環境コーディネーター2級
------	----	-----------------

【言語聴覚士】

大黒大輔	技師	言語聴覚療法学会認定言語聴覚士（摂食嚥下障害領域）
------	----	---------------------------

【事務】

豊田知子		
------	--	--

6. 診療概要

呼吸器リハビリテーションとしての主な対象疾患としては、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、重症肺炎、肺結核、非結核性抗酸菌症などの呼吸器疾患であり、急性期から慢性期まで幅広い介入を行っている。

肺癌症例に対しても術前の評価と術後の介入を行い、早期退院ができる様に支援を行っている。

今年度は新型コロナウイルス感染症後の患者に対してのリハビリテーションを経験することとなった。

理学療法士と作業療法士は、呼吸法や動作要領の指導、運動療法、日常生活動作訓練など一般的な呼吸理学療法・作業療法に加え、労作時に必要となる酸素流量の見極めや在宅酸素療法（HOT）機器の同調性、HOT 機器の操作方法、行動変容を目指した患者指導など専門性の高い呼吸リハビリテーション介入を展開した。

心不全症例や弁膜症の術後など心大血管リハビリテーションⅡの対象症例にもプロトコールに基づいた適切なリハビリテーションを提供している。

言語聴覚士は嚥下を専門としており、嚥下障害が疑わしい症例に対して機能評価や嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査などの評価を行い、それに基づいて訓練や食事の形態の選定をし、嚥下障害の改善や誤嚥の予防に努めた。

昨年度から始まった大阪府立病院機構の新規採用者研修は理学療法士に加え、作業療法士でも開始となり、後進の育成に貢献した。

院外の活動としては、羽曳野市理学療法士会として近隣の病院や訪問看護ステーションなど羽曳野

市内のリハ職員間の交流を継続して行っている。

3. 診療実績

(ア)新規患者数

PT・OT：737 件 ST：218 件

(イ)単位数

PT・OT：13,191 単位 ST：2,316 単位

4. 施設認定

日本理学療法士協会 新人教育プログラム臨床見学受入施設

臨床研究センター

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医、取得資格等
橋本章司	臨床研究センター長 結核・感染症研究室 室長 治験管理室 室長	日本感染症学会推薦 ICD 日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本アレルギー学会アレルギー専門医 日本感染症学会専門医 日本結核・非結核性抗酸菌症学会結核・抗酸菌症指導医 日本臨床研修協議会プログラム責任者
片岡葉子	免疫・アレルギー研究室 室長	日本皮膚科学会専門医、日本アレルギー学会指導医 日本心身医学会専門医
門田嘉久	分子肺疾患研究室 室長	日本外科学会指導医、日本胸部外科学会認定医 日本呼吸器外科学会専門医 日本がん治療認定医機構認定医 大阪大学医学部臨床教授
松岡洋人	呼吸器研究室 室長	医学博士、日本内科学会総合内科専門医 日本呼吸器学会専門医・指導医
森田沙斗武	臨床法制研究室 室長	医学博士、大阪府監察医事務所監察医 滋賀医科大学法医学教室非常勤講師 日本法医学会法医認定医、日本法医学会検案認定医 死体解剖保存法解剖資格、日本内科学会内科認定医 日本呼吸器学会呼吸器専門医 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

2. 診療概要

臨床研究センターは、平成 18 年 4 月に院内の診療科・検査科・感染対策チーム (ICT) と連携し「医学と医療の進歩に貢献する」ための臨床研究部として創設され、平成 29 年 4 月より臨床研究センターとなった。

現在、①結核・感染症、②免疫・アレルギー、③分子肺疾患（肺がん）、④呼吸器（COPD や間質性肺炎）、⑤臨床法制の 5 領域で、患者さんの臨床検体と診療データを活用した新しい診断検査法・治療薬・発症予防法の開発と、その臨床治験を進めている。

令和 2 年度より企業治験の支援に加えて、治験ネットおおさか、大阪大学未来医療部、REMAP-CAP 日本と協力し、新規治験及び臨床試験に取り組んでいる。

令和 3 年度に実施・支援した COVID-19 関連の主要な治験及び臨床研究に、①COVID-19 治療薬関連の治験 2 件、②大阪府より委託された SARS-CoV-2 迅速抗体測定キットの性能評価、③COVID-19 に対するトシリズマブの有効性と安全性に関する観察研究、④COVID-19 の重症化病態の解明及び重症度の評価に関する研究などが挙げられる。

【各研究室の研究内容】

① 結核・感染症研究室

感染症内科・検査科・ICT と連携し、薬剤耐性菌（MRSA、緑膿菌など）の遺伝子配列に基づく伝播経路の推定と感染対策の強化、結核診断法の改良、およびウイルス感染症の重症化病態の診断及び治療法の開発を進め、広域での感染対策強化につなげている。

② 免疫・アレルギー研究室

気管支喘息・食物アレルギー・アトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎などの新規治療法と、その治療効果や予後予測するための診断検査法の開発を進めている。

③ 分子肺疾患研究室

肺がん患者さんの治療効果や予後予測に関連するがん細胞の遺伝子変異の検査法の開発と、その遺伝子変異に基づいた患者さんごとの個別治療法への応用を進めている。

④ 呼吸器研究室

COPD や間質性肺炎などの難治性肺疾患や、敗血症や重症肺障害に対する新しい治療法の開発を進めている。

⑤ 臨床法制研究室

大阪南部地域における死因究明の充実を目的とし、近隣警察からの依頼による検案業務などを主な活動とし、医療安全に対するコンサルト業務も行っている。今後、突然死・異常死症例に対する診断の補助となる検査設備の拡充に努める。

3. 活動実績

臨床研究支援・報告件数 : 30 件

院内治験支援・実施件数 : 30 件

4. 施設認定

日本感染症学会認定研修施設

5. 業績

【論文】

Kang S, Tanaka T, Inoue H, Ono C, Hashimoto S, Kioi Y, Matsumoto H, Matsumura H, Matsubara T, Shimizu K, Ogura H, Matsuura Y, Kishimoto T. Reply to Cheng et al.: COVID-19 induces lower extent of cytokines, but damages vascular endothelium by IL-6 signaling. PNAS 2021. PMID: 33972413.

Hashimoto S, Yoshizaki K, Uno K, Kitajima H, Arai T, Tamura Y, Morishita H, Matsuoka H, Han H, Minamoto S, Hirashima T, Yamada T, Kashiwa Y, Kameda M, Yamaguchi S, Tsuchihashi Y, Iwahashi M, Nakayama E, Shioda T, Nagai T, Tanaka T. Prompt reduction in CRP, IL-6, IFN- γ , IP-10, and MCP-1 and a relatively low basal ratio of ferritin/CRP is possibly associated with the efficacy of tocilizumab monotherapy in severely to critically ill patients with COVID-19. Frontier in Medicine. 2021. PMID:34631752.

【啓発・研修活動】

橋本章司.阪大病院指導医養成講習会 令和3年9月2-4日, 吹田市.

橋本章司. COVID-19の在宅診療と感染対策. SOCC. 令和3年9月18日, WEB.

橋本章司.新型コロナウイルス感染症の次に備える～薬剤耐性菌と肺結核の傾向と対策～. 西宮地域医療連携セミナー 令和3年10月21日, 西宮市.

橋本章司.リウマチ、整形外科領域において注意すべき感染症とその対策. 第8回日本リウマチ財団研修会 令和3年11月13日, 大阪市.

橋本章司.肺炎診療で注意するポイント. REM(Respiratory Education Meeting) 令和3年11月16日, 吹田市.

橋本章司.ワクチン接種について学ぶ. はびきの健康フォーラム 2021 (Web) 令和4年2月14日, WEB.

橋本章司.結核と新型コロナの比較. STOP 結核パートナーシップ関西第9回WS (Web) . 令和4年3月19日,WEB.

【マスコミ発表】

橋本章司. サタデーステーション ニュースのあや「RAとCOVID-19に対するアクテムラの作用」テレビ朝日 令和3年10月2日.

次世代創薬創生センター

1. スタッフ

氏名	役職	認定医・専門医・指導医
松山晃文	次世代創薬創生センター長	日本内科学会認定内科医 日本内科学会総合内科専門医 日本循環器学会循環器専門医

2. 概要

近年、高度専門医療の提供は、医療シーズを橋渡しする Translational Reserch(TR)部門と、医療ニーズからシーズを生み出す reverseTR 部門が相乗効果をもって開発・提供するトレンドに深化している。

次世代創薬創生センターは、reverseTR 部門として reverseTR に不可欠な産学連携研究・開発を推進するとともに、公衆衛生上の危機に即応する研究も行い、府域医療水準の一層の向上にも寄与したい。

3. 業績

【論文】

Okura H, Matsuyama A.Regulation of Genome Editing in Human iPS Cells: Japan. Hans-Georg Dederer and Gregor Frenken (Eds): Regulation of Genome Editing in Human iPS Cells. Springer Nature.:223-268,2022.

Hirai T, Kono K, Sawada R, Kuroda T, Yasuda S, Matsuyama S, Matsuyama A, Koizumi N, Utoguchi N, Mizuguchi H, Sato Y.A selective cytotoxic adenovirus vector for concentration of pluripotent stem cells in human pluripotent stem cell-derived neural progenitor cells. Scientific reports.11:11407-11407,2021.

Takedachi M, Sawada K, Sakura K, Morimoto C, Hirai A, Iwayama T, Shimomura J, Kawasaki K, Fujihara C, Kashiwagi Y, Miyake A, Yamada T, Okura H, Matsuyama A, Saito M, Kitamura M, Murakami S.Periodontal tissue regeneration by transplantation of autologous adipose tissue-derived multi-lineage progenitor cells.Scientific reports.in press:-,2022.

2 薬局

1. スタッフ

氏名	役職	専門資格
金銅葉子	薬局長	日本医療薬学会がん専門薬剤師・がん指導薬剤師 日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師・指導薬剤師 日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師 日本緩和医療薬学会緩和医療暫定指導薬剤師 日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士 日本臨床栄養代謝学会臨床栄養代謝専門療法士 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 日本病院薬剤師会認定実務実習指導薬剤師
木澤成美	副薬局長	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
木村 貴	総括主査	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
的場美香	総括主査	日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士 日本腎臓病薬物療法学会腎臓病薬物療法認定薬剤師 日本糖尿病療法指導士 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師
岩田浩幸	主査	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師
友井理恵子	主査	日本医療薬学会がん専門薬剤師 日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
上田理恵	主任	日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本結核 非結核性抗酸菌症学会登録抗酸菌症エキスパート 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
富士芳美	主任	日本医療薬学会がん専門薬剤師 日本緩和医療薬学会緩和薬物療法認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師 大阪 CDE（糖尿病療法指導士）認定
澤井祐樹	技師	日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本各医学会核医学認定薬剤師

水口侑子	技師	日本薬剤師研修センター認定実務実習認定薬剤師 日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 日本化学療法学会抗菌化学療法認定薬剤師 日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師
盛谷友梨	技師	
松下一樹	技師	日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師 日本臨床栄養代謝学会栄養サポートチーム専門療法士 アレルギー疾患療養指導士
辻 有梨	技師	日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師 日本災害医学会 PhDLS プロバイダー 日本小児集中治療研究会 PALS プロバイダー
和田宜久	技師	日本病院薬剤師会日病薬病院薬学認定薬剤師 日本病院薬剤師会感染制御認定薬剤師 アレルギー疾患療養指導士
三谷優香	技師	

2. 概要

薬局では、患者に安全で質の高い医療を提供することを第一として、調剤や服薬指導を入院患者のみならず外来患者へも行っており、小児科外来吸入指導、がん薬剤師外来での抗がん剤指導、手術前の薬剤師外来などを実施している。入院時に持参薬確認を行い、処方薬の総合評価の取り組みとしてポリファーマシー解消に向けた減薬などの総合的な評価と調整を行うことで入院から退院まで薬剤師が薬剤に関して介入している。医薬品管理、医薬品情報管理の他、緩和ケアチームや I C T、N S T、入院結核患者への服薬確認（D O T S）、アトピーカレッジなど当院でのチーム医療の活動に積極的に参加し、薬剤師の専門性を発揮している。

地域の医療水準向上に向けた取り組みとして、令和 2 年度にセンター独自の薬物療法について収載した薬局向け教本を発刊し、府立病院機構の薬局向け教育プログラムに協力している。また、保険薬局の吸入指導のレベルアップと地域拡大を目指して、アズマネットワークで当センター薬剤師が中心となって吸入手技の指導や吸入薬の正しい知識を提供している。

・調剤、製剤業務

処方オーダーリングシステムを採用して相互作用や禁忌などのチェックを行うことで正確で安全な調剤を行い、投薬開始日を基準に薬の払い出しを行っている。注射薬については患者毎に 1 日分、1 施用単位ごとに調剤し、注射薬の払い出しをより安全に行うために注射薬自動払い出し機（アンプルピッカー）、鑑査システムを導入している。平成 28 年度からは、薬剤に付与されたバーコードを利用して処方毎にバーコードリーダーで読み込み、調剤過誤防止に役立てている。がん化学療法の処方においては、化学療法委員会で承認された登録レジメンからオーダーされるようになっており、薬剤師は投与量や投与間隔、対象患者の検査データなどをダブルチェックしている。

承認、販売されている薬剤だけでは多様な疾患に対応できない場合もあり、軟膏の混合製剤など当院独自の院内製剤を作製している。また、手術室や病棟からの請求に基づき、消毒薬や処置薬等の供給を行っている。令和 2 年度には注射薬の配合変化一覧表を作成し病棟に情報提供し、情報収集とデータ

ベースの蓄積を継続している。

- ・がん化学療法

がん化学療法では、平成 16 年 9 月外来化学療法室開設に伴い、外来患者の抗がん剤の無菌調製を安全キャビネットを開始し、平成 22 年 1 月からは、外来、入院全ての抗がん剤の調製を実施した。令和元年度から閉鎖式器具を使用するレジメンを増やすことにより抗がん剤暴露対策を推進している。化学療法委員会では事務局を務め、がん専門薬剤師がレジメンの登録・管理に携わり、安全かつ効果的な化学療法の実施に貢献している。令和 2 年度には当センターで登録された化学療法のレジメンをホームページで公開し保険薬局が閲覧できるようにし、外来化学療法の患者へのレジメン提供を行い、また地域の薬局薬剤師を対象にがん化学療法についてのオンライン研修会を実施して外来化学療法加算 1 の取得に向けた取り組みを行っている。

- ・無菌調製業務

抗がん剤無菌調製は、平成 22 年 1 月に入院及び外来化学療法全ての抗がん剤の調製を薬局で実施している。平日のみならず土日祝日投与の抗がん剤の調製も薬剤師が実施している。令和 2 年 5 月からは全病棟を対象に高カロリー輸液（TPN）の無菌調製の運用手順を作成し、薬局のクリーンベンチで薬剤師が無菌調製を行っている。

- ・薬剤管理指導業務

薬剤管理指導業務は、平成 5 年 12 月に小児科から開始、平成 19 年 1 月より全科で実施している。また、外来小児患者への吸入指導や服薬指導も実施し、患者及び医師から高い評価を受けている。平成 25 年度には薬剤師の小児アレルギーエデュケーターが誕生し、院内、院外を問わず教育活動に活躍している。令和 3 年度にはアレルギー疾患療養指導師の資格を持つ薬剤師が増え、更なる活躍をしている。

平成 23 年度から一部病棟で開始した持参薬鑑別業務は、平成 24 年 11 月、薬局前に「持参薬コーナー」を設置して予定入院患者を対象に業務を拡大し、入院前の薬剤師による面談により服薬管理状況の確認や薬剤アレルギー有無の確認を行い電子カルテに入力することにより院内で情報共有している。さらには、時間外、土日・祝日の緊急入院患者に対しても持参薬確認と持参薬オーダーを行い、重複投与防止や医師の業務負担軽減に協力している。令和 2 年 12 月から COVID-19 専用病棟入院患者の持参薬鑑別を薬剤師がレッドゾーンに入って開始し、患者からの聞き取り、持参薬入力作業を行い、必要に応じて服薬指導や吸入指導なども行っている。

平成 26 年 4 月にお薬相談室を改装し、呼吸器外科の手術予定患者を対象に服用薬情報を主治医に提供するため「薬剤師外来」を開設し、現在では外科外来の全ての診療科からの依頼を受けて抗凝固薬等の服用チェックを行っている。令和元年 4 月からは耳鼻咽喉科の手術予定者も対象に追加し、令和 3 年度からは泌尿器科の手術予定者も対象に追加した。平成 26 年 7 月より「がん患者指導料 3」算定のため、外来がん患者への抗がん剤の指導も開始し、外来化学療法の増加に伴い依頼が増加傾向にある。

令和 3 年 7 月からは、結核病棟の入院患者を対象に処方変更の提案を行うと共に内服定期処方の代行入力を病棟担当薬剤師が行うことで医師、看護師の業務負担軽減に貢献している。

- ・医薬品情報管理業務（D I）

薬事委員会（年 4 回開催）の事務局として業務を担っている。医薬品の新規採用及び中止について、薬剤の有用性、安全性、経済性だけでなく医療安全の観点からも検討し審議している。後発医薬品の使用促進のため、採用薬の後発品への切り替えや安定供給やコスト面から採用メーカーの見直し変更を

行って、令和 3 年度も後発医薬品体制加算 1 を算定できており、また外来は一般名処方を導入している。オーダーリングシステムにおいて併用禁忌や妊婦等への禁忌薬の処方チェック等、常に最新の医薬品情報が反映できるよう薬品マスターのメンテナンスを行い、適正使用の推進及び薬剤費のコスト削減、経営の効率化に努めている。さらに安全性情報等、緊急を要するものについては、院内メールを利用し、タイムリーに臨床の場に提供するなど医薬品情報の収集と提供に努めている。

- ・チーム医療への参画

安全で質の高い医療を提供するため、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム（NST）、感染対策チーム（ICT）、褥瘡チーム、嚥下チーム、アトピーカレッジなど他職種で構成されるチーム医療活動に積極的に参画し、薬剤師の立場からチームをサポートしている。また平成 30 年 7 月から抗菌薬適正使用支援チーム（AST）を立ち上げ、AST 専従薬剤師を配置した。現在は AST 専任薬剤師を中心に、感染症認定薬剤師が院内使用の抗菌薬のサーベイランスやモニタリングを積極的に実施し、院内抗菌薬の適正使用を推進することで質の高い感染対策に貢献している。

- ・医薬品管理業務

医薬品の入出庫、定数管理は、SPDと連携し効率的な使用に努めている。特に法的規制のある医薬品、麻薬、向精神薬、毒薬については、記録、保管体制を整備し厳重に管理している。令和 2 年度は覚醒剤原料取締法の改正に伴う院内の覚醒剤原料の取扱いについて運用を作成周知した。また、期限切れによる減損を最小限にするため府立病院機構の病院間移譲・分譲体制を活用し不良在庫の削減を図っている。メーカーの不良品回収や昨今頻発している出荷停止や出荷調整に対していち早く情報収集し、代替薬の確保など供給体制に滞りが生じないように迅速に対応している。

- ・治験（受託研究）業務

治験薬管理業務を担い、治験薬の薬品マスター作成から調剤、保管温度、管理簿等の記録まで適正な管理に努めている。治験薬の温度管理については、令和 2 年度に温度監視システムを導入することにより保冷庫の温度上昇をいち早くキャッチできる体制を構築した。また、治験管理室と協力して、治験の依頼からスタートアップまで、円滑な治験実施体制をサポートしている。

- ・医療安全活動

医薬品安全管理責任者を中心に医療安全管理室との連携を強め、院内リスクラウンドや他施設への地域連携ラウンド、医療安全カンファレンスへの参加など、医薬品による医療事故防止のため、啓発活動や掲示物の作成など積極的に院内全体の医療安全対策に関与している。令和元年度からは、プレアボイド事例を院内の医療安全委員会で毎月報告を行い、薬剤師が処方の疑義照会により副作用を未然に回避し、薬物治療効果の向上など薬の安全管理に関与した件数を報告している。

- ・教育・研修

薬局内研修会や各種学会・研究会などに積極的に参加し、薬剤師職能のレベルアップに努め、専門薬剤師や認定薬剤師の育成を図っている。令和 2、3 年度は COVID-19 感染症対策としてオンラインによる勉強会を導入し、薬局内でのリモート勉強会を開催した。また、大学薬学部学生 1 年生の早期体験学習の受け入れを行っており、病院薬剤師業務を見学、体験する機会を設けている。平成 22 年度から毎年薬学 6 年制における実務実習生を受け入れており、令和 3 年度には認定実務実習指導薬剤師 8 名を中心に薬学生の指導にあたり、COVID-19 感染症流行による緊急事態宣言下、当センターで対象の実習生に対して新型コロナ肺炎ワクチン接種を行い、十分な感染対策を行うことにより 3 期で計 12 名を受け入れた。

・地域連携

薬薬連携事業として平成30年度から当センター薬局と羽曳野市薬剤師会との協働による手術予定入院患者に対する服用薬及びサプリメントの事前確認を保険薬局と連携して行い、薬の服用が原因で手術が中止にならないよう安心して入院手術ができるように服用管理を行っている。また、令和2年度から新たに、退院時に入院中の持参薬の変更や中止等、新たな治療薬や退院処方薬などの薬剤情報をかかりつけ薬局に文書で提供することで退院時薬剤情報連携を行っている。地域の保険薬局からは、当センター退院後や入院前の患者のアドヒアランスや副作用などの薬剤情報をトレーシングレポートによる情報提供を病院薬局に行うことで連携を行っている。また、年1回薬局主催で保険薬局の薬剤師対象に地域連携研修会を開催し、当院の診療科医師による講演と薬薬連携の情報交換を行っている。

3. 活動実績

業務実績（年間）

薬剤管理指導	10,868件	外来抗がん剤指導	113件
麻薬管理指導	468件	小児喘息吸入指導	83件
退院時薬剤情報管理指導	2,532件	手術前服用薬確認	490件
薬剤総合評価調整加算	14件	外来化学療法連携充実加算	1,653件
退院時薬剤情報連携加算	159件	無菌調製処理料1（閉鎖式器具使用）	1,592件
持参薬確認	4,855件	無菌調製処理料2	731件
抗がん剤調製（入院）	1,224枚	後発医薬品割合（数量ベース）	89.62%
	1,703件	外来処方せん	5,869枚
抗がん剤調製（外来）	1,724枚	外来注射処方せん	6,378枚
	2,453件	院外処方せん発行率	93.10%
入院処方せん	77,761枚	薬学6年制長期実務実習生	12名
入院注射処方せん	80,972枚	新規治験	9件
外来院外処方せん	79,639枚	取扱い治験件数	32件

医薬品費の執行状況及び薬効別医薬品の使用状況

令和3年度の医薬品費執行額は1,124,932,306円（前年度金額1,252,317,750円）

その剤型別構成比は、内用剤 約9.18%（前年度約12.26%）

外用剤 約2.96%（前年度約2.79%）

注射剤 約87.87%（前年度約84.95%）となっている（表3）

また、薬効別医薬品の使用状況については、腫瘍用薬を主とする細胞機能用医薬品が約53.52%とそれらに占める割合が大きい。

医薬品費執行額及び構成比・年度末の採用薬品数

区 分	執行額（円）	構成比（%）	令和3年度末 採用薬品 品目数	令和3年度 新規採用 医薬品数	令和3年度 採用中止 医薬品数
内用剤（麻薬・造影剤を含む）	¥103,227,219	9.18%	694	19	32
外用剤（麻薬を含む）	¥33,244,581	2.96%	286	4	17
注射剤（麻薬・造影剤を含む）	¥988,460,506	87.87%	568	26	25
合 計	¥1,124,932,306	100.00%	1,548	49	74

薬効別医薬品購入金額

大分類	小分類	金額	構成比 (%)
神経系及び感覚器用医薬品	中枢神経系用薬	10,445,867	0.93%
	末梢神経系用薬	4,058,327	0.36%
	感覚器用薬	7,315,591	0.65%
	計	21,819,785	1.94%
個々の器官系用医薬品	循環器用薬	7,943,976	0.71%
	呼吸器用薬	174,146,455	15.48%
	消化器用薬	15,230,236	1.35%
	ホルモン剤（抗ホルモン剤を含む）	14,037,116	1.25%
	泌尿生殖器官及び肛門用薬	1,858,368	0.17%
	外皮用薬	10,254,979	0.91%
	歯科口腔用薬	0	0.00%
	その他の個々の器官系用医薬品	1,272	0.00%
	計	223,472,402	19.87%
代謝性医薬品	ビタミン剤	893,120	0.08%
	滋養強壮薬	8,308,592	0.74%
	血液・体液用薬	50,034,279	4.45%
	人工透析用薬	883,885	0.08%
	その他の代謝性医薬品	89,442,398	7.95%
	計	149,562,274	13.30%
組織細胞機能用医薬品	細胞賦活用薬	0	0.00%
	腫瘍用薬	559,081,051	49.70%
	放射性医薬品	0	0.00%
	アレルギー用薬	43,015,576	3.82%
	計	602,096,627	53.52%
生薬および漢方処方に基づく医薬品	生薬	0	0.00%
	漢方製剤	555,951	0.05%
	その他の生薬および漢方処方に基づく医薬品	0	0.00%
	計	555,951	0.05%
病原生物に対する医薬品	抗生物質製剤	34,072,976	3.03%
	化学療法剤	60,491,437	5.38%
	生物学的製剤	10,576,725	0.94%
	寄生動物用薬	615,529	0.05%
	計	105,756,667	9.40%
治療を主目的としない医薬品	調剤用薬	1,270,796	0.11%
	診断用薬（体外診断用医薬品を除く）	11,137,871	0.99%
	公衆衛生用薬	0	0.00%
	防腐剤	0	0.00%
	防疫用殺菌消毒剤	468,000	0.04%
	体外診断用医薬品	0	0.00%
	その他の治療を目的としない医薬品	3,806,465	0.34%
	計	16,683,132	1.48%
麻薬	アルカロイド系麻薬（天然麻薬）	2,145,030	0.19%
	非アルカロイド系麻薬	2,840,438	0.25%
	計	4,985,468	0.44%
合計		1,124,932,306	100.00%

4. 施設認定

日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設

日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設（基幹施設）
日本医療薬学会医療薬学専門薬剤師研修施設
日本医療薬学会地域薬学ケア専門薬剤師研修施設（基幹施設）
日本緩和医療薬学会緩和医療専門薬剤師研修施設
薬学 6 年制長期学生実務実習受入施設

5. 業績

【著作・著書】

的場美香.腎薬ドリル 腎臓病薬物療法の知識・理論を臨床に結びつけるトレーニング.(浦田元樹 関西腎と薬剤研究会) 株式会社じほう, 東京, pp.99-125, 2021.

【学会発表】

上田理絵, 水口侑子, 和田宜久, 澤井祐樹, 長谷川聡司, 岩田浩幸, 的場美香, 木村 貴, 木澤成美, 金銅葉子.当センターにおける AST 活動について.第 43 回日本病院薬剤師会 近畿学術大会 令和 4 年 1 月 29 日～1 月 30 日, WEB.

【啓発・研修活動】

松下一樹, 和田宜久.吸入指導デモンストレーション：ブリーズヘラー.第 15 回大阪アズマネット ワーク 令和 3 年 7 月 17 日, WEB.

和田宜久.当院における吸入指導.第 18 回近畿小児アレルギーケア研究会 令和 4 年 2 月 19 日, WEB.

富士芳美.書いてみようトレーニングレポート.第 2 回大阪はびきの医療センターがん病薬連携 Web 研修 令和 4 年 1 月 28 日, WEB.

3 看護部

1. スタッフ ※看護師現員数（令和3年10月1日現在）

看護部長 岡田知子								
副看護部長 専任 羽澤三恵子 豊田充代 近藤勝美								
病棟兼任 森本恭子 泉和江								
医療安全管理者 五十嵐美幸								
所属	診療科	看護師長	定数	常勤		非常勤	常勤	非常勤
				看護師	准看護師	看護師	看護補助者	看護補助者 保育士
1A	産婦人科 NICU	中出亜希代	34	36	0	6	0	3
2A	外科	難波美華	25	26	0	3	1	1
2B	ICU	荻野洋子	25	28	0	1	0	0
4A	有料個室	泉和江 中村由利子	42	45	0	0	0	7
5A	呼吸器内科 循環内科	井上理恵	37	39	0	7	0	6
5B	HCU	倉田悦子	21	22	0	1	0	1
7A	小児科	関田 恵	28	30	1	6	0	8
9A	地域包括	田中久美	21	休床				
10A	肺腫瘍、 産婦人科 他	山本攝子	22	25	0	3	0	3
10B	新型コロナ感染症	榎本かおり	22	24	0	0	0	1
11A	結核 多剤耐性	福村 恵	37	31	2	3	2	3
手術室		森本恭子	12	16	1	0	0	0
外来		田中真奈美	17	20	0	18	0	2
地域医療連携室		秦順子	6	7	0	0	0	0
患者相談室				3	0	0	0	0
看護管理室			7	8	0	0	0	0
小計			356	360	4	48	0	35
産休・その他（育休・研修・病欠・休職等）				17	0	5	0	1
合計			356	381		53	3	36

※介護休暇等、一時的に夜勤従事していない者は含まない

※9A 病棟はコロナ感染症患者対応スタッフ確保のため休床とし、9A 病棟スタッフは他病棟で勤務した。

岡田知子 日本看護協会 認定看護管理者
大阪府看護協会 府南支部理事
大阪府看護部長会 副会長

羽澤三恵子 大阪府看護協会 府南支部役員（看護師職能委員Ⅰ）

森本恭子	大阪府看護協会 府南支部役員（書記）
竹川幸恵	日本看護協会 慢性疾患看護専門看護師 大阪府立大学大学院看護学研究科臨床教授 日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 理事 日本慢性看護学会 評議員 福井大学大学院医学系研究科付属 看護キャリアアップセンター認定看護師教育課程 教育委員会委員 地域医療高度化教育研究センター特定行為研修管理委員会委員 大阪呼吸器看護研究会 会長
平田聡子	日本看護協会 慢性疾患看護専門看護師
盛光涼子	日本看護協会 小児看護専門看護師
橋本美鈴	日本看護協会 感染管理認定看護師
岡田由佳里	日本看護協会 緩和ケア認定看護師
岩田 香	日本看護協会 緩和ケア認定看護師
良田紀子	日本看護協会 がん化学療法看護認定看護師
渡部妙子	日本看護協会 慢性呼吸器疾患看護認定看護師
鬼塚真紀子	日本看護協会 慢性呼吸器疾患看護認定看護師
福地御富貴	日本看護協会 認知症看護認定看護師
小川 司	日本看護協会 がん放射線療法看護認定看護師
川上明子	日本看護協会 クリティカルケア認定看護師

日本小児臨床アレルギー学会 小児アレルギーエデュケーター	10 名
日本ケアリハビリテーション学会 呼吸ケア指導士	7 名
3 学会合同 呼吸療法認定士	10 名
アレルギー疾患療養指導士	2 名

2. 概要

令和3年度は covid19 の影響が長引く中、with コロナ・after コロナを見据えながら、以下の3点を重点目標として取り組んだ。

①地域における総合的な医療の拠点病院としての基盤を作り、地域医療と病院経営に貢献する

2次救急に対応できる看護実践能力の向上と、小児・腹部救急を含む救急受け入れ体制強化にとり組んだ。結果、救急搬送件数は1,458件/年で昨年度を391件上回った。また、DPCを意識したクリニカルパス作成と退院調整に取り組み、平均在院日数は8.8日（前年度比▲1.3日）、入院診療単価65,565円（△8,729円）と病院経営に貢献した。新たに泌尿器科、消化器内科の入院診療が開始となったが、大きなトラブルなく経過した。

②院内外の連携を強化し、質の高い入退院支援を推進する

昨年度開設した入退院センターにベテランスタッフを1.5名増し、PFMのさらなる推進に取り組んだ。予定入院患者の減少で入院時支援加算は1,376件（前年比▲14件）も入退院支援加算は4,563件（△763件）と増加した。リモートによる退院時共同指導も開始し、患者や地域の医療機関からは好評

を得た。

③みんなでコロナ渦を乗り越え、安全で誇りをもって働き続けられる職場を作る

コロナ渦でストレスフルな状況が続く中、リエゾン看護師を非常勤採用し、ストレスマネジメントに取り組んだ。また、レジリエンスの勉強会や「看護を語る機会」を意識的に作り働く意欲向上に努めた。第4波～6波の非常に厳しい状況の中で新人離職率は19.4%（全国平均8.2%）と高い結果となったものの、常勤離職率は8.3%（全国平均10.6%）に留まった。

※covid19 患者受け入れ状況 令和3年4月1日～令和4年3月31日

新入院患者数（疑い16名含む）743名、うち挿管人工呼吸36名

延べ入院患者数7,834名

（令和2年2月受け入れ開始からの新入院患者総数1,337名/延べ14,088名）

3. 実績

1) 重症度、医療・看護必要度Ⅱ（令和3年4月～令和4年3月）

一般病棟平均38.4%（前年比+4.2）、結核病棟21.0%（前年比+3.6）であった。

病棟別平均重症度、医療・看護必要度（医事データより）

病棟	1 A	2 A	2 B HCU	4 A	5 A	5 B HCU	7 A	10A	10B	11A
割合 %	54.3	58.3	98.7	44.8	32.9	91.8	8.3	31.2	40.1	21

2) 看護部委員会活動

委員会	活動内容
副看護師長会	・マネジメント力の向上を目指し、①記録・パスの充実②退院調整のグループで活動
主任会	・はびきの医療センターの看護の魅力を効果的に広報し、リクルート活動に貢献
新人教育担当者会	・新人看護師研修の企画運営をとおして新人看護師の育成にかかわる
看護部教育委員会	・レジリエンス力を高める教育プログラムの工夫
看護研究委員会	・看護研究支援者の育成
臨床指導者会	・臨床実習マニュアルの改訂（コロナ禍における感染防止） ・補助者研修の企画運営「検査検体（感染物）の取り扱い」 ・職場教育異動者へのオリエンテーションチェックリスト作成
リスクナース会	・各部署のインシデントへの対策・実施・評価 ・血糖測定・インスリンスケールの標準化
リンクナース会	・カテーテル関連尿路感染症(CAUTI)の防止 ・手指消毒の遵守
NST・褥瘡担当者会	・褥瘡・NST担当者の知識の向上を図り、NST活動を活性化
記録委員会	・効率的に質の高い看護記録のため：クリニカルパス推進 標準看護計画の整備
退院調整担当者会	・DPCⅠ以内の退院を目指して：入退院支援フローチャートの活用 入退院支援センターとの連携強化

3) 現任教育実施状況

新型コロナ感染症の感染状況に応じ、Web などを活用しながら例年通りの研修計画を実施した。

(院内研修)

	研修名	日程	対象	受講者数	目的・テーマ	内容	講師
ラ ダ ー 研 修	感染基礎	4/7	新採用職員	34名	感染防止対策の基本が理解できる 明日から標準予防策が実施できる	講義 演習	感染管理認定看護師 橋本 美鈴副看護部長
	安全基礎	4/8	新採用職員	34名	医療安全体制について理解できる 患者誤認対策、誤薬防止対策、転倒転落防止対策を理解できる	講義 演習	医療安全管理者 五十嵐 美幸副看護部長
	救急看護基礎	4/12	新採用看護職員	31名	救急場面で慌てずに役割発揮ができる	講義 演習	CPR委員会 2B 中島 徹看護師
	専門看護基礎① (呼吸器看護)	9/17	新採用看護職員	32名	呼吸器疾患看護の基礎が理解できる	講義	院内講師 5A 湊谷 千裕看護師
	専門看護基礎② (がん看護)	10/15	新採用看護職員	31名	がん(肺がん)看護の基礎が理解できる	講義	院内講師 10A 巽 友里看護師 2A 立迫 亜柚美 看護師
	専門看護基礎③	11/12	新採用看護職員	29名	アレルギー疾患看護の基礎が理解できる	講義	院内講師 5A 溝端 しのぶ 看護師
	看護研究基礎	12/17	新採用看護職員	29名	ケースレポートを書く意義が理解できる ケースレポートの形式が理解できる	講義	院内講師 10A 山崎 理恵主任看護師
	ブライマリーナース	12/17	新採用看護職員	29名	基本的な看護展開とブライマリーナースの役割について理解できる	講義 グループワーク	院内講師 2B 吉田 顕主任看護師
	I フィジカルアセスメント	7/8	ラダーⅠを目指す 看護職員	24名	日々の実践の中で、受け持つ患者の身体的なアセスメントが出来る ①客観的・主観的な身体情報を正確に得る方法を学ぶ ②患者訴えや呈している症状を正しくアセスメントし、状況を判断できる	講義 演習	院内講師 4A 福田 美佐子主任看護師
		9/6	ラダーⅠを目指す 看護職員	20名	文献検索の方法を理解する ①実践の中での疑問を自ら調べることをできる	講義 演習	院内講師 11A 中西 亜留務主任看護師
	感染防止技術	9/29	ラダーⅠを目指す 看護職員	23名	デバイス管理・創傷管理を標準予防策に準じて実施できる 医療器材の洗浄・消毒・滅菌の基礎知識を習得し、適切な管理ができる	講義 演習	感染管理認定看護師 橋本 美鈴副看護部長
	II 医療安全Ⅱ	7/5	ラダーⅡを目指す 看護職員	12名	アクシデントを防止するためのKYTを理解し、実践に活用できる	講義 グループワーク	医療安全管理者 五十嵐美幸副看護部長 医療安全推進委員会 太田 勝秀 副看護部長
		7/20	ラダーⅡを目指す 看護職員	9名	看護研究のプロセスを理解できる	講義	大阪府立大学 旗持 知恵子教授
		9/9	ラダーⅡを目指す 看護職員	15名	仕事に活かせるエクセル・パワーポイントの機能を理解できる	講義 演習	医療安全管理者 五十嵐 美幸副看護部長
		11/16	ラダーⅡを目指す 看護職員	13名	組織の中でメンバーとしての役割を理解しメンバーシップが発揮できる	講義 グループワーク	院内講師 手術室 松本 由紀子副看護部長
		11/30	ラダーⅡを目指す 看護職員	18名	感染経路管理が必要な微生物の理解ができる 感染経路別対策が自律して行える	講義・演習 グループワーク	感染管理認定看護師 橋本 美鈴
		1/28	ラダーⅡを目指す 看護職員	18名	入退院支援についての知識を得ることで、病棟における看護師の役割が理解できる	講義 演習	院内講師 5A 中村 亜弓美副看護部長
	III 現任教育	6/10	ラダーⅢを目指す 看護職員	16名	教育の基礎的知識を学び、効果的な教育指導が行える	講義 演習	院内講師 10A 森 由美子副看護部長
		9/24	ラダーⅢを目指す 看護職員	11名	統計の基本を理解できる	講義 演習	7A 関田 恵看護師長 看護部 豊田 充代
		10/29	ラダーⅢを目指す 看護職員	13名	看護実践を倫理的視点で振り返ることができる	講義 グループワーク	放射線治療認定看護師 小川 司看護師
		1/18	ラダーⅢを目指す 看護職員	12名	部署のインシデントや係の数量分析ができる 部署のインシデント分析手法を活用して対策を検討できる	講義 演習	医療安全管理者 五十嵐 美幸副看護部長
		10/8,11/26 12/7,12/10 1/11,1/20 2/10,2/21	ラダーⅢを目指す 看護職員	11名	自己の課題に研究的に取り組み、看護研究計画書を作成する	講義 演習	大阪府立大学 益 加代子准教授 南村 二美代准教授 岡崎 裕子講師 看護研究委員

役割別研修	新人看護師	新人オリエンテーション研修	4/5, 4/6,4/7	4月採用看護職員	延べ 96名	当センターの組織や看護について理解し、部署配属後円滑に職場に適應できる 服務規程、当センターの看護、教育、看護倫理、防火・防災医療安全、感染管理、電子カルテシステム操作、看護記録	講義 演習	看護部長、副看護部長 看護師長 新人担当者、実地指導者 事務局総務人事
		新人看護職員研修	4/15,4/20 4/23,4/28 5/21,6/18 7/16,9/17 10/15,11/12 1/14,2/1 3/18	新採用看護職員	延べ 268名	看護師として必要な基礎的技術・知識を学び実践に活かす 専門職として学び続ける姿勢を身につける 看護技術 〔心電図・移動の介助・食事介助・薬剤の管理・輸血の管理・褥瘡予防〕 看取りのケア・多重課題・外来、病棟連携と退院支援	講義 演習 ロール プレイング	院内講師 理学療法士・臨床工学士 薬剤師・緩和ケアCN 新人担当者・実地指導者 外部講師 日赤血液センター
	経年時看護師	卒後2年目研修	6/29	卒後2年目看護師	23名	日々の実践を振り返り「看護」について考える 自分が看護をするうえで大切にしていることに気づくことができる	講義 グループワーク	慢性呼吸器看護認定看護師 鬼塚 真紀子主任看護師
		卒後3年目研修	10/19	卒後3年目看護師	22名	自己の看護実践を他者に語ることができる 看護実践で大切にしていることを概念化できる	講義 グループワーク	がん化学療法認定看護師 良田 紀子主任看護師
		卒後3年目研修	11/11	卒後5年目看護師	10名	自己の看護のこだわりを概念にし、概念を言語化して他者に説明できる	講義 グループワーク	慢性看護専門看護師 平田 聡子副看護師長
		新人看護職員 実地指導者研修	4/6	実地指導者	10名	実地指導者として効果的に新人教育を行うための知識を得る	講義	新人担当者会 手術室 谷村 佐和副看護師長
		新人看護職員実地指導者 意見交換会	6/28,11/22	実地指導者	23名	実地指導者として効果的に新人教育を行うための情報を共有する	講義 グループワーク	新人担当者会
		感染研修① (DVD) 結核	2021.6～ 2022.3	全看護補助者	16名	結核について理解し、感染対策が行える	DVD視聴 テスト	感染管理認定看護師 橋本美鈴副看護師長
		感染研修② (DVD) CDI	2021.6～ 2022.3	全看護補助者	14名	CDIについて理解し、感染対策が行える	DVD視聴 テスト	感染管理認定看護師 橋本美鈴
		医療安全研修① 検体の取り扱い	11/26	全看護補助者	21名	安全な検体の取り扱いについて理解できる	講義	感染管理認定看護師橋本美鈴 臨床検査科 松井 護検査技師
		医療安全研修 BLS	1/17	全看護補助者	25名	救急救命の初期対応が実践できる AED的使用方法について理解できる	講義 演習	CPR委員会
発表等	研究	ケースレポート発表会	10/19,11/11 12/9	全看護部職員	156名	事例を発表することによって、行った看護を振り返ることができる 他者の事例を聞くことで看護を共有できる	講演 ディスカッション	
		重症度・看護必要度研修 (DVD)	2021.12～ 2022.3	全看護職員	283名	重症度・看護必要度を正しく評価できる	DVD視聴 テスト	

(院外研修)

	研修名	日程	対象	受講者数	目的・テーマ	内容	主催
5 セ ン タ ー 看 護 師 研 修	5センター中堅看護職員研修	7/13	中堅看護職員 リーダーレベル IV相当	4名	部署のおける役割を認識し 自分らしいリーダーシップによって部署の目標達成に貢献できる 中堅看護師に求められる組織を変えるリーダーシップ ～あなたらしいリーダーになろう～	講義 グループワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
	看護師 マネジメントスキルアップ研 修	9/30,10/1 10/7,10/8 2/18	看護師としての 実務経験9年以上の 者	2名	看護管理に必要な管理の知識・技術・態度を習得し、 看護管理者として組織の創造と変革に挑戦し、発展できる管理 能力を育成する	講義 グループワーク 演習・発表	大阪府立病院機構
	5センターストレスマネジメン ト研修	11/5	新人看護師および 実地指導者を 支援する看護師	14名	・新人看護師や実地指導者への指導上での、 困難や問題を共有し今後の取り組みを見出せる ・自己のストレスや対処方法を知り、ストレスと上手に付き合 うことができる	講義 グループワーク	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター看護研究発表	12/3	全看護職員	現地13名 Web5名	各センターの看護の実際を知るとともに看護研究に関する知識 を養う	講義 発表	大阪府立病院機構 府立5センター
	5センター新人看護職員 実地指導者研修	2/4	2022年度実地指導者 の任を担う者	22名	新人看護職員を育成するために必要な知識・技術を習得し、 実地指導者としての能力を身につける	On line講義 ペアワーク	大阪府立病院機構 府立5センター

機 構 研 修	新採用職員研修	4/1,2	新採用職員	32名	大阪府立病院機構の理解を深め、組織の一員としての役割を認識する 職員倫理、人事評価制度、個人情報保護、服務規程、接遇	DVD講義	大阪府立病院機構
	面接官スキルアップ研修	4/19	面接官の任を担う 予定のあるもの	2名	採用面接官のマインド的、技術的能力向上を図り、実践力を身につける	On line講義 演習	大阪府立病院機構
	1年目研修① (メンタルフォローアップ コミュニケーション)	6/22,6/24 7/1,7/2	新規採用職員	32名	・職業特性上かかえやすい、ストレスとストレス反応を知る ・病院スタッフとして期待されるコミュニケーション力を取得し、多職種との信頼関係やチームワーク向上に貢献できる人材育成をはかる	On line講義 演習	大阪府立病院機構
	初級&中級管理者研修	7/9	主査級 課長補佐級程度	8名	・初級管理者として必要なマネジメントの基礎とリーダーシップ、OJTについて学ぶ ・今後のキャリアに求められる管理者としてのスキルやマインドを身に付ける	講義 演習	大阪府立病院機構
	中堅研修①	7/29	勤務5年目以降の 主任、主事	2名	・ボスマネジメントの必要性を理解し、必要なコミュニケーション方法を習得する ・ロジカルシンキングの必要性を理解し、基本的な手法を習得する	講義	大阪府立病院機構
	2年目研修①	11/19,11/24 11/26	入職2年目の職員	21名	入職期間の若い職員がかかえやすいストレスやその対処法を学び、理解する	講義	大阪府立病院機構
そ の 他 外 部 研 修	大阪府保健師助産師看護師 実習指導者講習会	8/30-9/13	看護師等養成所の実 習施設で実習指導者 の任にある者	1名	看護基礎教育における実習の意義及び実習指導者としての役割を理解し、効果的な実習指導ができるよう、必要な知識・技術を修得する。	講義 演習	公益社団法人 大阪府看護協会
	認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	8/30-9/13	管理業務に 関心がある者	1名	看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する	講義 演習	公益社団法人 大阪府看護協会
	認定看護管理者教育課程 セカンドレベル	6/15-8/31 11/2-1/31	認定看護管理教育課程 ファーストレベルを終 了したもの	2名	看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する	講義 実習・演習	公益社団法人 大阪府看護協会
	重症度、医療・看護必要度 評価者院内指導者研修	8/1-8/30	重症度、医療、看護 必要度の評価および 院内指導を行う者	5名	看護必要度評価者・院内指導者としての能力を高める	On lineセミナー e-ラーニング	日本臨床看護マネジメント学会 ヴェイクソンインタナショナル株式 会社共催
	大阪府看護協会短期研修	5/20-3/13	全看護職員	延べ62名	保健医療福祉の分野で重要な役割を担うすべての看護職者の生涯学習を支援し、 幅広い看護サービスの維持・向上に貢献する質の高い看護人材を育成する	講義・On line 講義演習 グループワーク	大阪府看護協会

4) 臨床実習受け入れ状況 (看護基礎教育)

施設名	実習名	学年	期間	延べ人数	実習場所
大阪府立大学	家族支援看護学実習：母性	4年生	5/11～5/14	14	1A
	総合実習：在宅	4年生	7/9～7/19	24	地域
	総合実習：母性	4年生	7/12～7/16	16	1A
	総合実習：基礎	4年生	7/12～7/19	120	2A,4B,5A,10A
	助産学実習	4年生	8/30～10/22	52	1A
	基礎看護学実習 I	1年生	9/14～9/16	37	2A,4B,5B,7A,10A
	家族支援看護学実習：母性	3年生	10/26～1/14	130	1A
	療養支援看護学：慢性	3年生	11/30～1/20	163	4A,5A,10A

施設名	実習名	学年	期間	延べ人数	実習場所
太成学院大学	総合看護学実習	4年生	7/8～7/15	30	7A,5B
	成人看護学実習Ⅱ：慢性期	3年生	9/14～10/21	186	5A,10A
	小児看護学実習	3年生	10/28～1/27	60	7A
	基礎看護学Ⅰ	1年生	1/18～1/20	30	2A,5B
畿央大学	インターンシップ実習	4年生	6/15～6/23	56	2A,4B,5A,10A
	チーム医療ふれあい実習	1年生	8/24～8/26	57	5B,7A,10A
関西医療大学	小児看護学実習	3年生	9/21～10/7	40	7A
大和大学	基礎看護学Ⅱ	2年生	8/16	9	2A,4B
藍野短期大学部	母性看護学実習	3年生	7/12	5	1A
	成人看護学実習	3年生	10/11～10/29	60	2A
森ノ宮医療大学	助産学専攻科実習	1年生	7/26～8/27	38	1A
	成人慢性期実習	3年生	10/18～11/4	55	4A
四天王寺大学	療養生活支援実習Ⅱ：慢性期	3年生	10/25～11/4	36	5A
	療養生活支援実習Ⅰ：急性・回復	3年生	11/29～12/9	36	2A
関西看護専門学校	母性看護学実習	3年生	6/14～7/9	54	1A
	小児看護学実習	3年生	6/21～7/2	40	7A
合計延べ人数				1,348	

5) 専門看護師・認定看護師の活動

今年度はクリティカルケア認定看護師が1名増え、専門看護師3名、認定看護師9名で活動を行った。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止していた近隣医療機関に向けた「はびきの CNS・CN 看護セミナー」を Web で再開した。新型コロナウイルス感染症の感染管理や ACP の推進を地域に発信し、新型コロナウイルス感染症患者の受け入れにおける感染管理や、ACP などに役割を発揮した。

活動内容	慢性疾患看護 専門看護師	慢性呼吸器疾患 看護認定看護師	緩和ケア 認定看護師	がん化学療法 認定看護師	がん 放射線療法 認定看護師	認知症看護 認定看護師	感染管理 認定看護師	小児看護 専門看護師	クリティカル ケア 認定看護師
	2名	2名	2名	1名	1名	1名	1名	1名	1名
コンサルテーション件数（院内）	171	89	111	69		49	1200	3	
コンサルテーション件数（院外）							60		
院内講義依頼件数	3		7	6	5	2	17	3	
院外講義依頼件数	30		15	4			4	4	
	呼吸器		がん						
看護専門外来延べ件数	1317		935						
在宅療養指導料算定件数	712								
がん患者指導管理料Ⅰ算定件数			351						
がん患者指導管理料Ⅱ算定件数			100						

6) 表彰等

氏名	表彰
西川百合子	瑞宝単光章
森本恭子	大阪府看護事業功労賞

7) 看護単位の活動報告

1A（産婦人科・NICU）病棟

1年を通してほぼ満床状況であった、入院患者は産科入院が大半であったが空床がある時期は婦人科の手術を受け次年度の病棟編成に備えた。分娩では母児ともに安全・安心を目指し分娩経過において胎児心拍の状況から小児科医への立ち合いを積極的に依頼し早期対応を実施しスムーズに NICU に入室できる状況になった。

今年度の分娩件数は、948 件で昨年より 4%増加し内訳をみると帝王切開が 190 件、経膈分娩が 758 件、経膈分娩のうち 164 件が無痛分娩で全体の 21.6%と増加傾向にある（昨年度より 26%増）。昨年度に引き続きコロナ妊婦の受け入れを行い、院外 19 名、かかりつけ 14 名 計 33 名の入院対応を行った。そのうち 9 名が分娩に至った。4 名は帝王切開、経産婦 5 名は分娩室を陰圧対応とし経膈分娩を行った。コロナ妊婦対応マニュアルの変更も随時行い、シミュレーション実施によりコロナ妊婦の分娩対応できるスタッフが増加し結果として対応がしやすく受け入れも更にスムーズとなった。外来においてもコロナ陽性になった妊婦には自宅待機期間に毎日電話での状態観察を行い不安の軽減と異常の早期発見に努めた。

2A（呼吸器外科・消化器外科・産婦人科）病棟

今年度は、新病院開設時の総合診療科に向け、泌尿器科の手術が本格的に開始となり、消化器内科、消化器外科の拡充、腹部救急の受け入れ開始で外科系看護の強みを発揮できる年となった。病棟目標は「泌尿器科・消化器外科に自信を持って安全でやさしい周術期看護の提供ができる人材育成をする」として取り組んだ。医師の協力の元、2A 主催での手術関連部署勉強会を実施し、疾患の理解を深めた。また、泌尿器科の新規パス作成においては、昨年度末から取り組みを開始し、パス委員会の承認を受け、4 月からの入院患者に使用でき、実施件数 133 件、安全な周術期看護の提供ができた。腹部救急においては緊急入院緊急手術対応し、救急受け入れにも貢献できた。看護においては、高齢者手術の増加に伴い、術後せん妄の勉強会で病棟全体の質向上に努めた 1 年であった。

2B（ICU）病棟

令和 3 年度は令和 5 年度開設の新病院 ICU へ向け専門性を高めるため、クリティカルケアのスキルアップと知識の向上に取り組んだ。ALS・気管挿管困難事例に対するシミュレーション、せん妄の評価・対策、早期リハビリテーションには特に重点を置いた。挿管患者のせん妄予防は一定の効果がみられ、早期リハビリテーションはシステム化ができた。

今年度も昨年度に引き続き、感染予防対策を徹底しながら、**COVID-19 重症患者** 31 名の対応を行った。一般の重篤な患者も合わせ、患者及び患者家族に対して ACP を念頭に置き、院内の面会制限を踏まえながら意思決定支援や急性期における家族ケアを実践した。クリティカルケア認定看護師 1 名が認定された。

4A（有料個室）病棟

今年度 4A・4B 病棟合併を実現。9 月から看護職員夜間配置加算を取得し病院経営に貢献した。A チームは、コロナの流行に応じてコロナ病棟【4 波（4/26～6/3）・5 波（8/6～9/27）・6 波（1/25～3/20）】と一般病棟を繰り返し対応した。コロナ酸素待機ステーションも設置した。

B チームは、スムーズに緊急入院患者を受け入れ、一般有料個室病棟としての役割を発揮した。価値観シートを活用し ACP 介入を行い、患者の思いに寄り添う機会が増えた。退院ゴールを早期から設定、リモート面会や面談を活用することで、退院支援を推進した。合同カンファレンスや訪問看護は、昨年度より 2 倍増加し、収益向上とともに、「看護師の対応」の 3 項目（患者アンケート）は 4.8 以上で高評価を得て、患者満足向上にもつながった。また、2 演題を大阪府看護学会に発表し、そのうち北井稚菜看護師が一般演題・最優秀賞を受賞した。

5 A（呼吸器内科・循環器内科・感染症内科）病棟

「チームで行う退院支援の強化、早期退院支援で住み慣れた地域へ安心して戻れるように支援する」を目標に掲げて取り組んだ。早期から退院支援に着手できるように固定チーム制を活かしてチームで退院支援を進めていった。長引くコロナ禍での医療、看護の在り方を模索しながら、地域完結型医療を目指し、リモート面会、リモート合同カンファを取り入れ実施した。カンファレンスを充実させ、主治医、多職種との連携を深め、各診療科と共に DPCⅡ期までの退院を意識し、**在院日数の短縮**に努めた。結果、**呼吸器内科は 16.9 日（前年度 20.07 日）循環器内科 14.9 日（前年度 16.6 日）**に短縮することができた。

また、**緊急入院受け入れ**は、日中、夜間共に積極的に行った結果、**264 人（前年度 154 人）**で大幅に増加した。

5 B（HCU・呼吸器内科・循環器内科・感染症内科・耳鼻咽喉頭頸部外科）年報

今年度はコロナ禍による病棟編成が数回あり、一時的に 2 B（ICU）機能を兼ねることもあり挿管患者 1 症例の受け入れを行った。また 5 B（HCU）年間を通じて各科**手術後患者**を積極的に受け入れた（耳鼻咽喉・頭頸部外科 87 件・消化器外科 12 件・呼吸器外科 20 件・泌尿器科 2 件・婦人科 1 件）。このほか**緊急心臓カテーテル 2 件**の対応を行った。

救急拡大による緊急入院はお断り 0 件を目標に積極的な入院受け入れ体制の強化を行い、年間救急搬送受け入れの目標 1100 件を超えるように救急対応看護師の育成にも力を入れ救急対応可能看護師は 25 名となり全体の 90%（新人・中途採用者を除く）となった。

一般病床では入院期間Ⅱまでに退院を意識した退院支援を行い、**入院期間Ⅰ＋Ⅱの退院患者割合は令和 2 年度 42.6%が令和 3 年は 63.2%（+20.6%）**に上昇し、早期からの退院支援にも着眼しかかわりを意識した。

7A（小児科、皮膚科、アレルギー内科、耳鼻咽喉科）病棟・小児科外来

小児科は平日 9:00～17:30 と水・金の 17:30～24:00 まで救急情報システム(ORION)が ON で稼働していたが、令和 4 年 1 月より平日 17:30～24:00 も ORION が ON になった。

大阪府委託事業の重症心身障がい児ショートステイ事業は継続し 8 年目となり、登録者数が増加。1 床から 2 床へ増床の手続きをしている最中である。

羽曳野市委託事業で羽曳野市産後ケア事業を継続しているが本年度は利用者数なし。

皮膚科、アレルギー内科で血漿交換、IVIG 療法、化学療法、抗体製剤導入、患者教育などアレルギー分野で専門的な看護を提供できた。アトピーカレッジを 7A 病棟ですることになり、DPC2 期で終了できるよう関係部署との調整、14→9 日間に日程変更、パスの変更ができた。

10B（新型コロナウイルス感染症）病棟

令和2年度2月から約2年 COVID19 患者の受け入れを行っており、4月は4波の真っ只中で始まり、入院患者増加し、重症化する患者も多くなった。挿管が必要になる患者もいたが、4波ではネーザルハイフローの使用が始まった。スタッフの感染防御に注意しながら使用を開始した。挿管介助やネーザルハイフロー、MT60の使用経験がなかったり自信がないスタッフもいたので勉強会とトレーニングを行い、対応ができるようにしていった。HCU加算対象患者は97名であった。令和3年度は、4波、5波、6波と続き**挿管患者 37名、ネーザルハイフロー46名、透析患者 30名、妊婦 28名**。妊婦は1A助産師のサポートを受けながら受け入れた。8月からは抗体カクテル療法が開始され、**外来抗体療法**として**38名**の患者を受け入れた。COVID19受け入れ病棟とし専門性を発揮しながら幅広い患者の対応ができるようにしていきたい。

11A（感染症内科・多剤耐性結核・HIV）病棟

COVID-19患者数の増減により、結核患者が急激に増減する傾向があり、重症率・患者重症度もそれに比例する形となった。効率的に人材を活用するため、2病棟運用から1病棟運用に変更し、柔軟に対応した。

院内のCOVID-19感染対策として、結核病棟でも家族とのリモート面会や地域とのリモート会議を導入し、新たなコミュニケーションツールとして定着している。

接触感染対策を強化徹底し、コロナ病棟応援の経験により、COVID-19が入院患者から5名発生しクラスターとなった際には、迅速に感染対策や、PPE装着など実施でき、スタッフへの感染「0」と最小限のクラスターで早期終息に至った。

難治性NTMの新たな治療薬が導入され、感染症内科として外来導入から教育入院、外来継続に向け、クリニカルパスを入院病棟と協働し作成し、運用している。

今後も感染対策の継続と、質の高い結核治療・看護を目指していきたい。

手術室・サプライ

令和3年度は、眼科が12月で手術が中止となり**手術件数**は前年度より146件減少した。**乳腺外科医**が常勤1名になったことから手術枠が1日/週となり**手術件数**は前年度より41件減少した。しかし、泌尿器科手術が本格的に軌道にのり、ホルミニウムレーザーを使用した経尿道的前立腺核出術や、経尿道的前立腺摘出術、経尿道的膀胱腫瘍や結石破碎術が増えたため、**泌尿器科の手術件数**は前年度より**132件増加した**。**手術総件数**は**1654件（+90件）**であった。**緊急手術**は**188件（+81件）**、時間外終了手術や夜間・休日の**呼出手術**は**140件**で前年度の倍となった。

コロナ患者は帝王切開5件、胸腔ドレナージ1件であった。コロナCSはスタッフ4人対応から3人対応へと業務改善を実施した。

サプライでは、リコールはなかった。

外来

今年度は、アレルギー内科に加え、リウマチ科が追加となり、また泌尿器科での手術が本格的に開始となった。これに伴い、新たに外来での生物学的製剤治療の導入や、化学療法室での治療開始や、手術に伴う術前オリエンテーションの充実などに取り組んだ。また、**新型コロナウイルス感染症外来**では、

第6波の影響により 50-60 名/日の診療が行われたが、業務改善を日々行い対応する事ができた。**救急診療**においては、2月末現在 1355 件と目標を達成できた。また、夜間緊急カテーテル検査の準備をしていたが、症例はなかった。

4. 施設認定

看護基礎教育実習施設
慢性看護専門看護師教育課程実習施設
がん看護専門看護師教育課程実習施設
小児看護専門看護師教育課程実習施設
感染看護専門看護師教育課程実習施設
慢性呼吸器疾患看護認定看護師教育課程実習施設
看護師特定行為協力施設
PAE（小児アレルギーエデュケーター）教育研修施設

5. 業績

【著作・著書】

竹川幸恵.呼吸器看護専門外来における看護ケアの実践と ACP 支援. 季刊誌 継続看護を担う体質強化 外来看護 2021 秋号.

竹川幸恵.シリーズ：看護師のためのアドバンス・ケア・プランニング実践のポイント 第2回 アドバンス・ケア・プランニングにおける看護師の役割 ～患者さんご家族への ACP 支援で看護師が心がけるべき9つのポイント～. medical forum CHUGAI Vol.25 No.4 2021. 25, 2021.11.

竹川幸恵.4 章 HOT 患者のアドヒアランス支援がわかる（解説動画）はびきの呼吸器看護専門外来での患者指導. みんなの呼吸器 Respica 冬季増刊: 2021, 2021.11.

竹川幸恵.第1特集 息苦しさを和らげるケア 〈解説2〉非がん アセスメントと症状緩和のポイント. コミュニティケア 2022 年4月号 308号 (Vol.24, No.4). 24, 2022.3.

平田聡子.3 章 HOT 患者の在宅療養がわかる 6.看護外来で行う支援. みんなの呼吸器 Respica 冬季増刊: 90-94, 2021.90-94, 2021.11.

平田聡子.基本から実践まで！ 事例でよくわかる！ 在宅酸素療法（HOT）の実際. アルメディア WEB. 2021.12.

渡部妙子.3 章 HOT 患者の在宅療養がわかる 3.禁煙サポートと栄養指導. みんなの呼吸器 Respica 冬季増刊: 74-77, 2021. 74-77, 2021.11.

渡部妙子.患者さん・ご家族との信頼関係で構築する当院のアドバンス・ケア・プランニング. 看護の

チカラ：2021 No.568.

鬼塚真紀子.3 章 HOT 患者の在宅療養がわかる 1.HOT 導入の進め方. みんなの呼吸器 Respica 冬季増刊: 62-66, 2021.: 62-66, 2021.11.

岡田由佳里.終末期せん妄を発症したがん患者の家族へのケア. 季刊誌 エンド・オブ・ライフケア, 2021.10.

岡田亜由美, 田中つぐみ, 寺岸千瀬, 上野詩織, 九鬼彩乃.巻末資料 HOT 患者のケアに役立つ早見表 1.HOT 導入チェックリスト. みんなの呼吸器 Respica 冬季増刊 :164-168, 2021.164-167, 2021.11.

北井稚菜.事例から考えるコロナ禍のアドバンス・ケア・プランニング. 看護のチカラ：2021 No.568.

【学会発表】

辰巳梨子, 村上由美子, 福村 恵.「意思疎通困難な外国籍の多剤耐性結核患者の入院継続への援助と退院支援」.第 96 回日本結核・非結核性抗酸菌症学会総会 学術講演会 令和 3 年 6 月 18 日-6 月 19 日,WEB.

井戸直樹, 田上直美, 泉和江, 中村由利子, 山本攝子, 杉浦和典, 川島佳代子, 酒巻智紀.「肺切パス改訂における多職種連携の成果」.第 21 回クリニカルパス学会 学術集会 令和 3 年 11 月 26 日-11 月 27 日,山形.

北井稚菜, 永瀬昌子.「新型コロナウイルス患者への ACP 介入での学び」.第 9 回大阪府看護学会 令和 3 年 12 月 10 日-令和 4 年 1 月 10 日,WEB オンデマンド配信.

野田真央, 永瀬昌子, 田中久美 .「自宅退院を目指した気管切開患者とその家族への支援」.第 9 回大阪府看護学会 令和 3 年 12 月 10 日-令和 4 年 1 月 10 日,WEB オンデマンド配信.

吉田めぐみ, 西上奈緒子.「新型コロナウイルス感染症病棟での挿管介助教育の取り組み」.第 9 回大阪府看護学会 令和 3 年 12 月 10 日-令和 4 年 1 月 10 日,WEB オンデマンド配信.

高橋薫里, 平川郁子, 葉山美由起.「当センターにおける無痛分娩で出産された母親の意見と今後の課題」.第 125 回日本産科麻酔学会学術集会 令和 3 年 12 月 4 日-12 月 5 日,愛知.

【啓発・研修活動】

森本恭子.母性看護における支援の実際.大阪府立大学 地域保健学域看護学類 家族支援看護学概論：母性 令和 3 年 6 月 17 日, 大阪.

関田 恵.「食物アレルギーへの対応、特にエピペン使用を含むアナフィラキシーへの緊急対応」.柏原市立国分中学校職員研修 令和3年4月2日, 柏原.

関田 恵.「食物アレルギー及びエピペンについて」.富田林市立藤陽中学校職員研修 令和3年4月19日, 富田林.

関田 恵.「看護師の立場から見た移行期医療における現状と課題」.第37回日本小児臨床アレルギー学会 シンポジウム 令和3年6月12日, WEB.

関田 恵.「多職種連携で進めるアレルギー診療の今後について - 小児から成人まで -」.第6回日本アレルギー学会近畿地方会 令和3年10月31日, 滋賀.

竹川幸恵.慢性看護学援助特論/慢性看護学演習ⅡB.大阪府立大学大学院看護学研究科 非常勤講師 令和3年4月1日～令和4年3月31日, オンデマンド 大阪.

竹川幸恵.「NPPV 患者の看護」.第18回呼吸ケアカンファレンス「人工呼吸管理コース」 令和3年4月24日, WEB.

竹川幸恵.「慢性呼吸器疾患の終末期看護」オンラインセミナー.メディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和3年5月11日, WEB.

竹川幸恵.「非がん患者の緩和ケア～呼吸器疾患を中心に～」.広島県看護協会研修会 令和3年5月24日, 広島.

竹川幸恵.「コロナ禍における慢性呼吸器疾患患者さんへの指導 ー看護専門外来の変化と実際ー」.第16回川崎呼吸ケア・リハビリテーション研究会 令和3年6月5日, 神奈川.

竹川幸恵.「エンド・オブ・ライフを見据えた看護 ー慢性疾患と他疾患を持つ患者ー」.日本看護協会研修「211.看護が支え・つなぐ複数の慢性疾患を抱える患者のエンド・オブ・ライフケア」 令和3年6月24日, 神戸.

竹川幸恵.依頼演題の部 座長.第34回非侵襲的換気療法研究会 チームでつくる「Tailor-made NPPV」 令和3年6月26日, WEB.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす！アドバンスケアプランニング」メディカル情報サービス ナースのためのセミナー 令和3年7月23日, WEB.

竹川幸恵.「HOT・NPPV の導入から看護専門外来での看護ケア」.日本メディカルネクスト 酸素療法ウェビナー 令和3年7月27日, WEB.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす！アドバンスケアプランニング」.メディカル情報サービス
ナースのためのセミナー 令和3年7月23日, WEB.

竹川幸恵.「Web 実習：マスクフィッティング、在宅人工呼吸」.第61回臨床呼吸器講習会 令和3年
8月26日, WEB.

竹川幸恵.「終末期にある患者の呼吸困難に対する看護ケア」.第17回川崎呼吸ケア・リハビリテー
ション研究会 令和3年10月16日, 神奈川.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす"アドバンスケアプランニング"」.メディカル情報サービス
看護師教育セミナー 令和3年8月18日,9月17日,11月11日, WEB.

竹川幸恵.「看護倫理」.四条畷学院大学 令和3年10月16日, 大阪.

竹川幸恵.「慢性閉塞性肺疾患(COPD)療養者の在宅ケア」.大阪府立大学大学院看護学研究科 訪問看
護専門研修 令和3年11月1日～12月31日, オンデマンド配信.

竹川幸恵.「ACPにおける看護師の役割と実践」.第31回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学
術集会 シンポジウム「慢性呼吸器疾患患者のACP」

竹川幸恵.「在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法のセルフマネジメント」.第31回日本呼吸ケア・リハ
ビリテーション学会学術集会 シンポジウム「呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援」 令和3年
11月12日.

竹川幸恵.「慢性閉塞性肺疾患(COPD)療養者の在宅ケア」のフォローアップ.大阪府立大学大学院看
護学研究科 訪問看護専門フォローアップ研修 令和4年1月, WEB.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす"アドバンスケアプランニング"」.メディカル情報サービス
ナースのためのセミナー 令和4年1月28日,WEB.

竹川幸恵.「慢性閉塞性肺疾患(COPD)療養者の在宅ケア」のフォローアップ.大阪府立大学大学院看
護学研究科 訪問看護専門フォローアップ研修 令和4年1月, WEB.

竹川幸恵.「呼吸リハビリテーションに関する新サービスに対する医学的助言」.帝人ファーマー株式
会社「アドバイザーミーティング」 令和4年3月8日, WEB.

竹川幸恵.「基礎から学んで実践に活かす"アドバンスケアプランニング"」.メディカル情報サービス
ナースのためのセミナー 令和4年3月20日, WEB.

平田聡子.論文選考委員.第 51 回日本看護学会－慢性期看護－学術集会 令和 3 年 1 月 18 日-8 月 31 日.

平田聡子.座長.エア・ウォーター・メディカル（株） 第 8 回ネーザルハイフロー療法勉強会 令和 3 年 11 月 6 日, 大阪.

盛光涼子.「食物アレルギーおよびエビペン処方生徒への対応について」.富田林市金剛中学校 職員研修 令和 3 年 5 月 28 日, 富田林.

盛光涼子.講演「こどものぜん息とアトピーのケアの実際」 体験指導「アレルギーに対処するスキンケアと吸入指導」.大阪市ぜん息教室 令和 3 年 11 月 13 日, 大阪.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.フィレンツェライフ青山（介護付き有料老人ホーム）施設内研修 令和 3 年 4 月 19 日, 藤井寺.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.社会福祉法人宝山寺福祉事業団 施設研修 令和 3 年 5 月 13 日, 奈良.

橋本美鈴.「新型コロナウイルス感染症に対する重点医療機関運営のためゾーニング、防護衣の着脱、設備について」.医療法人医仁会 藤本病院 院内研修 令和 3 年 5 月 21 日, 羽曳野.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.社会福祉法人宝山寺福祉事業団 施設研修 令和 3 年 5 月 13 日, 奈良.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.メープルコートあまみ（住宅型有料老人ホーム）施設内研修 令和 3 年 6 月 3 日, 松原.

橋本美鈴.「COVID-19 病床指導に際しての感染管理」.医療法人ラポール会 青山病院 院内研修 令和 3 年 6 月 14 日, 藤井寺.

橋本美鈴.「認知症高齢者施設内での感染対策」.グループホーム和み庵（社会福祉施設）施設内研修 令和 3 年 6 月 23 日, 松原.

橋本美鈴.アドバイザー.令和 3 年度第 1 回藤井寺保健所管内施設内感染対策ネットワーク会議 令和 3 年 6 月 29 日, 藤井寺.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.社会福祉法人高安福祉会 グループホームしぎのさと 施設内研修 令和 3 年 7 月 2 日, 八尾 .

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.有限会社なでしこ ハートフルリビングなでしこ桑津 施設内研修 令和3年7月9日, 大阪.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」.大阪市障がい者福祉・スポーツ協会 大阪市更生療育センター 施設内研修 令和3年7月13日, 大阪.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」.社会福祉法人 武田塾 施設内研修 令和3年7月14日, 柏原.

橋本美鈴.「施設内での感染対策」.介護付き有料老人ホーム ライフコート春秋 施設内研修 令和3年7月21日, 羽曳野.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」.社会福祉法人 武田塾 施設内研修 令和3年7月14日, 柏原.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」.社会福祉法人 関西福祉会 陵東館長曾根 施設内研修 令和3年8月3日, 堺.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.特別養護老人ホーム 寿光園 施設内研修 令和3年8月18日, 八尾.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」.東浅香山グループホーム9 施設内研修 令和3年8月25日, 堺.

平田聡子.座長.エア・ウォーター・メディカル(株) 第8回ネーザルハイフロー療法勉強会 令和3年11月6日, 大阪.

盛光涼子.「食物アレルギーおよびエピペン処方生徒への対応について」.富田林市金剛中学校 職員研修 令和3年5月28日, 富田林.

盛光涼子.講演「こどものぜん息とアトピーのケアの実際」 体験指導「アレルギーに対処するスキンケアと吸入指導」.大阪市ぜん息教室 令和3年11月13日, 大阪.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.フィレンツェライフ青山(介護付き有料老人ホーム) 施設内研修 令和3年4月19日, 藤井寺.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.社会福祉法人宝山寺福祉事業団 施設研修 令和3年5月13日, 奈良.

橋本美鈴.「新型コロナウイルス感染症に対する重点医療機関運営のためゾーニング、防護衣の着脱、設備について」.医療法人医仁会 藤本病院 院内研修 令和3年5月21日, 羽曳野.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.社会福祉法人宝山寺福祉事業団 施設研修 令和3年5月13日, 奈良.

橋本美鈴.「高齢者施設内での感染対策」.メープルコートあまみ（住宅型有料老人ホーム）施設内研修 令和3年6月3日, 松原.

橋本美鈴.「COVID-19 病床指導に際しての感染管理」.医療法人ラポール会 青山病院 院内研修 令和3年6月14日, 藤井寺.

橋本美鈴.「認知症高齢者施設内での感染対策」.グループホーム和み庵（社会福祉施設）施設内研修 令和3年6月23日, 松原.

橋本美鈴.アドバイザー.令和3年度第2回藤井寺保健所管内施設内感染対策ネットワーク会議 令和3年11月9日, 藤井寺.

橋本美鈴.「保育施設内での感染対策」.阪南市立尾崎保育所 令和3年11月22日, 阪南市.

橋本美鈴.「施設内での感染対策」.社会福祉法人光会 障害者支援施設 光園 施設内研修 令和3年12月2日, 泉佐野.

橋本美鈴.「障がい者施設内での感染対策」.社会福祉法人清光会 障がい者施設和泉の里.

橋本美鈴.アドバイザー.令和3年度第2回藤井寺保健所管内院内感染対策ネットワーク会議 令和3年12月7日, 藤井寺.

橋本美鈴.「施設内での感染対策」.社会福祉法人 バオバブ福祉会 施設内研修 令和3年12月17日, 松原.

橋本美鈴.アドバイザー.令和3年度第2回藤井寺保健所管内院内感染対策ネットワーク会議 令和3年12月7日, 藤井寺.

橋本美鈴.「認知症高齢者施設内での感染対策」.株式会社メディ・エイド グループホームハウゼン 令和4年1月21日, 大阪.

橋本美鈴.「施設内での感染対策」.株式会社サム デイサービスサム 施設内研修 令和4年2月22日, 富田林.

橋本美鈴.「クラスター発生後の職員の感染対策 標準予防策、PPE 装着、環境整備 食事休憩時の留意点、日常ケアの感染対策」.医療法人博我会 滝谷病院 院内研修 令和 4 年 3 月 24 日, 河内長野.

岡田由佳里.成人看護学Ⅴ（終末期看護）.関西看護専門学校看護師養成課程 令和 3 年 4 月 27 日- 9 月 7 日(計 8 回), 枚方.

岩田 香.成人看護学Ⅴ（終末期看護）.関西看護専門学校看護師養成課程 令和 3 年 5 月 28 日- 10 月 1 日(計 7 回), 枚方.

良田紀子.「irAE マネジメントについて病院間の情報共有化を図る」.中外製薬株式会社 第 3 回南大阪がん治療チームセミナー 令和 3 年 11 月 30 日, 羽曳野.

良田紀子.「がん化学療法におけるリスクマネジメント～血管外漏出、暴露、高齢者の治療リスク～」.医療法人考仁会 まちだ胃腸病院 院内研修 令和 4 年 1 月 20 日, 大阪.

良田紀子.「ICI における irAE への取り組み～看護師の立場から～」.中外製薬株式会社 南河内 HCC Web セミナー 令和 4 年 3 月 15 日, WEB.

福田美佐子.「食物アレルギー及びエピペンについて」.河南町立かなん桜小学校職員研修 令和 3 年 4 月 13 日, 河南町.

良田紀子.「ICI における irAE への取り組み～看護師の立場から～」.中外製薬株式会社 南河内 HCC Web セミナー 令和 4 年 3 月 15 日, WEB.

福田美佐子.「食物アレルギー及びエピペンについて」.河南町立中学校職員研修 令和 3 年 5 月 17 日, 河南町.

長谷川美紀.「エピペン講習会」.大阪教育大学付属特別支援学校校内研修 令和 3 年 4 月 5 日, 大阪.

中川良子.「食物アレルギーについて、アナフィラキシーの症状とエピペンの使い方」.羽曳野市立古市小学校校内研修 令和 3 年 4 月 2 日, 羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーへの対応ーとりわけエピペンを所持する児童への対応についてー」.羽曳野市立羽曳が丘小学校校内研修 令和 3 年 5 月 14 日, 羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーについて、アナフィラキシーの症状とエピペンの使い方」.羽曳野市立峰塚中学校校内研修 令和 3 年 5 月 18 日, 羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーについて、アナフィラキシーの症状とエピペンの使い方」.羽曳野市立植生学園校内研修 令和3年8月4日, 羽曳野.

中川良子.「食物アレルギーと緊急時対応」.大阪府立聴覚支援学校校内研修 令和3年8月30日, 堺.

中川良子.「食物アレルギー研修」.富田林市立葛城中学校校内研修 令和3年11月1日, 富田林.

中島 愛.「食物アレルギー研修」.松原市立三宅小学校校内研修 令和3年4月20日, 松原.

中川良子.「食物アレルギー研修」.富田林市立葛城中学校校内研修 令和3年11月1日, 富田林.

萩野恵梨花.「食物アレルギーへの対応 エピペンの使用」.高石市立清高小学校校内研修 令和3年4月8日, 羽曳野.

萩野恵梨花.「食物アレルギーへの対応ーとりわけエピペンを所持する児童への対応ー」.羽曳野市立高鷲小学校校内研修 令和3年4月22日, 羽曳野.

萩野恵梨花.「エピペン実技研修会」.羽曳野市立恵我之荘小学校校内研修 令和3年5月10日, 羽曳野.

萩野恵梨花.「食物アレルギー研修」.泉佐野市立第三中学校校内研修 令和3年5月20日, 泉佐野.

牧野知子.「食物アレルギーと緊急の時対応」.藤井寺市立藤井寺北小学校校内研修 令和3年4月6日, 藤井寺.

牧野知子.「エピペン実技研修会」.藤井寺市立藤井寺南小学校校内研修 令和3年4月8日, 藤井寺.

牧野知子.「食物アレルギー研修」.泉佐野市立北中学校校内研修 令和3年8月27日, 泉佐野.

足立艶子.母子支援業務（面接、電話、訪問、健康相談等）.藤井寺市子育て世代包括支援センター 令和3年1月以降 2回/月.

藤田弥桜.「卒業生に聞く新人ナースの心得」.関西医療大学 総合看護学演習 特別講義 令和3年11月12日, 泉南郡.

足立艶子.母子支援業務（面接、電話、訪問、健康相談等）.藤井寺市子育て世代包括支援センター 令和3年1月以降 2回/月.

4 情報企画室

当室は、当センターの病院情報システムの企画開発、運用管理を担当している。

当センターでは、昭和51年4月に医事・検査システムとしてコンピュータが導入され、昭和57年1月には、他病院に先駆けて発生源入力方式によるシステムを構築し、業務の効率化および患者サービスの向上に努めてきた。平成28年1月から第8期病院情報システムの運用が始まり、電子カルテシステムおよび電子クリニカルパスシステムの運用を開始し、後に眼科用電子カルテシステム（C-Note）が稼動することで全30のシステムが稼動している。

電子カルテでは無線LANに接続されたノートPCを使用することで、ベッドサイドでの点滴実施時には3点認証（患者、看護師、オーダ(医薬品)を、バーコードを使って確認）で実施入力を行い、また、測定した体温や血圧・脈拍等のバイタルサインは人手を介することなくノートPCから直接測定値を入力でき、医療事故の防止および看護業務の省力化に貢献した。

併せてネットワークシステムも新たに構築し、10GBの伝送容量に対応した高速な光回線を敷設し、ネットワークスイッチ等の機器は障害からのダメージを防ぐために光回線と併せて全て冗長構成にするとともに、不正なネットワーク機器を排除するための認証規格を使用機器に導入するなど強固なセキュリティを実現している。

令和3年度は、地域の医療機関からのインターネットを使った「外来診療予約システム」を導入し、24時間の受け付けを可能とした。また、当直日誌管理システムの導入により、これまでペーパー管理であった当直日誌を電子化し、効率的な当直業務管理に寄与した。今年度から厚生労働省により開始されたマイナンバーカードによるオンライン資格確認については、当センターでも3月末に対応が完了しており、今後も社会の情勢に臨機応変に対応していきたい。

2. 活動実績

項 目	主 な 内 容	
システムプログラム 開発・改修	1) 病棟合併対応 2) 地域連携システム「患者相談」登録機能追加 3) 外来診療予約システム導入 4) 診療科名称変更対応 5) マイナンバーカードによるオンライン資格確認対応 6) 当直日誌管理システム導入 7) POSレジ硬貨釣銭機への新500円硬貨対応 8) 整形外科新設対応 9) 令和4年度診療報酬改定に伴うシステム変更モジュール適用	9 件
新規端末設置	1) 外来診療端末（アレルギー・リウマチ内科、発熱外来、泌尿器科） 2) 病棟診療端末 3) その他（地域医療連携室、患者総合相談室、事務局 等） 4) インターネット端末	3 台 0 台 6 台 35 台
ヘルプデスク対応	1) システム操作のサポート（問い合わせ等） 2) 端末等のトラブル対応 3) 各種マスター登録	1,544 件 202 件 1,707 件

ホームページ・ イントラネット	1) 登録・削除（情報企画室対応）	396 件
	2) ホームページ利用者数（インターネット端末）	284,243 件
	3) ホームページ利用者数（モバイル端末）	205,210 件

5 診療情報管理室

1. スタッフ

片岡 葉子 室長 副院長、皮膚科主任部長 兼務

診療情報管理士：常勤 2 名、非常勤 3 名

非常勤事務補助(スキャンセンター)：7 名

2. 診療概要

当センターは平成 28 年 1 月に電子カルテを導入し、同意書などの紙文書もガイドラインに則ってタイムスタンプ/電子署名を施してスキャンすることで全記録を電磁的に保存している。

正確な情報を伝達・共有することは、医療安全管理や医療の質向上、経営管理など病院運営において重要であり、当室では診療記録を適切に管理し、そこから得られる情報を収集・分析・提供することを目的に以下の業務を行っている。

- ① 診療情報管理：診療記録の点検、退院サマリ早期作成推進、電子カルテコンテンツ管理、
診療情報提供(カルテ開示)
- ② DPC：DPC コーディング支援、DPC データ分析、DPC 委員会運営
- ③ がん登録：院内がん登録/全国がん登録実務および届け出
- ④ データ利用：臨床評価指標の作成、患者情報の検索/提供・データの二次利用支援
- ⑤ スキャンセンター運営：文書スキャン(タイムスタンプ/電子署名の付与)、
紙媒体の診療録・フィルム管理
- ⑥ その他：電子クリニカルパス管理と運用支援、医師事務作業補助者研修

令和 3 年度は、医療の質向上や経営改善を目的に DPC 業務とクリニカルパス推進に重点的に取り組んだ。DPC 業務では D P C コーディング支援と併せて、職員の DPC に対する理解向上と経営改善を目的に各診療科と小委員会を開催し、分析結果をもとに多職種連携を図った。パス推進では経営改善を意識したパス見直しの継続と、新設診療科のパス作成支援に取り組んだ。

3. 活動実績

14 日以内サマリ作成率	94.5%	文書スキャン件数	211,588 件
カルテ開示件数	44 件	院内がん登録件数	695 件
DPC 提案・変更件数	330 件	パス適用率	65.1%
DPC 小委員会開催件数	11 回	パス種類数	307 種

6 栄養管理室

1. スタッフ

氏 名	役 職	専門資格等
亀田 誠	栄養管理室室長（兼）	（小児科主任部長）
中芝広輝	栄養管理室室長補佐（兼）	（事務局マネージャー）
中村祥子	主査（栄養士）	NST 専門療法士、小児アレルギーエドゥケーター、 病態栄養専門管理栄養士、糖尿病療養指導士
西川知可子	主任	NST 専門療法士
富士尾祐子	栄養士	人間ドック健診情報管理指導士
非常勤栄養士 4 名	非常勤栄養士	

2. 概要

《栄養管理室業務内容》

○栄養指導業務・栄養管理業務（栄養指導実績参照）

入院患者は、栄養障害をきたした低栄養の方や食欲が低下している方も多いため、病院食は栄養管理の一環としての役割はもとより、療養生活の中にあっても楽しんでいただけるよう四季折々の行事食を取り入れるなど献立を工夫している。また、NST、褥瘡などのチーム医療活動を通じて、入院患者個々の栄養状態や食事摂取状況を評価し、きめ細やかな栄養管理を行っている。

当センターは、大阪府アレルギー疾患医療拠点病院としての専門性を生かしアレルギー関連の集団栄養指導に力を入れている。成人向けには「アトピーカレッジ」、乳幼児向けには「アトピー教室」を開催し、バランスのよい食事の重要性について指導している。個別栄養指導では「食物アレルギー栄養食事指導の手引き」（食物アレルギー研究会）に則り、医師と連携しながら、患者一人ひとりのライフスタイルに合わせた指導を行っている。

○給食管理業務（年間食事提供数（患者給食）参照）

給食管理業務は、外部委託しており、アレルギー分野の専門病院として、離乳食から成人食まで幅広い食種で年間 16,590 食（全食事提供食数の 8.1%）のアレルギー食を提供している。

《対外活動》栄養士のための大阪食物アレルギー研究会事務局

《新たな取り組み》

- ・日本アトピー協会会報誌（あとおぴい）へ食物アレルギー対応レシピ掲載（継続）
- （・コロナによる感染予防対策としてアレルギー料理教室、アトピー教室開催中止）

3. 施設認定

日本臨床栄養代謝学会 NST 稼働認定施設

4. 栄養指導実績

	指導内容	実施数 (回)	のべ参加者数 (人)
集団指導	糖尿病教室	3	8
	食物アレルギー料理教室	0	0
	アトピー教室	0	0
	アトピーカレッジ	24	162
	アトピーサマースクール	0	0
	計	27	170
個別指導 (入院・外来)	糖尿病		331
	糖尿病性腎症・腎症		21
	高血圧		163
	肝臓病		9
	胃潰瘍		40
	術後		16
	食物アレルギー		545
	肥満		55
	脂質異常症		50
	貧血		10
	嚥下困難		19
	大腸検査		442
	癌		277
	低栄養		54
	その他 (算定あり)		48
	その他 (算定なし)		89
	計		2169

5. 年間食事提供数 (患者給食)

食種別	総合計	うちアレルギー対応数
常食	58,666	4,572
選択食(常食・小児)	4,722	4
小児食	5,847	2,126
幼児食	2,794	217
離乳食	218	20
ミルク食	6,977	0
軟菜食	23,269	791
流動食	794	75
産婦食	11,874	1216
出産祝膳	931	101
経腸栄養	5,053	2
嚥下検査・ゼリー	610	5
ペースト食	4,356	38
つぶせる食	2,950	30
ソフト食	10,493	421
遅食(常食・流動)	25	0
アレルギー食	3,523	3,523
その他	6,816	326
小計	149,918	13,467
エネルギーコントロール食	20,734	1,354
エネルギー塩分コントロール食	13,072	455
塩分コントロール食	12,929	1,077
蛋白質コントロール食	4,003	169
脂質コントロール食	2,638	39
腸疾患食	213	10
胃食	2,120	19
遅食(治療食)	20	0
小計	55,729	3,123
合計	205,647	16,590 (8.1%)
内特別加算食数	4,728 (2.3%)	

6. 業績

【啓発・研修活動】

中村祥子.「食育と食物アレルギーへの対応」.大阪府幼稚園教諭研修 令和3年5月12日, 大阪市.

中村祥子.「大阪はびきの医療センターにおける食物アレルギー児への栄養士の関わり」.大阪市私立保育園連盟主催 令和3年9月28日, 大阪市.

7 患者総合支援センター

1. スタッフ

緒方 篤 患者総合支援センター長 (副院長)
近藤勝美 入退院支援センター長 (副看護部長)
川島佳代子 地域医療連携室長 (診療局長兼耳鼻咽喉科主任部長)
中芝広輝 患者総合相談室長 (総務・人事マネージャー)
患者相談室補佐： 看護師 3 名、事務員 2 名
秦順子 地域医療連携室マネージャー (看護師長兼務)
地域医療連携室業務：主任看護師 1 名、社会福祉士 1 名、地域クランク 3 名、事務補助 2 名
入退院支援業務：副看護師長 2 名 (外来副看護師長 1 名を含む)、看護師 5 名 (非常勤看護師 1 名を含む)、社会福祉士 2 名

2. 概要

1) 地域医療連携室

(1) 予約業務

紹介患者数は 6,083 件、病診予約患者は 4,483 件。前年度より紹介患者数は約 300 件増加、予約比率は 74.7%であった。(前年度予約率：78.2%)

羽曳野市乳がん・子宮がん検診の予約は、乳がん検診 1,383 件、子宮がん検診 1,336 件と、昨年度より 1.3 倍増加。WEB 予約システム利用割合は乳がん検診 42.3%、子宮がん検診 46.4%と利用割合が大幅に増加した。2 月よりオンラインによる外来診療および CT 検査の予約システムを導入。37 医療機関が利用登録され、5 件予約利用された。

* 資料 1 参照

(2) 地域医療機関との連携

登録医療機関は 43 件の新規登録があり、医療機関総数 259 件となった。ホームページリニューアルに伴い、研修会のお知らせやの研修会の動画を視聴できる登録医専用サイトを開設した。令和 2 年度より導入した地域連携情報システム「はびきのメディカルネット」は、28 医療機関 の利用登録となり、約 270 名の患者登録となった。

地域医療機関への広報誌としてさるーとを 1 回、地域医療連携室だよりを 9 回発行した。研修会および勉強会は「はびきのアカデミー」を 1 回 (集会形式)、「SOCC」を 2 回 (ハイブリッド)、「はびきのチャンネル」を 9 回 (Web) 開催した。

2) 入退院支援センター

院内外の連携を強化し DPC を意識した入退院支援に取り組んだ。

iPad を導入しオンラインでの介護支援連携や退院時共同指導を実施できるようにし、コロナ禍での連携強化を目指した。

(1) 入院時支援

入院時支援面談数は 1,642 件、加算算定は 1,377 件 (加算 1：352 件、加算 2：1,025 件)、算定率は 83.9%であった。加算対象とはならないが、今年度 9 月より緊急入院患者 (平日日中) の退院支援が困難となる要因のスクリーニング目的に、看護師および社会福祉士中心に支援を開始、346 件の実績となった。

(2) 退院支援

退院患者 8,751 件のうち、入退院支援加算算定件数は 4,582 件、算定率 52.4%だった。(前年度算定率 46.9%)

* 資料 2 参照

(3) 医療・福祉相談

緊急入院時のスクリーニングはじめ入院から退院まで社会福祉士が介入するケースは昨年度 3,923 件から 5,115 件と増加。高齢独居や介護者の不在、経済的困窮などソーシャルハイリスク患者の入退院支援に重要な役割連携として定着している。

* 資料 3 参照

3) 患者相談室

患者総合相談室では、患者や家族が安心して治療を受けることができるよう、治療に関する様々な相談、がんに関する相談、医療費、介護保険、各種福祉サービスに関する相談などに応じるとともに、ご意見や要望を受け付けた。

令和3年度は、前年度よりも、さらに新型コロナウイルスの感染が拡大し、新型コロナウイルスの診療・検査やワクチン接種に関する相談が多く寄せられたことから、相談等の件数は前年度に比べ約2.5倍に増加した。

*資料4参照

2. 活動実績

【資料1】令和3年度 地域医療連携室における業務報告（件数）

2021年度		紹介患者数	病診の紹介患者数	受診報告書送付件数	他院予約	セカンドオピニオン	子宮癌		乳癌		乳癌	肺癌	胃大腸癌	禁煙外来		開放病床	PET予約	他院への問い合わせ	他院からの問い合わせ	分科予約
							検診	Web予約数	検診	Web予約数	二次検診	二次検診	二次検診	紹介状無	紹介状有					
4月	今年度	738	403	527	84	0	112	42	114	37	11	2	2	0	1	0	32	68	63	47
	前年度	588	333	530	68	0	36	-	43	-	8	8	3	0	0	0	32	61	113	53
5月	今年度	622	331	554	71	0	72	16	94	13	11	0	3	0	0	0	16	76	54	52
	前年度	527	275	412	66	0	25	-	41	-	3	1	0	0	0	0	21	69	69	43
6月	今年度	837	416	626	61	1	98	40	135	56	9	0	3	0	0	0	34	75	56	62
	前年度	771	403	543	99	0	64	-	84	-	3	0	0	0	0	0	21	53	106	32
7月	今年度	751	386	555	82	0	85	33	115	38	9	6	1	0	0	0	33	58	76	56
	前年度	775	440	588	117	0	69	-	80	-	12	10	5	0	0	0	35	108	61	53
8月	今年度	746	387	515	88	0	66	25	73	28	6	5	2	0	0	0	37	88	58	47
	前年度	803	496	594	81	0	60	-	67	-	10	7	2	0	0	0	29	74	69	56
9月	今年度	743	385	515	74	0	90	37	99	42	3	0	0	0	0	0	30	67	70	53
	前年度	775	420	588	95	0	84	-	84	-	7	0	0	0	1	1	28	84	80	52
10月	今年度	766	392	519	79	0	127	54	148	57	6	0	1	0	0	0	24	68	70	54
	前年度	744	389	570	120	0	114	-	128	-	5	9	3	0	1	0	40	111	61	48
11月	今年度	780	408	536	88	2	142	56	139	50	8	4	3	0	0	0	24	46	86	43
	前年度	680	362	521	78	2	111	-	136	-	9	3	4	0	0	0	46	69	65	49
12月	今年度	763	381	483	87	1	117	48	137	54	12	5	4	0	0	0	26	77	69	56
	前年度	617	314	456	87	0	92	5	104	3	8	5	2	0	0	0	27	92	54	41
1月	今年度	584	324	376	70	0	108	60	107	52	4	3	4	0	0	0	22	74	71	51
	前年度	596	312	342	79	0	59	11	66	12	7	7	4	0	0	0	28	73	68	54
2月	今年度	563	276	350	58	0	108	66	85	46	4	1	3	0	0	0	14	58	48	45
	前年度	557	303	364	84	0	119	35	109	24	11	6	6	1	0	0	39	57	42	63
3月	今年度	729	394	481	88	0	211	144	137	88	8	6	2	0	0	0	29	38	85	57
	前年度	843	451	728	91	0	195	36	149	23	13	3	5	0	1	0	30	70	51	69
合計	今年度	8,622	4,483	6,037	930	4	1,336	621	1,383	561	91	32	28	0	1	0	321	793	806	623
	前年度	8,276	4,498	6,236	1,065	2	1,028	87	1,091	62	96	59	34	1	3	1	376	921	839	613

【資料2】退院支援に関わる各データの推移

単位：人・件）

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
退院患者数	9,330	9,209	9,838	10,311	10,256	8,527	8,751
入退院支援加算件数	3,024	2,527	2,342	2,583	2,720	3,995	4,582
介護支援連携指導件数	271	244	422	614	472	153	150
退院時共同指導件数	115	116	166	231	181	105	121
入院時支援加算件数						1,290	1,377

【資料3】令和3年度医療相談取扱件数

区分	延べ件数			実数		
	計	入院	外来	計	新規	継続
令和3年4月	443	421	22	232	182	50
5月	404	374	30	193	148	45
6月	509	474	35	285	236	49
7月	386	357	29	232	180	52
8月	543	521	22	315	257	58
9月	439	428	11	239	196	43
10月	384	355	29	201	136	65
11月	429	418	11	224	154	70
12月	399	372	27	221	149	72
令和4年1月	376	357	19	219	152	67
2月	281	274	7	153	101	52
3月	522	501	21	267	193	74
令和3年度合計	5,115	4,852	263	2,781	2,084	697
令和2年度合計	3,923	3,571	352	2,151	1,441	710

【資料4】令和3年度患者総合相談室 相談件数および相談内容

2021年度 相談件数及び相談内容														
1. 相談件数と相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談件数	2021年度	365	374	247	196	255	245	185	172	131	1187	1133	446	4936
	2020年度	151	122	115	182	282	179	177	159	174	158	144	187	2030
	2019年度	57	46	59	47	78	58	68	61	66	51	67	99	757
相談方法	電話	351	369	245	191	242	233	176	158	121	1180	1125	436	4827
	面談	14	5	2	5	13	12	9	14	10	7	8	10	109
相談件数のうち、	2021年度	11	4	6	7	8	9	6	5	4	10	9	7	86
職員からの相談	2020年度	7	2	5	6	4	4	2	5	2	6	3	3	49
相談件数のうち、	件数	96	105	62	44	120	79	38	39	29	1076	1028	214	2930
コロナに関する相談	割合（％）	26.3	28.1	25.1	22.4	47.1	32.2	20.5	22.7	22.1	90.6	90.7	48.0	59.4
相談内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談または問い合わせ		357	374	240	190	250	239	175	165	128	1183	1130	439	4870
苦情		8	0	5	5	2	5	6	6	3	4	3	5	52
謝辞		0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4
その他		0	0	0	0	3	1	4	1	0	0	0	1	10
相談内容の詳細		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診に関して		287	315	155	146	193	174	124	119	91	1125	1098	384	4211
医療・診療・看護に関して		4	1	5	2	12	9	8	6	12	11	10	16	96
入院に関して		3	1	5	4	2	7	8	6	1	10	2	1	50
社会資源に関して		1	0	0	2	2	2	1	1	1	0	0	0	10
がん相談		0	2	5	2	2	1	1	2	3	1	1	1	21
入院患者に関して		58	45	62	27	30	31	21	22	14	19	10	26	365
外来患者に関して		3	7	2	5	5	10	4	7	4	8	5	4	64
施設・設備に関して		1	0	3	1	1	2	6	2	1	3	0	2	22
接遇に関して		4	0	2	2	0	4	0	1	1	3	3	1	21
その他		4	3	8	5	8	5	12	6	3	7	4	11	76
		※がん相談は、上記の他、がん看護専門外来等において実施しています。												
2. 意見箱回収件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
意見箱回収件数〔枚〕		6	1	6	3	2	7	1	2	7	1	5	1	42
内容〔件〕	施設・設備	2	1	3(1)		1	2			2		3		14(1)
	医療・診療	2		1						1				4
	接遇	2		2	2(1)	2(1)	6	1	2	2	1(1)	2(2)	1	23(5)
	待ち時間				1									1
	給食									2				2
	その他					1								1
		※（ ）内の数値は謝辞の内訳です。一件が他の内容と重複する場合があるため、回収件数とは異なります。												
3. その他		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
総合案内での診療科相談件数		157	121	158	158	167	180	186	174	196	90	70	138	1795
ベッドコントロール件数		124	111	121	115	118	102	104	127	140	122	93	120	1397

8 医療安全管理室

1. スタッフ

氏名	役職
片岡葉子	室長 副院長（専任）
五十嵐美幸	室員 医療安全管理者（専従）
河原邦光	室員 医務局長
山本攝子	室員 看護師長
木澤成美	室員 副薬局長
田中秀磨	室員 臨床検査技師長
砂山正典	室員 放射線科副技師長
石原麻美	室員 臨床工学技士
中芝広輝	室員 事務局マネージャー

2. 委員会構成

医療安全管理委員会

院長、副院長、医務局長、診療局長、事務局長、呼吸内科主任部長、呼吸器外科主任部長、放射線科主任部長、看護部長、薬局長、医療技術部長、事務局マネージャー

医療安全推進委員会

医療安全管理者、副院長、アレルギー内科主任部長、麻酔科主任部長、乳腺外科主任部長、消化器外科副部長、循環器内科副部長、副薬局長、臨床検査技師長、診療放射線科副技師長、栄養管理主任、臨床工学技師、副看護部長、看護師長 2 名、副看護師長 3 名、主任看護師 1 名、総務サブリーダー 1 名

3. 概要

医療安全管理室は平成 18 年に配置された。専従の医療安全管理者と必要な各部門の職員を兼任で配置し医療安全推進活動を行っている。医療安全推進活動として、職場ラウンド・マニュアル改訂・情報発信・教育研修の企画運営・委員会開催などを行っており、医療安全管理委員会、医療安全推進委員会は院内の医療安全に関する組織横断的に問題解決に取り組んでいる。

また医療安全対策地域連携加算を取得するようになり近隣病院とラウンドしあい、情報交換を行っている。

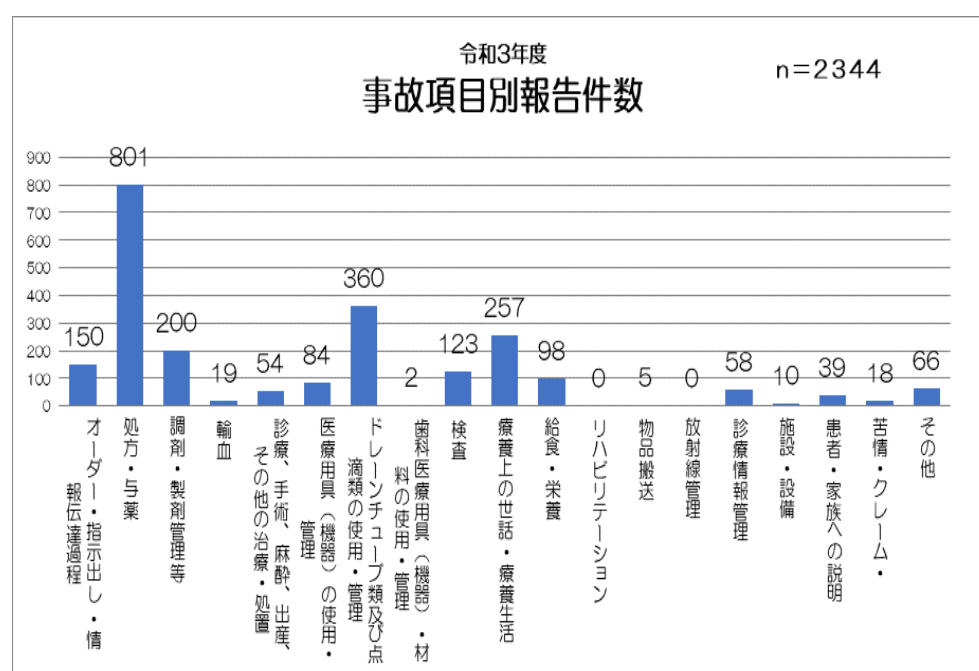
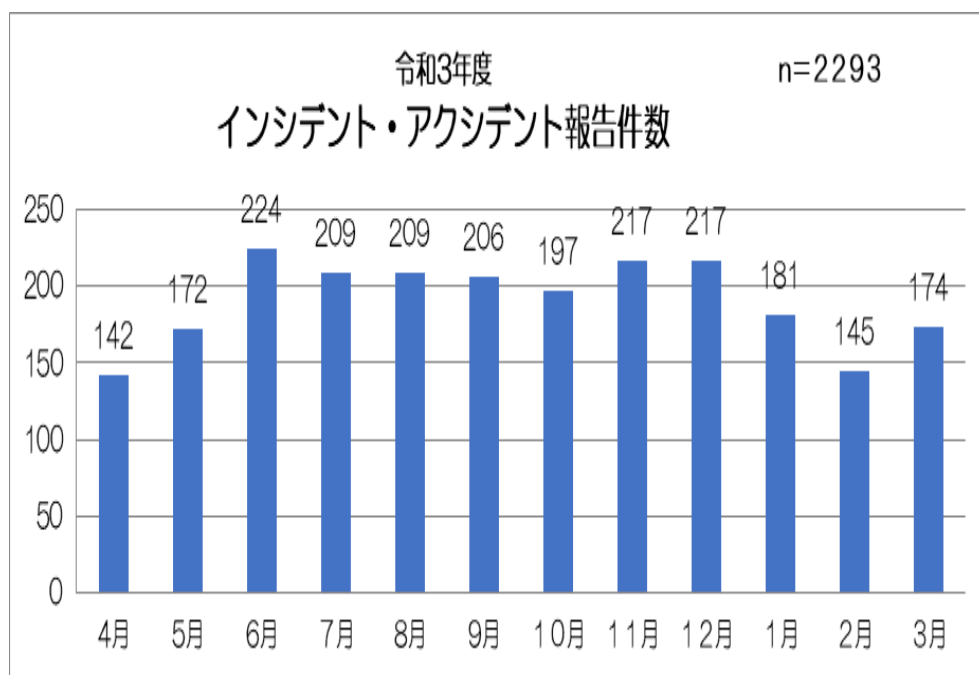
4. 活動実績

1) 各委員会活動（令和 3 年度）

活動	開催回数
医療安全管理委員会	14 回
医療安全推進委員会	12 回
医療安全担当者会（看護部）	6 回
医療安全管理室カンファレンス	60 回

2) インシデント・アクシデントレポート報告

令和3年度総計 2,280 件（内アクシデント 7 件）



3) 改善事項（令和3年度）

- ① 持参薬の管理方法の院内統一
- ② 院内の許可のない撮影・録音等にご遠慮下さいのポスター作成の統一
- ③ コロナ患者気管挿管手順作成
- ④ 入院される患者さんへのお願い用紙追加
- ⑤ 消化管造影検査に関する同意書の変更
- ⑥ 院内薬品に関する救急薬品の統一

- ⑦ 院内配合禁忌一覧について院内統一
- ⑧ 抗がん剤の同意書副作用の項目に「血管外漏出、血管炎」追加
- ⑨ 周術期の口腔ケアの対応について
- ⑩ 輸血の手順書作成 e ラーニング
- ⑪ 医療安全マニュアル 手術時の異物遺残防止対策追加
- ⑫ 車イス・ストレッチャー管理手順作成

4) 医療安全研修開催回数と参加者数（令和3年度）

	テーマ	対象者	参加人数 (名)	講師名
1	医療安全研修	新規採用者	34	医療安全管理者 五十嵐 美幸
2	B L S ・一次救命処置	全職員	468	C P R 委員会
3	新生児蘇生法講習会	医療従事者	28	大阪急性期総合医療センター 白石 淳 先生 大阪はびきの医療センター 吉田 之範 藤本 瞳
4	クイックトラック・ミニトラック	医療従事者	41	スミスメディカル
5	画像診断報告書見落とし防止に向けた個人の取り組み、組織の取り組み 【DVD 視聴研修】	医療従事者	22	大阪大学医学部附属病院 医療情報部 武田 理宏先生
6	尿道カテーテル留置導入手技	医療従事者	64	泌尿器科 大草 卓也
4	二次救命処置（A C L S）	医療従事者	76	集中治療科 柏 庸三 CPR 委員会
	二次救命処置（A C L S） DVD 視聴研修		334	
8	挿管介助について	医療従事者	368	2B 病棟看護師 川上 明子
9	挿管実技研修	医療従事者	6	麻酔科 高内 裕司
10	アイジェル実技実習	医療従事者	96	日本メディカルネクスト
11	MANNAL T60 勉強会	医療従事者	78	臨床工学技士 石原 麻美
12	放射線被ばくと線量管理 MRI 検査の安全講習	医療従事者	38	放射線科 宇賀 慎一 田邊 正伍

13	「遅れてからでは遅い！個人情報保護」について	全職員	283	大正製薬 長谷川 博紀先生 【DVD 視聴研修】
14	除細動 説明会研修	医療従事者	250	臨床工学技士 石原 麻美
15	さすまた研修会	全職員	50	羽曳野支援学校 岡田 好功先生 大隅 将悟先生
7	周術期の歯科受診について	医療従事者	50	大阪府歯科医師会理事 西原 嘉男先生
	周術期の歯科受診について DVD 視聴研修		16	
17	医療ガス	医療従事者	13	株式会社ババ株式会社 日本エアー・リキード 小池メディカル
18	5 センター合同研修 ソーリーワークス研修会 【DVD 視聴研修】	全職員	271	山梨大学医学部付属病院 特任教授 荒神 裕之先生
19	CSI 【BDVD 視聴研修】	医療従事者	156	岡田緩和ケア認定看護師
20	輸血 【DVD 視聴研修】	医療従事者	101	大阪府赤十字血液センター 下福田 淳一先生

5) 医療安全管理室からの情報発信（令和3年度）

医療安全ニュース	18 回発行
----------	--------

6) 医療安全ラウンド7回実施

7) 医療安全対策地域連携加算

- ① I－I 連携 城山病院→はびきの 2021 年 1 月 7 日実施
 はびきの→城山病院 2022 年 2 月 25 日実施
- ② I－II 連携 はびきの→しまだ病院 2021 年 11 月 5 日実施

9 感染対策室

1. スタッフ

氏名	職種	専門資格等
橋本章司	医師	日本感染症学会推薦 I C D
橋本美鈴	看護師	感染管理認定看護師
上田理絵	薬剤師	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
	(AST 専任)	日本結核・非結核性抗酸菌学会 結核・抗酸菌症認定エキスパート
岩田浩幸	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
澤井祐樹	薬剤師	日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
水口侑子	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
		日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師
和田宜久	薬剤師	日本病院薬剤師会 感染制御認定薬剤師
吉多仁子	臨床検査技師	日本臨床微生物学会認定臨床微生物検査技師
		感染症制御認定臨床微生物検査技師
		日本結核・非結核性抗酸菌学会 結核・抗酸菌症認定エキスパート
松井謹		2 級臨床微生物検査技師

2. 活動概要

I C T

院内に出入りする全ての人を対象に、感染症の発生状況を把握し、「院内感染予防活動」と「アウトブレイク等発生時の感染対策」の実働部隊となる。職員に対しては、職業感染（針刺し、結核、COVID-19、インフルエンザ等）対策と発生時の対応を行う。

また、南河内地域全体の感染対策のレベルアップの為、多施設と連携をとり情報の共有及び指導を行う。さらに南河内以外の地域に対しても、感染対策の指導、助言、相談を行う。

A S T (Antimicrobial Stewardship Team：抗菌薬適正使用支援チーム)

AMR 対策として、抗菌薬の使用を適切に管理・支援をするための実働部隊。

広域抗菌薬（VCM、MEPM、TAZ/PIPC、CFPM）使用患者、血培陽性患者、MRSA などの耐性菌検出患者などのモニタリングを行う。

週に 2 回のカンファレンスで症例検討を行い、フィードバックを行う。

また、藤井寺保健所管内の医療施設全体での、特定菌種のアンチバイオグラムを作成するにあたり、対象医療施設の指導、相談、助言を行う。

3. 活動実績

(1) サーベイランスによる当センターの現状把握

①特定微生物の検出状況と薬剤耐性状況（全部署）

南河内感染対策ネットワーク 加算 1 施設間比較の実施

②CLABSI、CAUTI：全病棟

③手指衛生状況（量的・直接観察法）：全病棟、外来、OP 室

④抗菌薬使用状況

昨年度と比較して、総 AUD1000 は増加していたが、特定抗菌薬の VCM、MEPM、の AUD は増加、TAZ/PIPC の AUD は減少した。

	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
総 AUD ₁₀₀₀	197.88	211.35	205.65	231.04
VCM	3.21	1.65	2.56	4.36
MEPM	8.04	5.33	7.12	8.05
TAZ/PIPC	19.46	16.88	14.42	13.2

- ・ 特定抗菌薬（VCM,MEPM,TAZ/PIPC）初回チェックシート文書登録率
95%(全 456 件中 432 件登録)
- ・ 広域抗菌薬を 8 日以上使用した場合に提出する、継続使用報告書提出率
93%(全 86 件中 80 件)

（２）教育

①年 2 回の必須研修

DVD 視聴も含め参加者：結核：443 人・CDI ：360 人

（３）感染対策の実践

①環境ラウンド 60 件

②AST カンファレンス

年間のべ約 581 人、約 900 件（月平均約 48 名、約 75 件）

③マニュアル改定・追加

（４）マニュアル改定

①院内感染防止マニュアル改定

（新型コロナウイルス感染症）

（５）コンサルテーション

①医師：1,200 件 他施設から約 360 件

②看護師：院内約 1,200 件以上、多施設から約 60 件以上

③薬剤師：年間約 280 件（月平均：約 23 件）

④ 臨床検査技師（細菌検査）：年間約 22,228 件（月平均：約 1,852 件）

（６）地域連携活動

①地域連携活動相互ラウンド：4 回

②地域連携合同カンファレンス：4 回

③南河内感染対策ネットワーク全体会議：1 回

④南河内感染対策ネットワーク研修会：1 回

⑤藤井寺保健所院内感染対ネットワーク会議及び研修会：2回

⑥藤井寺保健所施設内感染ネットワーク会議及び研修会：3回

4. 施設認定

第2種感染症指定医療機関

エイズ治療拠点病院

感染対策向上加算Ⅰ